## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業の目標】

基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

### 【授業計画】

1．憲法と理想
2．憲法と法律
3．憲法と憲法典
4．国民の司法参加
5．憲法の最高法規性
6．憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 民主主義と人権

初谷良彦

### 【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業の目標】

政治変動のなかで、民主主義、人権保障などのあり方を基本に立ち返って再考する必要がある。そのためにも、これまで当たり前に思っていた概念が実は複雑な歴史的背景や驚くべき理念をはらんでいることを学ぶ。

### 【授業計画】

第１回　民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
第２回　近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
第３回　現代民主主義の問題点
第４回　国家の正統性について
第５回　国家と社会契約の思想
第６回　議会制民主主義の歴史
第７回　議院内閣制と大統領制
第８回　多数決原理と民主主義
第９回　民主主義と選挙制度
第10回　現代の民主主義体制
第11回　人権総論
第12回　人間の尊厳と人権
第13回　障害者の国務請求権
第14回　少数者の人権
第15回　平等権

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

概説　デモクラシーと国家（初谷良彦他　成文堂）

### 【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかり学んで欲しいと願っている。

### 【授業計画】

第１回　近代国家と憲法
第２回　日本国憲法制定の経緯
第３回　日本国憲法の基本原理
第４回　人権の歴史
第５回　人権の内容・享有主体
第６回　人権規定の効力
第７回　生命・自由・幸福追求権
第８回　法の下の平等
第９回　信教の自由と政教分離
第10回　表現の自由
第11回　人身の自由と刑事手続
第12回　国会
第13回　内閣
第14回　司法制度
第15回　地方自治

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第２版）（初谷良彦著　成文堂）

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 民主主義と人権

本 秀紀

### 【授業の概要】

日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業の目標】

「民主主義と人権」をめぐる新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

### 【授業計画】

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目からいくつかを選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる（ちなみに2005年度は、「本編」として、性同一性障害、過労死、育児休業、ドメスティック・ヴァイオレンスなどを、「番外編」として、首相の靖国参拝、旧植民地ハンセン病補償訴訟、ビラ配り逮捕と表現の自由、憲法改正問題などを取り上げた）。

1　はじめに：「民主主義と人権」って?
2　個人の尊重と人権：性同一性障害、同性愛、個人情報保護
3　企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
4　女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
5　マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
6　子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
7　医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
8　外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
9　平和と人権・民主主義：米軍再編と自衛隊の海外出動、憲法改正
10　ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
11　政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

### 【評価方法】

学期末の筆記試験を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

### 【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第３版〕（川人博編著　日本評論社　2004年）
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第４版〕（上田正昭編　明石書店　2004年）
それぞれの人権〔第２版補訂〕（憲法教育研究会編　法律文化社　2005年）
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

## 哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】
東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業の目標】
1．自然観を考えることがなぜ人間を考えることになるのかを理解し自分の言葉で表現できるようになる。
2．機械論的自然観と有機体的自然観の違いを理解し自分の言葉で表現できるようになる。

【授業計画】
今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために利用し破壊し続けて来た結果生じている問題である。自然への関わり方の根底には「自然観」（＝自然の全体的な捉え方）が横たわっている。そうした自然観には人間の生き方が反映されている。したがって、自然との関わり方およびその根底にある自然観を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。今では近代的・自然科学的な自然観が圧倒的にわれわれの生活を支配しているが、西洋哲学の歴史を繙けばそれに対立する自然観が脈々と流れていることが分かる。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方＝人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1．なぜ自然の哲学か
2．神話的自然観－ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり－
3．ソクラテス以前の自然哲学－タレスからアナクサゴラスまで－
4．ソフィストとソクラテス・プラトン
5．アリストテレス
6．デカルト
7．ロマン主義的自然観
8．進化論的自然観
9．カントの美的自然観

【評価方法】
学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
西洋哲学史　上・下（シュヴェーグラー　岩波文庫）
西洋哲学史（岩崎武雄　有斐閣）
哲学の原風景（荻野弘之　NHKライブラリー）
野生の歌が聞こえる（レオポルド　講談社学術文庫）
エマソン論文集　上（エマソン　岩波文庫）

## 現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】
民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】
近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】
科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなトピックスを１回または２回の授業で順に取り上げていく。

1．倫理的視点から見た現代の社会問題
2．倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3．倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4．社会の安全性と科学技術者の責任（クローン技術はどのように応用されるべきか?）
5．環境倫理学の主張（自然保護は何をめざしているのか?）
6．インターネット時代の倫理（知的財産は誰のものか?）
7．内部告発と社会の浄化（内部告発は行なうべきか?）

【評価方法】
小レポート（３、４回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】
入門講義　倫理学の視座（新田孝彦著　世界思想社）
先端技術と人間　21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著　NHKライブラリー）
科学技術社会論の技法（藤垣裕子著　東京大学出版会）

## ジェンダーと社会Ⅰ

國信潤子　星山幸子　佐藤 光　林かぐみ　生江 明

【授業の概要】
この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。５名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。
持続可能な開発、基本的生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

【授業の目標】
地球規模で格差拡大の見られる先進国と開発途上国の資源分配について考え、その是正を現場での体験をもとに、ジェンダーに敏感な視点で考えられるようになること。

【授業計画】
まず、本講座のコーディネーターである國信（本学教授）がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明（日本福祉大学教授）による開発事業の現場からみえる各種統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子（金城学院大学講師）によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。（星山講師は後期のみ）第四番目の講師はアジア保健研修所（AHI）の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介する。
各講師が３・４回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

【評価方法】
期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

【テキスト】
資料配布

【参考文献・資料】
開発とジェンダー（田中他　国際開発事業団出版刊　2001年）
ジェンダーと開発論の形成と展開：経済学のジェンダー化の試み（未来社　松村安子著　2005年）

## ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸　山下智恵子

【授業の概要】
ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、＜女/男＞の規範がどのようにテクストにおりこまれているかを読み解き、さらにテクストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。
（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。
（山下智恵子兼任講師）　現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業の目標】
文学を始めとして「表現」を分析する能力を高めることで、身近な社会にさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】
第１回　講義の概要
第２回　幼い頃に出会った表現
第３回　教科書のなかのジェンダー
第４回　映画のなかのジェンダー
第５回　＜ことば＞とジェンダー
第６回　男性作家のジェンダー
第７回　【山下智恵子先生担当】
第８回　【山下智恵子先生担当】
第９回　表現する女性の困難
第10回　『青鞜』の女たち
第11回　＜娘＞の表現
第12回　＜母＞の表現
第13回　＜家族像＞を描きなおす
第14回　まとめ

＊第７回、第８回以外は中島美幸担当。

【評価方法】
出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】
なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】
講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

中島美幸

### 【授業の概要】
男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

### 【授業の目標】
男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

### 【授業計画】
第１回　講義概要説明
第２回　恋愛と結婚
第３回　母になるということ、父になるということ
第４回　リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
第５回　暴力の根絶
第６回　「男らしさ」からの解放
第７回　女性と労働
第８回　男性と労働
第９回　性別分業の歴史と将来
第10回　男女をめぐる国際比較
第11回　作られる「女らしさ」「男らしさ」
第12回　女性学・男性学の誕生
第13回　多様性とエンパワーメント
第14回　テスト

### 【評価方法】
毎回の授業の感想と学期末テストで総合的に評価する。

### 【テキスト】
なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】
講義の中でその都度紹介する。

## 大衆文化論

鈴木 亙

### 【授業の概要】
大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代がどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

### 【授業の目標】
消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

### 【授業計画】
1　戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
1：1　団塊の世代（1965～1975）
1：2　新人類（1980年代）
1：3　団塊ジュニア（1990年代）
1：4　新人類ジュニア（2005～2015）

2　大衆文化を支える消費社会を分析する
2：1　現状認識
2：2『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
2：3　人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）

3　モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

### 【評価方法】
出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

### 【テキスト】
使用しない。

### 【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指示する。

## 女性学・男性学

竹信三恵子

### 【授業の概要】
少子化時代に向けて不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

### 【授業の目標】
ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

### 【授業計画】
新聞記事、ビデオを多数使って、以下の４点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。
1．戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
2．ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
3．正社員の減少と成果主義など不安定な働き方の増加と少子化～95年の新日本型経営と雇用不安
4．仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

### 【評価方法】
出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

### 【テキスト】
『家事の値段』とは何か（久場嬉子・竹信三恵子著　岩波ブックレット　1999年）

### 【参考文献・資料】
ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著　現代書館　1996年）、ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著　岩波書店　2002年）

## 暮らしの法律

辻田芳幸

### 【授業の概要】
私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大儲けした場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

### 【授業の目標】
日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、解決の糸口を掴めるようにしたい。

### 【授業計画】
第１回　導入（情報社会と知的財産・契約）
第２回　特許というシステム
第３回　著作権というシステム
第４回　Webへの写真掲載と肖像権
第５回　インターネット上の名誉毀損
第６回　オンラインショッピングと契約法
第７回　オンラインショッピングと契約法
第８回　インターネット犯罪
第９回　著作権ビジネス
第10～12回　その他の問題点

### 【評価方法】
出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 文化人類学

三木 誠

### 【授業の概要】
人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

### 【授業の目標】
人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

### 【授業計画】
以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 独特の民族文化
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

### 【評価方法】
定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

### 【テキスト】
指定せず。

### 【参考文献・資料】
興味を持った学生にはそのつど指示する。

## 比較文化論

文 嬉眞

### 【授業の概要】
国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

### 【授業の目標】
外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

### 【授業計画】
本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

### 【評価方法】
1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

### 【テキスト】
講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

### 【参考文献・資料】
授業中に指示する。

全教養

## 比較文化論

星山幸子

### 【授業の概要】
国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

### 【授業の目標】
私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

### 【授業計画】
1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. ナショナリズムと文化
5. イスラームの文化
6. イスラームとジェンダー
7. トルコの農村の暮らしと文化
8. 南北問題とモノの国際化
9. 食の文化
10. グローバル化とローカル化
11. 異文化交流

### 【評価方法】
出席、授業中の提出物、討論と質疑応答　20%
期末試験　30%
期末レポート　50%

### 【テキスト】
テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】
授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

## 国際政治論

瀬戸裕之

### 【授業の概要】
国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

### 【授業の目標】
国際関係の基本概念や歴史的展開を理解するとともに、戦争と平和の問題を日本との関係も含めて理解すること。

### 【授業計画】
1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 国連の安全保障体制
6. 地域紛争とテロリズム
7. アジアにおける日本の戦争
8. 戦後日本と安全保障
9. アジアと日本の国際協力

### 【評価方法】
成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】
テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】
国際関係学講義　新版（原彬久編　有斐閣）

## 国際交流論

松本一子

### 【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

### 【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

### 【授業計画】

1．国際交流とは
2．国際交流の歴史
3．国際交流活動の現状
・自治体と国際交流
・地域の国際化と多文化共生
・地球市民教育
・ネットワークの形成と活用
4．実践国際交流
・先進的組織運営のさまざまな事例

### 【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

### 【テキスト】

オリジナル教材

### 【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著　明石書店　2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著　明石書店　2004年）

## 初めての外国語２（フランス語）

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

### 【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、日本語と英語と比較しながら、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。

### 【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

プリント

## 初めての外国語１（ドイツ語）

藤井たぎる

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

### 【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。
学習する主な項目は、以下のとおりです。
（1）自己紹介、他人の紹介の練習
（2）数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
（3）冠詞の用法と表現練習
（4）名詞・人称代名詞の用法と表現練習
（5）動詞・助動詞の用法と表現練習
その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。
また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

### 【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 初めての外国語３（ロシア語）

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業の目標】

1．キリル文字の読み方の習得
2．名詞の性、形容詞の基本変化の理解
3．日常会話基礎表現の習得

### 【授業計画】

みなさん、知っていますか?日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです!「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか?映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしていてくださいね。
初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び（?）ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人!
辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。
a．キリル文字と発音
b．大きな声であいさつしよう
c．買い物に行ってみよう
d．乗り物に乗ろう
f．おなかがすいたら…
g．自分について話してみよう

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

## 初めての外国語４（スペイン語）

木下まりあ

### 【授業の概要】

「初めての外国語４（スペイン語）」は、スペイン語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

### 【授業の目標】

・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
・世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、認識を深める。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1．スペイン語とスペイン語圏の世界
2．スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3．挨拶、自己紹介の仕方
4．名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5．形容詞（性数の一致）
6．人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7．数詞と時刻の表現
8．スペイン語の手紙の書き方
9．旅行に役立つスペイン語会話
10．まとめ

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

### 【テキスト】

授業中に指示。

全教養

## 日本と外国の歴史２（郷土）

秦 達之

### 【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げる。

### 【授業の目標】

受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

### 【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたい。

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車（だし）」「渡辺崋山とその周辺」「戦争と女性」「モルフィと廃娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」「尾張藩草莽（そうもう）隊」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてヴィデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている（受講者もぜひご協力を）。

### 【評価方法】

出席状況（特に厳しいので注意！）と単位認定試験の成績などによる。

### 【参考文献・資料】

愛知県の百年（塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著　山川出版社）
愛知県の歴史（三鬼清一郎編　山川出版社）
東海・近代へのまなざし（都築亨・大嶋光義編　中部日本教育文化会）

## 日本と外国の歴史１（日本）

岩口和正

### 【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

### 【授業の目標】

（1）人間の歴史が日々のたえまない暮らしの中からつくられることを理解すること
（2）家族や親族をめぐりあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
（3）歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

### 【授業計画】

（1）氏・名字・姓の歴史
（2）戸と戸籍
（3）イエとヤケ
（4）イエの成立と展開１　貴族社会とイエ
（5）イエの成立と展開２　開発領主とイエ
（6）家族と親族<日本の親族体系の特徴>
（7）婚姻と家族・親族の諸形態１<妻問婚の特徴>
（8）婚姻と家族・親族の諸形態２<婿取婚と嫁取婚の成立>
（9）前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
（10）明治民法の成立と日本近代の「家制度」

### 【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

### 【テキスト】

使用しません

### 【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

## 日本と外国の歴史３（東洋）

土屋 洋

### 【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

### 【授業の目標】

たんに通史を学ぶというだけではなく、「日本」にいる我々が「アジア」ないし「中国」の歴史を学ぶとはどういうことなのかを考えたい。「アジア」の歴史への接し方を理解することが目標となる。

### 【授業計画】

1．期間計画指示・授業内容の説明
2．歴史学とは何か?：歴史リテラシーを身につけよう
3．「アジア」を考えるということ（1）
4．「アジア」を考えるということ（2）
5．「中国」の歴史を学ぶとは?
6．中国近現代史への眼差し：歴史観の諸相
7．中国の〈近代〉：「中国」の創生
8．中国の〈近代〉と日本
9．近代日本の中国観
10．日中戦争を考える：特に南京事件をめぐって
11．現代中国と日本：歴史認識問題をめぐって
12．現代中国を考える：特に中国の「民主」をめぐって
13．21世紀の日本、中国、東アジア

### 【評価方法】

中間レポートと期末テスト（人数によってはレポート）、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

### 【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に提示する。

## 日本と外国の歴史４（西洋）

北村陽子

【授業の概要】
ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心にした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】
他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

【授業計画】
1．はじめに－国民国家とは何か
2．近代国民アイデンティティ形成の前段階
（1）「個人」の覚醒：ルネサンス
（2）「他者」の認識：大航海時代
（3）普遍性の否定：宗教改革
3．イギリスの国民国家
（1）イギリス国教会の成立と絶対主義国家
（2）二つの市民革命－「イングランド」から「イギリス」へ
（3）パクス・ブリタニカ－ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4．アメリカ合衆国の国民国家
（1）対イギリス独立革命
（2）フロンティア開拓時代の「他者」認識
（3）奴隷制と南北戦争
5．フランスの国民国家
（1）ルイ14世治下における絶対主義の確立
（2）フランス革命とナポレオン
（3）「国民」の創出－「単一にして不可分のフランス」成立
6．ドイツの国民国家
（1）三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
（2）対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
（3）ビスマルクによる「ドイツ」統一
7．おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】
成績評価は、出席と学期末テストにより綜合的に行う。

【テキスト】
とくに定めない。

【参考文献・資料】
○国民国家とナショナリズム（谷川稔　山川出版社）
○国民国家を問う（歴史学研究会編　青木書店）
その他講義中に指示する。

## 東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】
日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】
中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことは目標とする。

【授業計画】
1．中国の民族構成
2．儒・仏・道とは
3．中国の年中行事
4．医食同源食文化
5．東西医学の比較
6．気文化と気功術
7．飲茶文化と歴史
8．伝統武術と映画
9．少数民族の音楽
10．少数民族の服装
11．中国人の百家姓
12．中国の名勝物語
13．中国人の考え方

【評価方法】
出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
中国人・文字・暮らし（李順然　東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇　河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興　河北大学出版社）

## 地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】
現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果す役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】
今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】
1　イントロダクション
2　地域社会の歴史と構造１
3　地域社会の歴史と構造２
4　地域社会の歴史と構造３
5　地方分権とコミュニティ１
6　地方分権とコミュニティ２
7　コミュニティとネットワーキング１
8　コミュニティとネットワーキング２
9　コミュニティ活動の実践例１
10　コミュニティ活動の実践例２
12　まとめ

【評価方法】
定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

## ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】
会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。
“Free, Fair, Global”の３つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的実例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。
第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について学習します。
（Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。）

【授業の目標】
専門分野を問わず、大学生として理解しておくべき経済社会のパラダイムシフトを感覚的にも理論的にも理解出来るレベルを目指す。

【授業計画】
第１講　Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
第２講　企業活動の環境変化～
第３講　～　Free, Fair、Global－規制緩和と自己責任
第４講　制度変革と企業活動～
第５講　～　企業を取り巻く社会システムの変化
第６講　～　商法改正、環境、人口減少社会と労働市場、など
第７講　金融・資本市場の進化とFinancial Literacy
第８講　市場（金融・株式・外国為替マーケット）について
第９講　企業の組織
第10講　ビジネスとは何か？　（その法的要件）
第11講　会社とは何か？　（その法的要件）
第12講　組織の分解と再編（ITと生産性）、財務の重要性
第13講　企業のマネジメント

【評価方法】
学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反映させない）

【テキスト】
「ビジネスの世界」（伊藤義明著　栄進堂書店）

【参考文献・資料】
特になし、新聞を読むことが望ましい。

## 健康とくすり

永井愼一

【授業の概要】
現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業の目標】
病気は、主に生体内の受容体や酵素が過剰に反応するために発症し、くすりの多くは、これらの過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ。

【授業計画】
第１回　受講生に、全授業で学ぶ内容をまとめた［病気とくすりについて］の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
第２～３回　くすりの基礎知識として、投与法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など２回にわたり解説
第４回　くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
第５～６回　近年発売されたピルなど、医師の処方を必要とする生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）と医者が処方する医療用医薬品を薬効別に解説
第７回　頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
第８回　アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
第９回　病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
第10～12回　生活習慣病のがん、糖尿病などをはじめ、エイズの発症原因とくすりが効くしくみを解説

【評価方法】
レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】
プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】
多数あるので、初回授業で紹介する。

全教養

## メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】
今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。
心の病は少年期や青年期など世代に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業の目標】
心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】
概論：第１回　心の病：その歴史
第２回　精神症状のとらえ方
第３回　精神障害の種類と分類
第４回　ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：第５回　青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第６回　気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第７回　ストレスとその反応：神経症と心身症
第８回　やまらない、止まらない：薬物依存
第９回　眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第10回　大人とは異なる児童・小児の障害
第11回　老人と高齢者の病：器質性障害
総論：第12回　病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第13～14回　心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第15回　期末試験

【評価方法】
おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】
改定　大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編　岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】
精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著　医学書院）
図解雑学　心の病と精神医学（景山任佐著　ナツメ社）

## メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】
複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】
心の問題について、大学生の教養として必要と思われるレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】
1．心の構造～心をどう捉えるか？
2．心の発達
3．脳と心
4．心の病とは？
5．心の病のいろいろ
6．ストレスのメカニズムとコーピング

【評価方法】
出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
なし。プリント配布。

【参考文献・資料】
講義初日に紹介する。

## ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】
人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】
ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】
1．ライフサイクルと健康とは
2．姿勢
3．プロポーション（理想と現実）
4．肥満とやせ
5．隠れ肥満
6．骨密度・体脂肪測定
7．自分のからだを判定しよう
8．体脂肪を正しく落とす方法
9．筋肉と運動神経
10．健康づくりのための運動
11．Walking
12．性への理解
13．学生生活と健康

【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

## スポーツ科学

杉山 和　山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　丸山治美

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・金曜日を除いて、半期間に２種目を行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 月曜日 | ２限 | 杉山 | バドミントン・卓球 |
| | ３限 | 杉山 | バレーボール・卓球 |
| | ４限 | 杉山 | バレーボール・卓球 |
| 火曜日 | ２限 | 杉山 | バレーボール・卓球 |
| | ３限 | 山本 | 卓球・バレーボール |
| | ４限 | 山本 | 卓球・バレーボール |
| 水曜日 | １限 | 門間 | バドミントン・卓球 |
| | ２限 | 門間 | バドミントン・卓球 |
| | ３限 | 門間 | バレーボール・バスケットボール |
| | ４限 | 門間 | バレーボール・バスケットボール |
| 木曜日 | １限 | 寺田 | バドミントン・卓球 |
| | ２限 | 寺田 | スキルトレーニング・バドミントン |
| | ３限 | 山本 | 卓球・バレーボール |
| | ４限 | 山本 | 卓球・バレーボール |
| 金曜日 | ２限 | 松田 | バドミントン |
| | ３限 | 松田 | バドミントン |
| | ３限 | 丸山 | エアロビクス＆フィットネス |
| | ４限 | 松田 | バドミントン |
| | ４限 | 丸山 | エアロビクス＆フィットネス |

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

杉山 和

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（月曜２限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8．ミニゲーム

〔バレーボール〕（月曜３限前半・月曜４限前半・火曜２限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7．ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

〔卓球〕（月曜２限後半・月曜３限後半・月曜４限後半・火曜２限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7．ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

山本啓子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕（火曜３限前半・火曜４限前半・木曜３限前半・木曜４限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7．ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕（火曜３限後半・火曜４限後半・木曜３限後半・木曜４限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7．ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（金曜２限・金曜３限・金曜４限）
1．ガイダンス
2．記録への挑戦（打ち続けよう）
3．歴史的ゲームの追体験
4．用具の特徴（貴重な水鳥の羽根）
5．フォーム作り（格好良いフォームで打とう）
6．攻撃的なショット（初速はどれくらい?）
7．守備的なショット
8．基本の戦術
9．ダブルスのフォーメーション
10．世界のバドミントンプレーヤーを観よう（VTR）
11．ゲームの特徴（心拍数、運動強度はどれくらい?）
12．ゲームのルールとマナーを身につけよう
13．ハーフコート・ミニゲーム
14．ダブルスゲーム
15．スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

門間 博

### 【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（水曜１限前半・水曜２限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～7．ミニゲーム

〔卓球〕（水曜１限後半・水曜２限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7．ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕（水曜３限前半・水曜４限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7．ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

〔バスケットボール〕（水曜３限後半・水曜４限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる
3.　基本的な個人技能の確認
4.　チームでの基本的な練習
5.　ルールとマナーを身につける
6～7．ゲーム・スキルテスト

### 【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

寺田邦昭

### 【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（木曜１限前半・木曜２限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8．シングルスゲーム・ダブルスゲーム（スコア記録）

〔卓球〕（木曜１限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5～7．シングルスゲーム・ダブルスゲーム（スコア記録）

〔スキルトレーニング〕（木曜２限前半）
オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1.　ガイダンス
2～4．主にアウトドア種目（フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー）等を用いての動き作り
5～8．主にインドア種目（卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール）等を用いての動き作り

### 【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

## スポーツ科学

丸山治美

### 【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

### 【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・この授業では、1．エアロビクスの特性・効果を理解する　2．エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう　3．自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る　の３点を目標に行う。

〔エアロビクス＆フィットネス〕（金曜３限・金曜４限）
1.　ガイダンス
2.　エアロビクスとは何か　その理論と特性
3.　目標心拍数の設定と主観的運動強度
4.　筋力トレーニング　筋肉と骨格
5～6．ボールを使って
7.　体脂肪
8.　ウェイトコントロール
9.　骨を強くする
10～15．エアロビック ダンス パフォーマンス
動きづくり練習　発表・相互評価

### 【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和　山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　蛭田秀一

### 【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 月曜日 | ２限 | 杉山 | バレーボール |
| | ３限 | 杉山 | バドミントン |
| | ４限 | 杉山 | バドミントン |
| 火曜日 | ２限 | 杉山 | バレーボール |
| | ３限 | 山本 | バドミントン |
| | ４限 | 山本 | バドミントン |
| 水曜日 | １限 | 門間 | テニス |
| | ２限 | 門間 | テニス |
| | ３限 | 門間 | テニス |
| | ４限 | 門間 | テニス |
| 木曜日 | １限 | 寺田 | バドミントン |
| | ２限 | 寺田 | ニュースポーツ |
| | ３限 | 山本 | バドミントン |
| | ４限 | 山本 | バドミントン |
| 金曜日 | １限 | 蛭田 | 卓球 |
| | ２限 | 松田 | テニス・ニュースポーツ |
| | ２限 | 蛭田 | 卓球 |
| | ３限 | 松田 | テニス・ニュースポーツ |
| | ４限 | 松田 | テニス・ニュースポーツ |

### 【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕（月曜２限・火曜２限）

1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3.　サーブの種類と打ち方
4～6.　パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕（月曜３限・月曜４限）

1.　ガイダンス、競技の概略
2～3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

山本啓子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（火曜３限・火曜４限・木曜３限・木曜４限）

1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

松田秀子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕（金曜２限前半・金曜３限前半・金曜４限前半）

1.　ガイダンス
2.　ラケットとボールに慣れる
3.　ボールをコントロールする
4.　サービスを練習する
5.　ルールとマナーを身につける
6～8.　ミニゲーム・スキルテスト

〔ニュースポーツ〕（金曜２限後半・金曜３限後半・金曜４限後半）

1.　ガイダンス
2～8.　ユニホッケー
　　ペタンク
　　ソフトバレーボール
　　ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

門間 博

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

### 【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3.　グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4.　グランドストローク（バックハンドを中心に）
5.　サービス、レシーブ
6.　ボレー、スマッシュ
7.　ゲームの進め方、ルールとマナー
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム、スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・ニュースポーツについて、２～８週までのうち雨天の場合には９～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕（木曜１限）
1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム
〔ニュースポーツ〕（木曜２限）
1.　ガイダンス
2～3.　フライングディスク
4～6.　ペタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
7～10.　アーチェリー、インディアカ、ミニテニス
11～14.　ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
15.　グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

蛭田秀一

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
〔卓球〕（金曜１限・金曜２限）
1.　ガイダンス
2.　用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
3～6.　卓球における各種基本打法の説明と学習（ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど）、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
7～11.　シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
12～13.　一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14.　実技テスト、まとめ
上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

## ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】
ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業の目標】
様々な困難・不平等が存在する現代社会で実践されているボランティア活動を学び、ボランティアが社会を、そして自らを変えることを理解する。

【授業計画】
1．ボランティアの思想
2．イギリスのボランティア
3．アメリカのボランティア（1）
4．アメリカのボランティア（2）
5．アメリカのボランティア（3）
6．日本のボランティアの変遷
7．特定非営利活動促進法（NPO法）
8．日本のボランティア活動（1）災害とボランティア
9．日本のボランティア活動（2）高齢者とボランティア
10．日本のボランティア活動（3）障害者とボランティア
11．日本のボランティア活動（4）難民とボランティア
12．日本のボランティア活動（5）開発とボランティア
13．ボランティアの課題
ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】
出席、授業中の提出物　30%。
期末レポート　70%。

【テキスト】
使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】
○ボランティア学を学ぶ人のために（内海成治他編　世界思想社）
○フィランソロピーの思想：NPOとボランティア
（林雄二郎他　日本経済評論社）他

## 手話・点字

堀 正和

【授業の概要】
手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】
手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】
1．視覚障害概要
2．視覚障害者のコミュニケーション方法
3．点字の概要
4．点字演習
5．聴覚障害概要
6．聴覚障害者のコミュニケーション方法
7．手話の概要
8．手話演習

【評価方法】
点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】
点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

## スポーツ文化論

松田秀子

### 【授業の概要】
スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業の目標】
スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】
1．スポーツは遊びから出発する
2．スポーツは技能を追究する
3．スポーツは競争と協力の両面をもつ
4．スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5．スポーツは自己実現を志向させる
6．スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7．スポーツには富と閑暇が関係する
8．スポーツには教育が関係する
9．スポーツには政治が関係する
10．スポーツには科学が関係する
11．スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
12．スポーツには民族性が反映される
13．スポーツには商業主義がつきまとう
14．スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
15．スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

### 【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】
使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

## 人類と宇宙

安野志津子

### 【授業の概要】
宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

### 【授業の目標】
学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

### 【授業計画】
―地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために―
1．宇宙観の変遷
2．宇宙を観測する手段
3．太陽系を探る
4．星の世界
5．銀河から宇宙へ
6．宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

### 【評価方法】
基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

### 【テキスト】
使用しない。

### 【参考文献・資料】
（1）宇宙論のすべて（池内了　新書館）
（2）星と宇宙の物理学読本（並木雅俊　丸善）
（3）見えてきた宇宙の神秘（野本陽代　草思社）
（4）太陽　―その素顔と地球環境との関わり―（ケネス.R.ラング著　渡辺尭・桜井邦朋訳　シュプリンガー・フェアラーク東京）

## 生き物の世界

服部一三

### 【授業の概要】
地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業の目標】
地球という太陽系第３惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

### 【授業計画】
第１回　1．生物界の分類
　　2．生物の進化
第２－６回　3．植物と人の関わり
　　1）農耕の始まり
　　2）世界の農耕文化
　　3）日本農耕文化の起源と発展
　　4．人が手を加えた植物一作物
　　1）作物とは?
　　2）世界の作物の起源
第７－８回　5．作物改良の原理と方法
　　1）作物改良の原理
　　（1）メンデルの法則一遺伝学
第９回　　（2）遺伝の物質的基礎
第10回　　2）作物の改良方法
第11－12回　6．バイオテクノロジー
　　1）バイオテクノロジーとは?
　　2）作物の改良とバイオテクノロジー
　　（1）細胞・組織培養
　　（2）遺伝子操作
　　（3）バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
　　（1）倫理
　　（2）安全性

### 【評価方法】
受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】
下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著　開成出版）

## 生命の科学

林博司

### 【授業の概要】
生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

### 【授業の目標】
生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

### 【授業計画】
1．命の惑星地球
2．命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3．命を支える器官
4．器官を作る細胞。
5．細胞の仕組み
6．分子機械としての生命
7．分子機械の設計図：遺伝子
8．遺伝子の働き
9．遺伝子を操作する
10．細胞を操作する
11．器官を操作する
12．遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

### 【評価方法】
出席点と小テストの得点で総合的に評価する

### 【テキスト】
指定しない

### 【参考文献・資料】
講義中に適宜触れる

## 環境保護論

田部一史

【授業の概要】
現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】
1．さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2．環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3．人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】
第1講　序論：自然に学ぶ
第2講　森林破壊：森はいのちの母である
第3講　砂漠化：人為による沙漠の拡大
第4講　地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した地球の異常
第5講　大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
第6講　フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
第7講　いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
第8講　いのちのしくみ2・個体レベル：ホメオスタシスと生体防御
第9講　環境汚染とがん：自然が想定しなかった物質の氾濫
第10講　環境ホルモン：内分泌攪乱物質はいのちのつながりを絶つ
第11講　生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
第12講　生命の多様性：人の手による大量絶滅
第13講　美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】
出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。（出席20%、レポート30%、試験50%）

【テキスト】
使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

## 食品の科学

千葉善根

【授業の概要】
基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】
日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

【授業計画】
1．現代食生活の問題点
　食生活の変化と食糧資源について。
2．糖質と食品
　デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3．たんぱく質と食品
　変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4．脂質と食品
　脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5．無機質と食品
　骨粗鬆症等。
6．ビタミン
　食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7．発酵食品
　食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】
定期試験にて評価。

【テキスト】
使用しない（プリント配布）。

全教養

## 暮らしの化学

永井愼一

【授業の概要】
私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】
身じかな物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき化学構造式を眺めながら理解を深める。

【授業計画】
生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学などの分野からトピックスをとりあげ、図やイラストを多用して、これはなぜ？どうして？という［素朴な疑問］に答える。またテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶとともに、病院・診療所でうける最先端医療についても紹介する。

【評価方法】
レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】
毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】
多数あるので、初回授業で紹介。

## 暮らしの化学

佐藤成哉

【授業の概要】
日常生活の中には、身近に目にしていながらつい見過ごしてしまっているさまざまな現象が溢れている。それらを探しだし、化学の目で見つめ直して、暮らしを支える知恵としての「役立つ化学」についての講義をクイズや簡単な実験を交えながら行う。

【授業の目標】
日頃、我々が目にする現象は、教科科目の項目に分けられない総合的なものである。そのさまざまな現象の中に見つけた「なぜ?」「どうして?」を糸口に広くサイエンスの世界に触れ、知的な楽しさ・おもしろさを通して化学(科学)の目を養う。

【授業計画】
1．キッチンの化学
2．リビングの化学
3．バスルームの化学
4．玄関の化学
5．ガーデンの化学
6．環境の化学
一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問や感想および身近な疑問などを適宜出してもらい、授業に反映したい。

【評価方法】
定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。適宜資料などを配付する。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

## 文学１（日本）

堀尾幸平

### 【授業の概要】
日本の文学史について概説し、日本文学の特色や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】
1．文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2．日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

### 【授業計画】
1．文学とは何か
2．明治期の文学
3．坪内逍遥．二葉亭四迷
4．三輪弘忠．巌谷小波
5．大正期の文学
6．小川未明．鈴木三重吉
7．千葉省三．浜田廣介
8．少年詩．童謡．金子みすゞ
9．昭和期の文学
10．佐藤紅緑．江戸川乱歩
11．宮澤賢治
12．新美南吉．坪田譲治
13．平成期の文学
14．創作方法理論
15．試験

### 【評価方法】
定期試験．レポート．出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】
新日本児童文学論（堀尾幸平著　中日文化　2,200円）

### 【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

## 文学２（中国）

寺尾 剛

### 【授業の概要】
中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

### 【授業の目標】
中国の歴史と文学に関心を持つ。今後独自に読んでいく際の読み方のコツをつかむ。

### 【授業計画】
毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。
1．男装の麗人・木蘭の物語
2．和蕃公主・王昭君の物語
3．亡国の美女・西施の物語
4．万里の長城秘話・孟姜女の物語
5．詩仙李白と酒の歌
6．詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7．南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8．中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9．『封神演義』～中国小説の世界
10．中国の笑い話～下ネタは下品か?
11．『論語』の世界～孔子、人生を語る
など。ただし、上記の全てを講義しきれるとは限らず、また、この順序通りに進めるとは限らない。
受講生の反応、あるいは要望に従って内容を変更する可能性もあることをお断りしておく。

### 【評価方法】
出席、平常点と試験。

### 【テキスト】
プリント

### 【参考文献・資料】
教場で指示する。

## 現代の芸術１（書道）

森美恵子

### 【授業の概要】
現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

### 【授業の目標】
すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

### 【授業計画】
楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】
授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】
書の鑑賞と学び方（上田桑鳩　教育図書研究会）

## 現代の芸術１（書道）

小川晃治

### 【授業の概要】
現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

### 【授業の目標】
東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

### 【授業計画】
講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

### 【評価方法】
レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

### 【テキスト】
担当者の小文、古典法帖。

## 現代の芸術２（音楽）

志水博子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの洋楽の名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業の目標】

正しい発声を学ぶ

### 【授業計画】

第１回　声の出るしくみを知る（学園歌をうたう）
第２回　腹式呼吸と身体のつかい方の練習
（ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方）
第３回　発声練習と歌唱
第４回～９回　名演奏家によるオペラ鑑賞（カルメン、椿姫他）
第10回～12回　各自の課題（ジャンルは問わない）による実技発表とアドバイス
（毎回短時間を使って合唱曲を１曲仕上げる）

### 【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

### 【テキスト】

楽譜プリントは配布

## 現代の芸術２（音楽）

浅田まり子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業の目標】

音楽を鑑賞し、演奏しながら、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を習得することを目標とする。

### 【授業計画】

第１講　鑑賞法（音楽の聴き方）
第２講　発声のしくみと声の管理
第３講　ヴォイストレーニング１（自然体）
第４講　ヴォイストレーニング２（呼吸法）
第５講　ヴォイストレーニング３（楽器の確保）
第６講　サウンドスケープ（音の風景）
第７講　音楽療法１（歴史と原理）
第８講　音楽療法２（音楽の作用と実践法）
第９講　演奏法１（リズムとメロディー）
第10講　演奏法２（コード・即興など）
第11講　合唱と合奏
第12講　～実技演奏発表会

### 【評価方法】

実技（授業内目標達成度）・感想レポート・出席状況・授業態度

### 【テキスト】

プリント・MUSIK（貸与）

全教養

## 現代の芸術３（美術）

藤井健仁

### 【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

### 【授業計画】

前半
キュビスム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。
後半
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。
教材として樹脂パテ等（￥2500）を各自が購入する。

### 【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

### 【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

### 【参考文献・資料】

なし

## 現代の芸術４（映画）

吉村英夫

### 【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】

映画をジャンル別とか作家別に鑑賞し、その特質を知る。映画の「今」を追う傾向のある現代若者気質に対して、歴史的系統的に映画を観ていくことの重要性を語りたい。実作品を観ながら、その表現や技法の特徴にも迫るものにしたい。

### 【授業計画】

＊ミュージカル映画の「まるごと１本」の鑑賞を中心にしながら、ミュージカル映画の楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどり、その発展と衰退、さらには『シカゴ』『オペラ座の怪人』等での再生の様子をみていきたい。ただし、現代のミュージカル映画は鑑賞しない。
＊ミュージカルの歴史の学習…オペラから『キャッツ』へ至る歴史を探る。
＊参考上映を予定している作品（上映作品は変更するかもしれないが、すべてミュージカル映画、音楽映画の傑作秀作である。
『ウエスト・サイド物語』『パリの恋人』『ブラス!』『雨に唄えば』『トップ・ハット』『掠奪された七人の花嫁』『キス・ミー・ケイト』『シェルブールの雨傘』『マイ・フェア・レディ』その他
＊有名なミュージカル映画を部分上映もして、分析や技法的特徴なども学習。
＊延長があることを覚悟してほしい。90分以上の映画を鑑賞するため。
＊長久手での夏期集中講義では、上映作品等、いささかの変更がある。

### 【評価方法】

＊学期末のテスト　＊随時提出のレポート　＊出席　＊テキストは使用しない

### 【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。５年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

### 【参考文献・資料】

『誰も書かなかったオードリー』（吉村英夫　講談社プラスα文庫）

## 現代の芸術４（映画）

HIGH, Peter B.

### 【授業の概要】
映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

### 【授業の目標】
1）映画分析ための技術：
　a．セグメンテーション（SEGMENTATION＝映画を見ながら、ノーツの取り方）
　b．対極的分析法（映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること）
2）典型的なハリウッド映画（1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターⅢ」等にいたるまで）のスタイルとストーリーの語り方：
　a．「因果的関係」とドラマの盛り上げ方
　b．FABULA（ファビュラ）＝観客が頭の中で作る"映画のストーリーの世界"対SUZHET（シュージェット、つまり"プロット"）＝画面から与えられた（"映画のストーリーの世界"を作るための"材料"やヒント）
　c．ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
　d．ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
3）ハリウッド映画におけるGENRE（ジャンル）の役割

### 【授業計画】
授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙２・３枚程度）にまとめて提出する。
課題：「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする：
1）「駅馬車」（STAGECOACH, 1939年作品、監督：John Ford）
2）［マルタの鷹］（MALTESE FALCON, 1941年作品、監督：John Huston）
3）「市民ケーン」（CITIZEN KANE, 1941年作品、監督：Orson Welles）
4）「第三の男」（THE THIRD MAN, 1949年作品、監督：Carol Reed）

現代の芸術４（映画）の学期末評価は３つの宿題に基づく（学期末試験はなし）：
宿題１：「マルタの鷹」の対極的分析の図（文章化する必要はない）
宿題２：「市民ケーン」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）
宿題３：「第三の男」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）：この三つ目の宿題は学期末試験として扱われる

### 【評価方法】
出席と宿題によって、評価される

### 【テキスト】
テキストはありません。教材は適時配布します。

## 伝統芸能

林 和利

### 【授業の概要】
日本の伝統芸能の諸ジャンルのうち、舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など主要なものを中心に取り上げ、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

### 【授業の目標】
各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

### 【授業計画】
1．授業の目的と方針を提示
2．日本芸能演劇史概説
3．芸能の発生について
4．神楽について
5．伎楽・舞楽・散楽について
6．田楽について
7．猿楽について
8．能について
9．狂言について
10．歌舞伎について
11．文楽について
　また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

### 【評価方法】
出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

### 【テキスト】
日本文化論序説（林和利著　青山社）

### 【参考文献・資料】
日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）

## 現代の芸術５（演劇）

海上宏美

### 【授業の概要】
現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

### 【授業の目標】
現代芸術としての演劇は脱ドラマ化しているので、演劇・ドラマを軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。それにより演劇の 現代芸術としての側面を理解する。

### 【授業計画】
1．ドラマからポスト・ドラマ（脱ドラマ）という流れを理解する。
2．ウィリアム・シェイクスピア作「ハムレット」（ドラマ）を見る、理解する。
3．絵画を参照して演劇と劇場を理解する。
4．近代的な認識に現れる身体イメージとジェンダーを理解する。
5．ハイナー・ミュラー作「ハムレットマシーン」（脱ドラマ）を見る、理解する。
6．ダンスやパフォーマンスも脱ドラマであることを理解する。
授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

### 【評価方法】
レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

### 【テキスト】
テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

## 現代マナー論

近藤乃芙子

### 【授業の概要】
人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

### 【授業の目標】
良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

### 【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．マナーの基本
2．会話と傾聴
3．身だしなみとおしゃれ
4．服装　　フォーマルとカジュアル
5．訪問と応接　和風
6．　　〃　　洋風
7．茶菓のマナー
8．贈答のマナー
9．冠婚のマナー
10．葬祭のマナー
11．食事のマナー
12．パブリックマナー

### 【評価方法】
出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

### 【テキスト】
テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】
参考文献・資料はなし。

## 現代マナー論

嘉悦祐子

【授業の概要】
人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】
自分の気持ちをどんな形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．マナーとは
2．学生と社会人の違い
3．第一印象の重要性
4．マナーの五原則
①挨拶
②表情
③態度
④身だしなみ
⑤言葉づかい
5．電話応対
6．訪問と来客対応
7．報告、連絡、相談
8．文書のマナー

【評価方法】
出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

## 言語表現

三久保角男

【授業の概要】
音声表現。
①日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術　②読む・話すことの実践と応用　③言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】
マルティメディアの発達で直接的な会話をすることが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的に言葉で伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】
1．話し言葉概論
ことばの機能　話し言葉の特徴　共通語と方言
2．日本語の音声 1（発声）
呼吸法　音声器官　発声法
3．日本語の音声 2（発音）
拍と音節　母音と子音　調音　アクセント　環境による音声変化
4．話し言葉の表現技法
スピード　ポーズ　イントネーション　プロミネンス
5．文を読む
短文の読み　朗読
6．話しをする
パブリックスピーキング　リポート　インタビュー
7．話し言葉の用法
言葉事情　言葉の変化　敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】
筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

【テキスト】
毎回、レジュメ・資料を配布する。

## 文章表現

青木 健

【授業の概要】
マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】
書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自分の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】
第１回　人は言葉の織物である。（伝達と表現１）
第２回　現代の口語表現について。（伝達と表現２）
第３回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、形容修辞法など具体的に講義。
この間に
課題を３回提出し、短文（２～３枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】
出席状況、３回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】
高校生のための文章読本（筑摩書房）参考書籍は授業中に数冊指示します。

## メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】
情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業の目標】
メディアを通すことにより変化する情報のしくみを理解することと、創造的発想力の基礎を身につけること。

【授業計画】
1．どこからどこまでがメディアなのか
2．「編集」がもつ創造力
3．「伝える」と変化する
4．人を動かす力
5．自分との対話
6．「コンセプト」の功罪
7．共感する/させる
8．心を開かなければならないとき
ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】
レポートによる。

【テキスト】
テキストは使用せず、資料を配布する。

## 職業と人生

樋口貴子

【授業の概要】
将来の職業選択にあたって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識などを話します。

【授業の目標】
人間的な魅力を備え且つ21世紀を生き抜く自立/自律した職業人として、学生生活を通じて何を感じどう行動すればよいのかを将来の自分のキャリアデザインを描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、職業人として求められる能力・スキル・心構えなどをケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】
1）21世紀の人材像
2）職業観
3）プロフェッショナル意識
4）キャリア発達
5）キャリアコンピテンシー
6）自己理解①
7）自己理解②
8）コミュニケーション能力
9）自己表現アサーション
10）ビジネスマナー
11）職業研究
12）企業研究
13）キャリアデザインと目標設定

【評価方法】
筆記試験

【テキスト】
職業と人生（樋口貴子著）

【参考文献・資料】
なし

## 生涯学習論

藤井基貴

【授業の概要】
現代は生涯学習の必要性と重要さが強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】
受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】
1　生涯学習の理念
2　生涯発達と発達課題
3　戦後日本の教育改革
4　生きがいと自己実現
5　人生と学習計画
6　生涯学習施設の活用
7　ボランティアとNPO
8　高齢期の課題と学習支援

【評価方法】
レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】
テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】
新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著　有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著　ミネルヴァ書房）
参考文献については随時紹介する。

全教養

## 一般心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】
心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】
「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】
1．ガイダンス、心理学とは
2．無意識の世界,1
3．無意識の世界,2
4．ストレスとタイプA性格
5．錯視の不思議
6．学習,1
7．学習,2
8．パーソナリティ,1
9．パーソナリティ,2
10．対人関係,1
11．対人関係,2
12．集団の心理

【評価方法】
試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】
随時資料を配布する。

## 一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】
心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】
近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】
a．知覚と感覚
b．ノンバーバルコミュニケーション
c．発達心理学（ピアジェとエリクソン）
d．学習と記憶
e．忘却と変容
f．防衛機制と無意識
g．心理療法
h．心理テスト
i．個人と集団
j．応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）
以上を中心に、それぞれ１～２回の講義を予定しています。

【評価方法】
出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】
使用しません。授業中に資料を配付します。

## 一般社会学

長濱一夫

### 【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

### 【授業の目標】

社会学的思考法の修得を目指し、、現代社会に対する認識力(時代の流れを読む力)を培いたい。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります)、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

（1）社会学とはどんな学問か－個人と社会－
（2）都市と農村－地域社会の変容－
（3）都市化の進展－その光と陰－
（4）人々の暮らし－「出稼ぎ」という暮らし方－
（5）現代社会における「豊かさ」と「貧困」
　　－国際社会を視野に－
（6）高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。

## 法律学

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

### 【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

### 【授業計画】

1．法学の入門書と文学作品
2．法学学習と文学作品
3．法学学習の方法
4．法学と政治と文学
5．法学と活字
6．法学と批評

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

全教養

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

### 【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

### 【授業計画】

1．国内政治と国際政治
　a　国際社会とは?
　b　国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
　c　トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
　d　イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2．古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
　a　「都市国家」のデモクラシー
　b　市民社会と大衆社会
　c　立法国家と行政国家
3．現代の政治過程
　a　政治と利益団体、NPO、市民運動
　b　選挙、官僚、議会
　c　マスメディアとマスコミュニケーション
　d　議会制デモクラシーと市民
4．戦後国際社会と日本の政治
　a　冷戦構造と55年体制
　b　利権の構造
　c　外圧と政策決定

### 【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

市民政治再考（高畠道敏　岩波ブックレット617）

### 【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

## 経済学

細野義晴

### 【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

### 【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこでの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

### 【授業計画】

1．経済のしくみの全体像
　マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2．日本の経済と景気
　日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3．個人のくらしと経済
　個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4．企業の経済活動
　企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5．政府の経済活動
　財政のしくみと役割り、わが国の財政事情と財政政策、など。
6．金融のしくみと経済
　お金と金融機関の役割り、中央銀行の役割りと金融政策、金融のビッグバン、など。
7．日本と世界の経済
　経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割り、欧州の通貨統合、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（資料配布)。

### 【参考文献・資料】

（1）Ｗｈａｔ’ｓ　経済学　(辻正次・八田英二著、有斐閣)
（2）入門の入門　経済のしくみ（大和総研著　日本実業出版社)

## 数学

岡田克彦

### 【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

### 【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

### 【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

1　確率
2　統計、偏差値
3　ベクトル
4　微分
5　積分
6　物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

## 統計学

鈴木有美

### 【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

### 【授業の目標】

統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、統計解析の基本的な手法について実際の調査・実験データを扱うことによって習得することを目指す。

### 【授業計画】

1．統計学とは
2．データの性質
3．度数分布
4．基礎統計量（1）：代表値・散布度
5．基礎統計量（2）：尖度・歪度
6．正規分布
7．2変量の関係（1）：相関・回帰
8．2変量の関係（2）：連関
9．母集団と標本
10．統計的推定（1）：点推定
11．統計的推定（2）：区間推定
12．統計的検定の基礎
13．平均値の差の検定（1）：t検定
14．平均値の差の検定（2）：分散分析

### 【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

### 【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫著　北大路書房）

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 物理学

坂井貞彦

### 【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

### 【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を統一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろの現象に関係のあることを理解する。

### 【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

1　はじめに
2　運動と力
3　ニュートン力学、力学的エネルギー
4　ものの状態、熱と温度、圧力
5　熱力学
6　振動と波動、音と光
7　電気と磁気、電磁波
8　相対性理論
9　量子力学、粒子性と波動性
10　素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クオーク

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫　ナツメ社）

## 英語コミュニケーション1（TOEIC Ⅰ）

山田久美子　DYCUS, David C.　他

**【授業の概要】**

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

**【授業の目標】**

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

**【授業計画】**

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4．Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

**【評価方法】**

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

**【テキスト】**

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション2（Listening Ⅰ）

横関美津紀　SUTHONS, Philip　他

**【授業の概要】**

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

**【授業の目標】**

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

**【授業計画】**

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．ディクテーション
4．シャドーイング
5．短文・長文の暗唱
6．ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

**【評価方法】**

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

**【テキスト】**

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション3（Listening Ⅱ）

石橋千鶴子　SUTHONS, Philip　他

**【授業の概要】**

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

**【授業の目標】**

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

**【授業計画】**

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4．ディクテーション
5．シャドーイング
6．短文・長文の暗唱
7．ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

**【評価方法】**

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

**【テキスト】**

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション4（Reading Ⅰ）

福本明子　STEPHENSON, Brett　他

**【授業の概要】**

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

**【授業の目標】**

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

**【授業計画】**

１分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1．社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

**【評価方法】**

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

**【テキスト】**

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション5（TOEIC Ⅱ）

横関美津紀　DYCUS, David C.　他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## 英語コミュニケーション7（Oral Communication Ⅱ）

HARRIS, Richard S.　他

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション6（Oral Communication Ⅰ）

SUTHONS, Philip　他

### 【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

### 【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8（Reading Ⅱ）

山田久美子　BROWNING, Jeremy S.　他

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

### 【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1．長文の大意把握
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

## ASU TOEIC Ⅰ A

天野純子　太田晶子

**【授業の概要】**

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

**【授業の目標】**

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

**【授業計画】**

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

**【評価方法】**

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

**【テキスト】**

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC Ⅰ B

天野純子　太田晶子

**【授業の概要】**

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

**【授業の目標】**

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

**【授業計画】**

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

**【評価方法】**

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

**【テキスト】**

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC Ⅱ A

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

**【授業の概要】**

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

**【授業の目標】**

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

**【授業計画】**

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（リスニング・Reading）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

**【評価方法】**

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

**【テキスト】**

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC Ⅱ B

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

**【授業の概要】**

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

**【授業の目標】**

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

**【授業計画】**

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（リスニング・Reading）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

**【評価方法】**

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

**【テキスト】**

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

# Get together and Talk I

石橋千鶴子　福本明子　太田晶子　二村慎一　WOODMAN, Jo-Anne

## 【授業の概要】

事前英語集中授業、フィールドワーク、合宿、プレゼンテーションなどから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとしてフィールドワーク、合宿、プレゼンテーションに参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

各学期終了時（集中授業期間内　前期：8／7（月）～11（金）、後期：2007年2／13（火）～17（土））に実施予定であるが、詳細は掲示および説明会（前期：6月中旬、後期：11月下旬の予定）で発表する。指定された期間（前期：6月末、後期：12月上旬）に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

＊注意

本科目は申し込み者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1年生は学期の合計履修単位に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

## 【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

## 【授業計画】

**前期　8／7（月）～11（金）、**
**後期　2007年2／13（火）～17（土）を予定。**
**事前英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。**
**詳細は掲示で発表。**

## 【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

## 【テキスト】

英文パンフレットなどを使用。

## 【参考文献・資料】

インターネットなどを通して資料は各自検索する。

<履修条件>

1）英語コミュニケーション科目2科目（4単位）以上を取得済みであること。
2）英語でのコミュニケーション実践に十分な「意欲」があること。
3）全日程に出席できること。

# Get together and Talk II

NORRIS, Harry T.

## 【授業の概要】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

## 【授業の目標】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

## 【授業計画】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

May (2), 9, 16, 23 and 30. Will be used for real time chat with Canberra University students.Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

## 【評価方法】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

## 【テキスト】

No text

## 【参考文献・資料】

http://www.apple.com/support/isight/

# 上級英語セミナー 2006 A

WOODMAN, Jo-Anne　WRINGER, Paul

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006A」は受講できない。）

## 【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

## 【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities ( reading, writing, listening and speaking ) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

## 【評価方法】

**「上級英語セミナー2006A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日1限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。**

## 【テキスト】

Woodman：No text required,
Wringer：To be announced.

# 上級英語セミナー 2006 B

WOODMAN, Jo-Anne　WRINGER, Paul

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

## 【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities ( reading, writing, listening and speaking ) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

## 【評価方法】

**「上級英語セミナー2006B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日1限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。**

## 【テキスト】

Woodman：No text required,
Wringer：To be announced.

# 上級英語セミナー 2006 C

横山綾子　WOODMAN, Jo-Anne

## 【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006C」は受講できない。）

## 【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman

The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

## 【授業計画】

横山

第１回　通訳一般概論　Sight translation

第２～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman

This course will operate on a 3-week cycle.

Week 1：Discussion questions based on materials provided by the teacher.

Week 2：Discussion - based on newspaper/internet articles provided by the teacher.

Week 3：Discussion - based on newspaper/internet articles prepared by the students.

## 【評価方法】

**「上級英語セミナー2006C」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日３限（担当教員：横山綾子）、金曜日４限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。**

## 【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他

Woodman：No text required.

# 上級英語セミナー 2006 D

横山綾子　WOODMAN, Jo-Anne

## 【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman

The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

## 【授業計画】

横山

第１回　通訳一般概論　Sight translation

第２～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation,　メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman

This course will operate on a 3-week cycle.

Week 1：Discussion questions based on materials provided by the teacher.

Week 2：Discussion - based on newspaper/internet articles provided by the teacher.

Week 3：Discussion - based on newspaper/internet articles prepared by the students.

## 【評価方法】

**「上級英語セミナー2006D」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日３限（担当教員：横山綾子）、金曜日４限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。**

## 【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他

Woodman：No text required.

言活（英語）

# 上級英語セミナー 2006 E

難波豊子　CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006E」は受講できない。）

## 【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

## 【授業計画】

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

## 【評価方法】

**「上級英語セミナー2006E」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日２限（担当教員：難波豊子）、金曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。**

## 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

# 上級英語セミナー 2006 F

難波豊子　CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

Bev Curran

To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

## 【授業計画】

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self- confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

## 【評価方法】

**「上級英語セミナー2006F」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日２限（担当教員：難波豊子）、金曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。**

## 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## Traditional Arts in Japan

山田久美子　小沢 茂　二村慎一　McGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

### 【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

### 【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）
尺八
琴
からくり
華道
歌舞伎
能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

### 【評価方法】

レポート　80%　（各授業のレポート等）
出席　　20%

### 【テキスト】

プリント

## Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

### 【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

### 【授業の目標】

＊日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
＊行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
＊県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
＊外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
＊在住外国人支援事業を理解すること

### 【授業計画】

A．総論：多元文化社会について
①多元文化社会としての日本社会（ブイ　チ　トルン）
B．各論１：多文化共生支援事業について
②総務省および地域国際化協会の政策、事業について（外部講師・東京から）
③愛知県および愛知県国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
④名古屋市および名古屋国際センターの事業について（外部講師・県内）
⑤豊田市および豊田市国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
⑥経済産業界の事業について（外部講師・県内）
C．各論２：外国人コミュニティからの実態について
⑦コリアンコミュニティ（外部講師・県内）
⑧中国人コミュニティ（外部講師・県内）
⑨フィリピン人コミュニティ（外部講師・県内）
⑩ブラジル人コミュニティ（外部講師・県内）
⑪アメリカ人コミュニティ（外部講師・県内）
⑫留学生について（外部講師・県内）
⑬外国人研修生の送り出し国からの報告
タイ王国から（外部講師・タイ王国から）・前期
ベトナムから（外部講師・ベトナムから）・後期
D．各論３：在住外国人支援事業について
⑭生活相談事業について（外部講師・県内）
⑮日本語教育支援事業について（外部講師・県内）

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

プリント資料など配布。テキストは授業中適宜に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

## Central Japan

福本明子　山田久美子　小沢 茂　横関美津紀　McGOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、社会の中での企業の役割、その活動、経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に際しての、事前・事後の学習もおこなう。

### 【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それをまとめることができるようにする。

### 【授業計画】

ゲストスピーカー

ミツカン酢
日本経済新聞
中部電力
ブラザー工業
ヒルトンホテル
デンソー
太陽科学株式会社　　など。

詳しくは、最初の授業の時に説明する。

### 【評価方法】

レポート　80%　（各授業のレポート等）
出席　　20%

### 【テキスト】

プリント

## PowerPoint Presentations

NORRIS, Harry T.

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

以下の項目を学習する。
・アイデアの要約
・口頭発表に必要な論理的展開方法
・動画・音声・写真などのマテリアルの収集や作成方法
・プレゼンテーションソフトの効果的な使用方法

### 【評価方法】

・出席状況
・プレゼンテーション
・ディスカッション参加への積極性

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

# Booklet Publishing

NORRIS, Harry T.

## 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

## 【授業の目標】

・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
・新聞・雑誌・パンフレットで活用されている見出し効果やテキストの段落構成について理解する。
・英語で短く分かりやすい文章を作る能力を身に付ける。

## 【授業計画】

以下の項目を学習する。
・アイデアの要約
・英語での自己表現方法
・図や表を使った表現方法
・タイトルや見出しの効果
・文章の段落構成

## 【評価方法】

・出席状況
・ブックレットなどの完成作品

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## 中国語読解１Ａ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

### 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

1．オリエンテーション
2．母音、数字、挨拶
3．疑問文、形容詞述語文
4．子音、声調、曜日表現
5．省略疑問文、疑問詞疑問文
6．音節、勧誘表現
7．動詞述語文、指示代名詞
8．我姓松本。自己紹介
9．介詞"和"、副詞"也""都"
10．我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
11．部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12．我们的大学。介詞"给""在"
13．名詞の修飾表現
14．我的一天。時の表現、方向補語
15．まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

### 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは<中国語読解１Ａ>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<中国語読解１Ａ>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　人称代名詞・"是"
第六課　指示代名詞・数詞・量詞
第七課　形容詞と形容詞述語文
第八課　動詞述語文
第九課　"有"・年月日
第十課　場所・時間・数量
第十一課　前置詞（介詞）・"了"
第十二課　能願動詞

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解１Ｂ（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話１Ａ

大森信徳　張 玉玲　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平　陳 惠貞

### 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　あいさつ表現
第六課　時間の表し方
第七課　年齢を言う
第八課　家庭を語る
第九課　自分の家を語る
第十課　学校について語る
第十一課　趣味について語る
第十二課　中国へ行く

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話１Ａ２（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<中国語会話１Ａ>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが<中国語会話１Ａ>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

### 【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

### 【授業計画】

1．オリエンテーション
2．今天星期几？　曜日と疑問詞利用の疑問文
3．我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4．我学习中文专业。能願動詞"能"
5．現在幾点？　時間表現、語気助詞"了"
6．我的家庭。介詞"在"
7．谈天気。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8．邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9．中間テスト
10．我的大学。伝聞の表現
11．找手机。目的語位置換えの"把"、結果補語"到"
12．喜欢什么？　過去の経験表現「V+"过"」
結果や程度表現「V+"得"」
13．帮我。能願動詞"会"
14．暇期做什么？　結果補語"好"
15．まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話１Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 2

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平　陳 惠貞

### 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK基礎コースA>か、<HSK基礎コースB>と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには<中国語会話２>と並行した履修が望ましい。

### 【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

### 【授業計画】

1．就要放暑暇了。語気助詞“了”、介詞“和”
2．伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3．暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4．使役の表現“让”
5．鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6．過去の経験表現「V+“过”」
7．我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8．介詞“离”、連動文
9．終于习慣了。感嘆表現２
10．自己の意見表示
11．我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12．副詞用法の“地”
13．我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14．春暇的計画。未完了の表現、許諾の表現
15．まとめ

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 2

大森信徳　張 玉玲　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

### 【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

### 【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであらわれる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

### 【授業計画】

中国語会話１をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

第一課　部屋を借りる
第二課　換金する
第三課　道を尋ねる
第四課　交通機関を利用する
第五課　市場での買い物の仕方
第六課　デパート
第七課　ホテル
第八課　郵便局
第九課　電話
第十課　中国人宅に訪問する
第十一課　レストラン
第十二課　スピーチの仕方

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話１Ａ２（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 基礎コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　王 麗英　杜 英起

### 【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎２級から３級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“了”や“过”の使い方など
2．“时点”の言い方や“时段”の言い方など
3．“小时”や“钟头”の使い方など
4．“方位词表”について
5．“多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6．“该”や“应该”の使い方など
7．介词の“朝”、“向”と“往”の使い方
8．比較表現について
9．“是字句”について
10．“愿意”や“想”の使い方など
11．“趋向补语”について
12．“复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK基礎Ａ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 基礎コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　陳 惠貞

### 【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK基礎コースA>とほぼ同じあるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK基礎コースA>で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎２級から３級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“我”と“你”；“左右”と“前后”など
2．“是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3．“了”；“形容词谓语句”など
4．“动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5．“数量补语”；“头”と“面”など
6．“有字句”；结构助词“地”など
7．“量词的重叠”；“把字句”など
8．“从”と“离”；“一边～一边～”など
9．“都”と“一共”；“程度补语”など
10．“被字句”；“在・正・正在”など
11．“趋向补语”；“多么”など
12．“复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK基礎Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 3

河井昭乃　楊 衛平　湯 海鵬

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには＜HSK初等コースA＞か、＜HSK初等コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話3＞と並行した履修が望ましい。

### 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

### 【授業計画】

1．オリエンテーション
2．应该感谢谁。
3．一件小事。
4．生日宴会。
5．中国人的问候语。
6．在中国过春节。
7．修自行车的张师傅。
8．自行车上的宝宝座儿。
9．雨披。
10．服装与色彩。
11．逛商场。
12．一个特别的“村”
13．学汉语趣事。
14．まとめ
15．復習・テスト

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

## HSK初等コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　陳 惠貞　杜 英起

### 【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に受かることめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語会話 3

楊 衛平　曹 志偉　杜 英起

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。

### 【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

### 【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1．初めまして
2．私達の中国語の先生
3．朝食を食べる
4．タクシーに乗る
5．宿舎のおばさん
6．言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK初等コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　湯 海鵬

### 【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK初等コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

### 【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

### 【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

### 【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語読解 4

河井昭乃　楊 衛平　杜 英起

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等上級コースA＞か、＜HSK中等上級コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話4＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1．接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2．連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3．動詞の繰り返しの構造。AA式：说说;A-A式：说一说等等。
4．挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5．構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6．名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7．「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8．疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9．副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10．方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11．語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12．形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13．比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14．特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

## 中国語会話 4

楊 衛平　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1．市場での買い物
2．旅行に行こう
3．体を鍛える
4．ついてない一日
5．ダイエット
6．友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

言活（中国語）

## HSK 中等上級コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　陳 惠貞

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等上級コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等上級コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語作文１

曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

第一課　文章記号と文章形式
第二課　自己紹介
第三課　書き付けと招待状
第四課　日記
第五課　手紙
第六課　電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等高級コース１Ａ　＊聴解中心

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】

ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。１課を２回の授業で進めてゆく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級Ａ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等高級コース１Ｂ　＊読解中心

曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２Ａ＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースＢは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）７級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめずす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースＢ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 同時通訳入門１

大森信徳

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の６級または７級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、１課を２回授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 中国語作文２

曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

第七課　契約書
第八課　就職書類
第九課　記述文
第十課　説明文
第十一課　感想文
第十二課　意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## HSK 中等高級コース２Ａ　＊聴解中心

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで,2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、１課を２回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語中等高級Ａ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## HSK 中等高級コース２Ｂ　＊読解中心

曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２Ａ＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースＢは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）７級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめずす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースＢ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 同時通訳入門２

大森信徳

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等高級コース２Ａ＞か、＜HSK中等高級コース２Ｂ＞と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには＜中国語作文２＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の７級または８級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、１課を２回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

## 韓国・朝鮮語入門

パク ヨンソン　キム ソヨン

**【授業の概要】**
ハングル（韓国・朝鮮の文字）の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習する。入門段階における集中学習の効果（韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば１年間で高校３年の英語力程度の力をつけることができる）をねらい、週２回履修を義務づける。

**【授業の目標】**
基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

**【授業計画】**
第１回　授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
第２回～第５回　ハングルの読み書き１～４、まとめ
　１）基本母音字（10個）、挨拶１
　２）基本子音字１（平音９個）、挨拶２
　３）基本子音字２（激音５個）、名詞１
　４）合成子音字（濃音５個）、名詞２
第６回～第８回　ハングルの読み書き５～７
　１）合成母音字１（４個）、形容詞１
　２）合成母音字２（７個）、形容詞２
　３）終声子音字（７種）、叙述格助詞
第９回～第10回　発音のルールとトレーニング１・２、動詞１・２、表現練習、まとめ
第11回～第12回　尊敬形１、平叙文・疑問文１・２、助詞１・２
第13回～第14回　尊敬形２、否定文、助詞３・４、まとめ
第15回　中間試験
第16回～第17回　上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾１・２
第18回～第20回　１）勧誘および命令文、転成語尾１
　２）禁止および不可能文、変則活用１、転成語尾２
　３）漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回　１）略対上称形、転成語尾３
　２）平常形、先語末語尾１
　３）曖昧形、先語末語尾２
第24回～第25回　１）変則活用２、先語末語尾３
　２）固有数詞、表現練習、まとめ
第26回　単位認定試験

**【評価方法】**
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

**【テキスト】**
はじめての韓国・朝鮮語　（曺述燮　プリンテック）

**【参考文献・資料】**
授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話１

パク ヨンソン　キム ソヨン　李 正子　金 芝恵

**【授業の概要】**
使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

**【授業の目標】**
名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

**【授業計画】**
第１回　授業の概要説明、こんにちは
第２回　韓国は初めてですか
第３回　ここが寮です
第４回　３月２日からです
第５回　どこで売っていますか
第６回　MTって何ですか
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　スタンドランプを見せてください
第９回　一杯飲みましょう
第10回　大学生活はどうですか
第11回　よく聞けば勉強になります
第12回　誕生パーティをしましょう
第13回　単位認定試験

**【評価方法】**
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

**【テキスト】**
始めよう韓国語会話（曺述燮・李正子・金賢珍　プリンテック）

**【参考文献・資料】**
授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解１

パク ヨンソン　金 由那　姜 信和

**【授業の概要】**
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

**【授業の目標】**
名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

**【授業計画】**
第１回　授業の概要説明、入門講座の復習
第２回　サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第３回　明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第４回　喫茶店で。変則１、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第５回　韓国料理屋で。変則２、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
第６回　道をたずねる。変則３、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第７回　中間試験
第８回　地下鉄の駅で。変則４、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第９回　タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第10回　郵便局に行く。用言の連体形
第11回　約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回　天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
第13回　単位認定試験

**【評価方法】**
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

**【テキスト】**
韓国語中級（李昌圭　白帝社）

**【参考文献・資料】**
授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策１

パク ヨンソン　キム ソヨン　姜 信和　金 美淑

**【授業の概要】**
韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

**【授業の目標】**
1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に必ず合格する。

**【授業計画】**
発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。
第１回　授業の概要説明、前期の復習
　完全制覇５級・挨拶言葉１
第２回　挨拶言葉２、ハングルのカタカナ表記
第３回　日本語のハングル表記、基本語彙と文法１
第４回　基本語彙と文法２、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第５回　漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
第６回　韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
第７回　完全制覇４級・基本語彙と文法１
第８回　基本語彙と文法２・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第９回　基本語彙と文法３・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回　基本語彙と文法４・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回　韓国語の発音、応用問題１
第12回　応用問題２
第13回　単位認定試験

**【評価方法】**
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

**【テキスト】**
絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験５級・４級（小坂伸顕　白帝社）

**【参考文献・資料】**
授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解 2

キム ソヨン　李 正子　金 美淑　金 芝恵　姜 信和

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

第１回　授業の概要説明
第２回　初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現、
第３回　順杯、平行動作と逆接の語尾、変則１、動詞の過去の連体形
第４回　会食、補助動詞、引用文縮約形
第５回　業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
第６回　整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
第７回　韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
第８回　再会（１）、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
第９回　再会（２）、曖昧形文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
第10回　日本の取材（１）、変則２、目的の表現、義務・必要性の表現
第11回　日本の取材（２）、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形文
第12回　整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
第13回　単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

総合韓国語２（油谷幸利・南相瓔　白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話 2

パク ヨンソン　キム ソヨン　金 美淑　姜 信和

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

第１回　授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう
第２回　週末には何をしましたか
第３回　またお電話いたします
第４回　料理とか旅行です
第５回　資料を探しに一緒に行きましょうか
第６回　韓国料理ができますか
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　何をしようと思っていますか
第９回　どこにいらっしゃいますか
第10回　バスか地下鉄に乗っていきます
第11回　過ぎた水曜日からです
第12回　このバックいくらだった
第13回　単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

始めよう韓国語会話（曺述燮・李正子・金賢珍　プリンテック）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策 2

金 美淑　金 由那　金 芝恵　李 正子

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に必ず合格する。

### 【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業の概要説明、３級完全制覇１・基本語彙と文法２
第２回　基本語彙と文法２、韓国語文の日本語文訳
第３回　各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
第４回　尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
第５回　各種連体形、各種助動詞、各種接続詞、時制の表現、選択・許容の表現
第６回　試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
第９回　各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感想の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
第10回　直接話法と間接話法１
第11回　直接話法と間接話法２
第12回　直接話法と間接話法３、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
第13回　単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験３級（小坂伸顕　白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語読解 3

パク ヨンソン　金 由那

### 【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または３級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

第１回　授業の概要説明
第２回　日本語案内放送、変則１、感動・独白・感想の表現、
第３回　日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
第４回　板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
第５回　韓国映画、変則２、推量の表現
第６回　整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
第７回　韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
第８回　ＰＣバン、変則３、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
第９回　東大門市場、選択の表現
第10回　コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形文と敬語体
第11回　あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、変則４
第12回　整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
第13回　単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

総合韓国語３（油谷幸利・南相瓔　白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国・朝鮮語会話 3

パク ヨンソン　キム ソヨン

### 【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または２級に受かることを目指す。

### 【授業計画】

第１回　授業の概要説明
第２回　履修登録と単位数
第３回　バイト探し
第４回　口座開設と自動振込みの手続き
第５回　天気予報そして日本の天候
第６回　山つつじと韓国の春
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　韓国の食文化および調理法
第９回　博物館めぐり
第10回　韓国と日本の庭園文化の比較
第11回　郵送：飛行便と船便
第12回　夏のヘアスタイル
第13回　単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

使おう韓国語会話　（曺述燮・金賢珍 プリンテック）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 韓国語能力試験対策 3

キム ソヨン　金 芝恵

### 【授業の概要】

韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

### 【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に必ず合格する。

### 【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業の概要説明、各種発音ルール
第２回　受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
第３回　読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
第４回　各種活用表現１
第５回　各種活用表現２、注意すべき用言とその用例１
第６回　注意すべき用言とその用例１、慣用表現、まとめ、中間テスト
第７回　模擬試験１、解答と解説
第８回　模擬試験２、解答と解説
第９回　模擬試験３、解答と解説
第10回　聞き取り・書き取り模擬試験１、解答と解説
第11回　聞き取り・書き取り模擬試験２、解答と解説
第12回　聞き取り・書き取り模擬試験３、解答と解説
第13回　単位認定試験

### 【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

ハングル能力検定試験準２級合格をめざして（李昌烈　白帝社）

### 【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

## 情報技術基礎Ⅰ

三和義秀　他

【授業の概要】
情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

【授業の目標】
情報技術の基礎として不可欠なインターネット利用技術ならびにデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識を習得する。

【授業計画】
1．コンピュータの歴史、原理
2．情報の表現（2進数、16進数）
3．ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4．情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5．情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6．情報収集と分析
7．情報ツールとマナー
8．インターネット基本操作1（電子メール）　実習
9．インターネット基本操作2（WWW）　実習
10．EXCEL基本操作1　実習
11．EXCEL基本操作2　実習
12．EXCEL基本操作3　実習
13．EXCEL基本操作4　実習

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。
なお、当該科目については、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】
出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】
情報技術基礎Ⅰ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編　共立出版）

## 情報技術基礎Ⅱ

梅田敏文　他

【授業の概要】
情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】
Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】
1．Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）　実習
2．Windows基本操作2　実習
3．WORD基本操作1　実習
4．WORD基本操作2　実習
5．WORD基本操作3　実習
6．WORD基本操作4　実習
7．プレゼンテーションの概要
8．POWERPOINT基本操作1　実習
9．POWERPOINT基本操作2　実習
10．POWERPOINT基本操作3　実習
11．総合課題（プレゼンテーション資料作成1）　実習
12．総合課題（プレゼンテーション資料作成2）　実習
13．情報発信の管理と運用

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。
なお、当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】
出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】
情報技術基礎Ⅱ 2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編　共立出版）

## 情報技術基礎Ⅲ

上原 衛　他

【授業の概要】
情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学ぶ。

【授業の目標】
WORDによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びEXCELによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、ACCESSによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】
1．デスクトップの高度操作
2．ファイルの高度操作
3．ネットワークの操作
4．学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5．ビジネス情報処理（EXCEL）
6．マクロ操作（1）
7．マクロ操作（2）
8．ACCESSの概要
9．ACCESSの基本操作（1）
10．ACCESSの基本操作（2）
11．ACCESS総合演習（1）
12．ACCESS総合演習（2）
13．まとめ

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。
なお、この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】
出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】
情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著　近代科学社）

## 情報数学入門

親松和浩　他

【授業の概要】
情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、CGやゲームプログラミングで特に重要な代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業の目標】
全ての情報処理プログラミングで必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】
以下の項目について、コンピュータを用いた演習を交えて学習する。

1．集合・命題と制御処理
2．2進数による情報の表現
3．三角関数
4．ベクトル
5．図形の方程式
6．行列
7．図形の変換

【評価方法】
出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】
第1回目の授業にて指示する。

## CG 入門

石丸 緑

### 【授業の概要】

コンピュータグラフィックス（CG）を含むディジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、ディジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

### 【授業の目標】

画像や映像についての知識を身につけ、コンピュータ実習を通じて、画像やアニメーション、映像制作などの技術を習得する。

### 【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス１：基礎編
6. コンピュータグラフィックス２：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

ビジュアル情報表現：ディジタル映像表現・Webデザイン入門（CG－ARTS協会）

## 人工知能入門

高橋信明　他

### 【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

### 【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

### 【授業計画】

1．人工知能の基本原理と考え方
2．知識と知識表現
3．述語論理と導出原理
4．問題解決
5．探索法とアルゴリズム
6．プロダクションシステム
7．意味ネットワーク
8．推論
9．自然言語処理
10．人工知能用言語
11．エキスパートシステム
12．ニューラルネットワーク
13．人工知能の応用と展望

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

第１回目の授業にて指示する

## 情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

1）情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
2）上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
3）プログラミングに必要な論理的思考能力
4）プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業の目標】

基本情報技術者試験の資格取得を目指し、アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、プログラムを作成するスキルを習得する。

### 【授業計画】

ステップ１　コンピュータ科学基礎
ステップ２　データベース技術
ステップ３　コンピュータシステムの開発と運用
ステップ４　ネットワーク技術
ステップ５　情報と経営
ステップ６　セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

1）ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
2）内部設計書・プログラム設計書の作成能力
3）プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
4）ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
5）プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者試験の資格取得を目指し、高度なアルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、効果的なプログラムを作成するスキルを習得する。

### 【授業計画】

ステップ１　コンピュータ科学基礎上級
ステップ２　コンピュータシステム上級
ステップ３　システムの開発と運用
ステップ４　ネットワーク技術
ステップ５　データベース技術
ステップ６　セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

### 【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門２級」の合格を目標として、その対策を会得する。２級問題は、「CGクリエイター検定３級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な体系的な知識を学習する。

### 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門２級の資格取得を目指し、Web技術・デザインに関する基本的な知識を習得する。

### 【授業計画】

テキストや授業内で配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1．Webデザイン概論
2．テキスト『Webデザイン』検証
3．HTML
4．JavaScript
5．スタイルシート
6．DreamweaverとFireworks
7．FlashムービーとActionScript
8．Javaアプレット、CGI、XML
9．平成17年度後期CGクリエイター検定２級試験問題の検証と分析
10．平成17年度後期CGクリエイター検定２級試験問題の検証と分析
11．平成18年度前期CGクリエイター検定２級試験問題の検証と分析
12．平成18年度前期CGクリエイター検定２級試験問題の検証と分析

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

### 【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門１級」（平成18年前期から実施）の合格を目標として、その対策を会得する。１級問題は、Web設計とデザインの高いスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

### 【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門１級の資格取得を目指し、さまざまなWeb技法を効果的に活用し、高度なWebサイト制作や開発に応用できるスキルを習得する。

### 【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1．基本Webテクノロジーとその活用
2．最新のWebテクノロジーの概要
3．平成18年度CGクリエイター検定１級試験問題（マークシート）の検証と分析
4．平成18年度CGクリエイター検定１級試験問題（記述式）の検証と分析
5．平成18年度CGクリエイター検定１級試験問題（二次試験）の検証と分析
6．平成18年度CGクリエイター検定１級試験問題（二次試験）の検証と分析
7．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
8．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
9．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
10．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
11．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
12．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 簿記論Ⅰ

浦山章二

### 【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

### 【授業の目標】

複式簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、すべての企業が例外なくこれを利用している。複式簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。複式簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を理解するためには会計に関する知識が不可欠であり、それをやさしく習得することがこの授業の目標である。

複式簿記は決して難しいものではない。簿記論Ⅰでは日商簿記３級程度の知識を習得する。

### 【授業計画】

| | |
|---|---|
| １から３ | 簿記の基礎 |
| ４から５ | 商品売買 |
| ６から８ | 現金および預金 |
| ９から10 | 手形取引 |
| 11から14 | その他の期中取引 |
| 15から16 | 試算表の作成 |
| 17から22 | 決算手続き |
| 24から30 | 総合問題 |

### 【評価方法】

出席状況、期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

合格テキスト　日商簿記３級（ＴＡＣ出版）

## 簿記論Ⅰ

中村雅文

### 【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

### 【授業の目標】

最初は、一見難解に思える簿記に親しみを覚えることを目標とし、続いて簿記の目的と役割を正しく理解することでその必要性と重要性を認識し、簿記への学習意欲を持つことを目指す。

### 【授業計画】

第１回　簿記の目的と役割
第２回　貸借対照表と損益計算書
第３回　取引と勘定
第４回　仕訳帳と元帳
第５回　現金・預金取引（１）
第６回　現金・預金取引（２）
第７回　商品売買取引（１）
第８回　商品売買取引（２）
第９回　掛取引と貸倒れ（１）
第10回　掛取引と貸倒れ（２）
第11回　手形取引（１）
第12回　手形取引（２）
第13回　その他の債権・債務取引（１）
第14回　その他の債権・債務取引（２）
第15回　有価証券・固定資産取引（１）
第16回　有価証券・固定資産取引（２）
第17回　伝票と訂正仕訳（１）
第18回　伝票と訂正仕訳（２）
第19回　決算手続き（１）
第20回　決算手続き（２）
第21回　８桁精算表の作成（１）
第22回　８桁精算表の作成（２）
第23回　総合問題（１）
第24回　総合問題（２）
第25回　総合問題（３）
第26回　総合問題（４）

### 【評価方法】

出席状況及び試験により実施する。

## 簿記論Ⅱ

浦山章二

### 【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

### 【授業の目標】

複式簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、すべての企業が例外なくこれを利用している。複式簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。複式簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を理解するためには会計に関する知識が不可欠であり、それをやさしく習得することがこの授業の目標である。

複式簿記は決して難しいものではない。簿記論Ⅱでは日商簿記２級程度の知識を習得する。

### 【授業計画】

| | |
|---|---|
| １から３ | 商品売買 |
| ４から６ | 為替手形、銀行勘定調整表、有価証券 |
| ７から８ | 固定資産 |
| ９から10 | 手形取引 |
| 11から12 | 引当金 |
| 13から14 | 株式の発行、合併と買収 |
| 15から16 | 無形固定資産と繰延資産、社債 |
| 17から19 | 株式会社の税金、利益処分、損失処理と減資 |
| 20から22 | 精算表と財務諸表 |
| 23から24 | 本支店会計 |
| 25から27 | 帳簿組織 |
| 28から30 | 総合問題 |

### 【評価方法】

出席状況、期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

合格テキスト　日商簿記２級　商業簿記（ＴＡＣ出版）

## 簿記論Ⅱ

中村雅文

### 【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

### 【授業の目標】

簿記Ⅰで学んだ基礎的な知識をより発展させ、企業会計の基本的な仕組みを理解する。日商簿記検定（商業簿記）の２級程度の習得するのを目標とする。

### 【授業計画】

第１回　現金預金・日商簿記２級の範囲（１）
第２回　現金預金・日商簿記２級の範囲（２）
第３回　有価証券・日商簿記２級の範囲（１）
第４回　有価証券・日商簿記２級の範囲（２）
第５回　その他の債権・債務取引・日商簿記２級の範囲（１）
第６回　その他の債権・債務取引・日商簿記２級の範囲（２）
第７回　手形取引・日商簿記２級の範囲（１）
第８回　手形取引・日商簿記２級の範囲（２）
第９回　商品売買取引（１）
第10回　商品売買取引（２）
第11回　未着品売買（１）
第12回　未着品売買（２）
第13回　委託販売（１）
第14回　委託販売（２）
第15回　受託売買（１）
第16回　受託売買（２）
第17回　割賦販売（１）
第18回　割賦販売（２）
第19回　試用販売（１）
第20回　試用販売（２）
第21回　予約販売（１）
第22回　予約販売（２）
第23回　固定資産
第24回　税金
第25回　棚卸表の作成と決算整理（１）
第26回　棚卸表の作成と決算整理（２）
第27回　株式会社の資本

### 【評価方法】

出席状況及び試験により実施する。

## マクロ経済学Ⅰ

村上敬進

### 【授業の概要】
消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、景気や経済全体の動きを理論的に考察する。

### 【授業の目標】
本講義は、入門科目として、マクロ経済学の基礎を理解し専門科目のマクロ経済学を勉強する準備をすることを目標とする。

### 【授業計画】
1．マクロ経済学はどんな学問でしょうか？
2．マクロ経済学と日本経済
3．GDP
4．消費と貯蓄
5．企業の投資
6．政府の支出
7．総需要の経済学

### 【評価方法】
成績評価は定期試験で行う。

### 【テキスト】
基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著　中央経済社）

### 【参考文献・資料】
基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著　中央経済社）

## マクロ経済学Ⅱ

村上敬進

### 【授業の概要】
マクロ経済循環およびマクロ経済の諸理論について解説する。具体的には、マクロ経済学の理論体系を、短期の理論、長期の理論、に分けて整理し、経済全体の動向を科学的に分析する。

### 【授業の目標】
本講義は専門科目である。本講義では、マクロ経済学Ⅰに相当する知識を前提として解説をする。したがって、本講義の受講希望者は、マクロ経済学Ⅰの定期試験に合格するか、以下の概念を自習しておくこと。GDPとは何か、GDPの三面等価、有効需要の原理、GDPの決定（45度線分析）。本講義の目標は、経済を実際に分析できるだけの知識を習得することであり、経済学が試験科目に課せられている各種資格試験に対応できるだけの学力を身につけることである。

### 【授業計画】
1．GDPの概念
2．物価指数
3．マクロ経済分析の基本的枠組み－短期と長期－
4．短期モデル
　4－1．GDPの決定
　4－2．貨幣市場
　4－3．IS-LM分析と財政金融政策
5．短期モデルと長期モデルの比較
6．長期モデル
　6－1．物価水準の決定
　6－2．インフレーションと失業
　6－3．経済成長の理論

### 【評価方法】
定期試験で評価を行う。

### 【テキスト】
入門マクロ経済学　第４版　（中谷巌著　日本評論社）

### 【参考文献・資料】
基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著　中央経済社）
基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著　中央経済社）

## 金融論

藤井正志

### 【授業の概要】
資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

### 【授業の目標】
経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要なマクロ経済・金融の基礎知識を修得すること（詳細は授業にて解説する）。

### 【授業計画】
第１講　日本経済の現状と問題点
第２講　デフレ経済の問題点
第３講　資金の循環
第４講　銀行・証券の機能
第５講　金利の基本概念
第６講　金融市場
第７講　マクロ金融政策の課題
第８講　金融政策（IS-LM分析）
第９講　金融政策・企業金融計算問題
第10講　金融商品
第11講　プルーデンス政策
第12講　金融規制の日米比較
第13講　今後の金融監督手法の展望

### 【評価方法】
期末試験、出席・ミニテストなどにより総合的に評価する（評価の詳細については授業にて説明する）。

### 【テキスト】
レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】
適宜指定する。

## 情報処理概論Ⅰ

奥村文徳　MAHSUT, Muhtar

### 【授業の概要】
コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

### 【授業の目標】
Windowsの基本操作を理解し、OSの体系を理解する。

### 【授業計画】
第１回　ガイダンス
第２回　コンピュータの基礎知識
第３回　エンドユーザーコンピューティングとは
第４回　コンピュータの５大装置
第５回　コンピュータの情報表現
第６回　論理演算と論理回路
第７回　コンピュータの基礎知識のまとめ
第８回　ハードウェアの基礎
第９回　補助記憶装置
第10回　入出力装置
第11回　ソフトウェアの基礎
第12回　オペレーティング・システムの役割
第13回　データ管理と記憶管理
第14回　まとめ
第15回　テスト
（毎回、授業中にパソコン演習を含む）

### 【評価方法】
出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）

### 【参考文献・資料】
授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 情報処理概論Ⅱ

MAHSUT, Muhtar

### 【授業の概要】
情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システムの環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

### 【授業の目標】
様々な職場において、現状業務の分析、コンピュータを有効利用した業務改善案の提案、業務用システムの企画立案、情報システム利用環境の整備やシステム運用管理などの仕事に従事できる基礎力を身に付ける。

### 【授業計画】
1．システム開発技法
2．ヒューマンインターフェースの設計
3．テスト技法
4．システムの運用と管理
5．プログラム言語と言語処理系
6．CPUの性能計算
7．ネットワークの性能計算
8．システムの構成と評価
9．システムの信頼性
10．コンピュータウイルスとワクチンソフト
11．セキュリティ対策
12．開発と取引の標準化
13．まとめ

### 【評価方法】
出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
システムの運用と管理（ウイネット）

### 【参考文献・資料】
授業の途中に適宜、資料を配布する。

## コンピュータ科学Ⅰ

諸上茂光

### 【授業の概要】
現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みついて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

### 【授業の目標】
前期授業のⅠでは主にハードウェアの仕組みを体系的に学習する。

### 【授業計画】
1．ガイダンス
2．コンピュータの種類とハードウェアの概要
3．ソフトウェアの概要
4．記憶装置の仕組み
5．CPUの仕組み
6．データ表現
7．論理演算子
8．論理回路
9．ブール代数と集合演算
10．機械語命令
11．実効アドレスの計算
12．データ通信とネットワーク
13．システムの信頼性
14．まとめ

### 【評価方法】
出席及びレポート、テストによる総合評価

### 【テキスト】
これから学ぶコンピュータ科学入門　ハードウェア編（鑰山　徹著　工学図書発行）
社会科学系のためのコンピュータ科学概論（下条哲司・他　著　オーム社発行）

### 【参考文献・資料】
適宜補足資料を配付

## ネットワーク技術入門

原 伸之　小林久恵

### 【授業の概要】
ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの基礎知識によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

### 【授業の目標】
ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

### 【授業計画】
1．ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2．ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3．ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4．ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5．ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6．HTMLとホームページ（1）：ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7．HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、画像の表示
8．HTMLとホームページ（3）：ファイルの管理方法、ハイパーリンクの設定
9．HTMLとホームページ（4）：サウンドの再生と動画の再生
10．ホームページ課題作成（1）
11．ホームページ課題作成（2）
12．CGIプログラミング：CGIの仕組みと特徴
13．セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

### 【評価方法】
出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

### 【テキスト】
ネットワークリテラシ（三和義秀著　共立出版）

## コンピュータ科学Ⅱ

諸上茂光

### 【授業の概要】
現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みついて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

### 【授業の目標】
後期授業のⅡでは主にソフトウェアの仕組みと企業活動におけるコンピュータの活用について体系的に学習する。

### 【授業計画】
1．ガイダンス
2．コンピュータとハードウェアの概要
3．オペレーティングシステム
4．ジョブとタスクの管理
5．データの管理とファイルシステム
6．プログラム言語
7．流れ図とアルゴリズム
8．データ構造
9．数理表現
10．コンパイラと言語プロセッサ
11．システム開発手法
12．データベースの制御
13．コンピュータと企業活動
14．まとめ

### 【評価方法】
出席及びレポート、テストによる総合評価

### 【テキスト】
これから学ぶコンピュータ科学入門　ソフトウェア編（鑰山　徹著　工学図書発行）
社会科学系のためのコンピュータ科学概論（下条哲司・他　著　オーム社発行）

### 【参考文献・資料】
適宜補足資料を配付

## エンドユーザーコンピューティングⅠ

奥村文徳

### 【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの基本知識を体系的に学習する。

### 【授業の目標】

大学卒業後におけるコンピュータやネットワークを利用するエンドユーザーとして、必要な知識を習得する。

実際に、社会で起きているニュースなどとと対応させて理解できる。

### 【授業計画】

1．ネットワークの基礎知識
2．LANの基礎知識
3．インターネットの基礎知識
4．入出力インターフェース
5．情報戦略（経営管理と情報システム）
6．経営工学（品質管理、OR、確立と統計）
7．企業会計（財務、管理会計）
8．関連法規Ⅰ（知的財産権）
9．関連法規Ⅱ（労働、取引、安全などに関する法規）
10．表計算ソフトの利用
11．データベースの基礎知識
12．SQLの利用
13．まとめ

### 【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

1．エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）
2．情報の分析と活用（ウイネット）

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## エンドユーザーコンピューティングⅡ

諸上茂光

### 【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要となるシステム開発、運用管理、情報分析と活用の基本知識を体系的に学習する。

### 【授業の目標】

エンドユーザーコンピューティングの推進に必要なシステム開発・運用管理能力や基本知識の習得

### 【授業計画】

1．演習Ⅰ（仕事とコンピュータ）
2．演習Ⅰ（コンピュータシステムの基礎知識）
3．演習Ⅱ（データの分析と整理の技法）
4．演習Ⅲ（システムの開発と運用）
5．演習Ⅳ（テストおよび検収）
6．演習Ⅴ（EUCにおけるハードウェアの役割）
7．演習Ⅴ（EUCにおけるソフトウェアの役割）
8．演習Ⅴ（表計算とデータベース）
9．演習Ⅴ（ネットワークの役割と利用形態）
10．演習Ⅵ（システム環境整備と運用管理）
11．総合演習（1）
12．総合演習（2）
13．総合演習（3）
14．総合演習（4）

### 【評価方法】

出席状況およびレポートの総合評価

### 【テキスト】

第1回目の授業までに指定

### 【参考文献・資料】

適宜補足資料を配付

## ビジネス・コミュニケーション

小池弘道　大塚英揮

### 【授業の概要】

ビジネスとは何かということについての基礎的内容とコミュニケーションがビジネス社会でいかにに重要かを解説する。そして、コミュニケーションの不充分さから起きたトラブルの事例を踏まえ、コミュニケーション能力・知識を高めるための具体的内容について説明する。

### 【授業の目標】

ビジネスとは何かということについての基礎知識を持ってもらうと共に、コミュニケーションの大切さと必要とされる能力・知識を理解する。

### 【授業計画】

12回のうち6回を小池弘道、残り6回を大塚英揮が担当する。

小池弘道担当：
コミュニケーションの不足で起きるトラブル
コミュニケーションの取り方と限界
ビジネス社会でのコミュニケーション
国際社会でのチャレンジの仕方－郷に入って、郷に従う

大塚英揮担当：
企業間のコミュニケーション－流通を例にして
企業と消費者のコミュニケーション－マーケティング・コミュニケーション
企業と社会のコミュニケーション－エコマーケティング

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（必要に応じて資料配付）

### 【参考文献・資料】

日本の常識はどこまで通じるか（ジョリー佐々木幸子、小池弘道　風媒社）

## ビジネスとジェンダーⅠ

國信潤子

### 【授業の概要】

主に、産業社会学の視点からビジネス関係、労働環境におけるジェンダー（社会・文化的性）区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備がどのように変化しているかについて講じる。労働、家族、地域の3領域におけるジェンダー・バランスについて各種データなどから現状を紹介する。

### 【授業の目標】

目標
1）ジェンダーという概念を正確に理解する：概念形成とその変容を理解する。
2）国内外のジェンダー関係の統計データを分析し、その格差の実態を知る。
3）ジェンダー格差は現象として男女賃金格差、地位格差、職域区分などから形成され、さらに生活慣習、役割意識などとも関連しているのでその実態を統計資料などから考察する。
4）法制など規範の変容として改正雇用機会均等法およびその第三次法の検討過程、男女共同参画社会基本法、さらに配偶者間暴力防止のための施策、育児・介護休業法などを理解する。

### 【授業計画】

講義1,2回目：ジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。
講義3,4回目：国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。
講義5,6回目：日本社会にある性別役割分業の実態を調査結果などから理解し、国際比較データとともに日本と先進諸外国の格差を考察する。
講義7,8回目：雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法の概要紹介
講義9,10回目：セクシュアル・ハラスメント防止施策、育児・介護休業法などについて紹介する。
講義11,12回目：少子・高齢社会が進行する日本社会において、ビジネスにおけるジェンダー関係の変容を紹介する。また男女がともに有償労働・無償労働を均等に分担しつつ社会を支えるためには今後どのようなライフスタイルが可能かを検討する。
講義13回目：半期の講義の流れの「振り返り」と、期末課題の提示。2週間後に期末レポート提出。

### 【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

### 【テキスト】

特になし、随時資料配布

### 【参考文献・資料】

授業時に随時紹介

## ビジネスとジェンダーII

北仲千里

### 【授業の概要】
産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響などが異なる場合がある。特に日本社会においては女性の経済的地位はいまだ脆弱であり、雇用機会均等法の実施も不十分である。近年の経済のグローバル化のなかで職域、職階、賃金のジェンダー格差にどのような変化が見られるかについて統計データから考察する。また、産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点をもって考察する。さらに職場の人間関係における問題、賃金格差、地位格差、セクシュアルハラスメント訴訟などについて、その内容について詳細に検討し、今後を展望する。

### 【授業の目標】
現代でも男女の平均賃金には大きな差があり、性別（ジェンダー）は、私たちの人生設計や職業選択などにも大きな影響を与え続けています。
この講義では、「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを、社会学的な方法で考えていきます。
講義を通じて、社会学的な見方を身につけること、統計データの読み方を身につけることも目指します。

### 【授業計画】
1．ジェンダーという概念～その１「性差とは何か」
2．ジェンダーという概念～その２「性別とは何か」
3．職業と現代人～職業分類の基礎知識
4．サラリーマンにとっての学歴と賃金
5．性別と学歴と賃金
6．家事労働と仕事との関係を考える
7．「差別」と「区別」を考える～その１　頭の体操　編
8．「差別」と「区別」を考える～その２　法律と裁判からみる
9．職場でのセクシュアル・ハラスメント～その１　概念
10．職場でのセクシュアル・ハラスメント～その２
11．フリーター問題とジェンダー

### 【評価方法】
毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

### 【テキスト】
特に指定しません。講義時に毎回プリントを配布します。

### 【参考文献・資料】
女性学・男性学（伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子　有斐閣アルマ）
竹中恵美子が語る労働とジェンダー（関西女の労働問題研究会　ドメス出版）

## ストラテジーベーシック

浅井敬一朗

### 【授業の概要】
ビジネスは変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（１）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（２）いかに分業し調整するという組織構造、組織形態の選択、（３）インセンティブシステムを確立し、いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これら３つのついての概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

### 【授業の目標】
ビジネスストラテジーにつなげる基礎的な科目として、経営戦略論の基礎を学ぶとともに、基本的な組織形態について学習する。
実際の企業ケースにおける簡単な戦略分析ができることを目標とする。

### 【授業計画】
第１回　ガイダンス
第２～10回　企業の経営戦略
・経営戦略の体系
・企業ドメイン
・成長戦略
・競争戦略
第11～13回　企業の組織形態
第14回　まとめ
第15回　テスト

### 【評価方法】
レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】
わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹著　有斐閣アルマ）

### 【参考文献・資料】
経営戦略（大滝精一他著　有斐閣アルマ）
経営管理（塩次喜代明他著　有斐閣アルマ）

## マーケティングベーシック

大塚英揮

### 【授業の概要】
『移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。』マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激烈な販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業が行っているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

### 【授業の目標】
マーケティングミックス（製品、価格、広告戦略）に関する基本的概念および基礎理論を学び、それを実際にツールとして用いて現実のケースを分析できる力を身につけること。

### 【授業計画】
1．マーケティングとは何か
2．買い物行動を振り返る（１）
3．買い物行動を振り返る（２）
4．CMについて考える（１）
5．CMについて考える（２）
6．モノの値段について考える（１）
7．モノの値段について考える（２）
8．製品について考える（１）－製品ライフサイクル
9．製品について考える（２）－ブランドの基礎知識
10．サービスマーケティングの基礎知識
11．グローバルマーケティングの基礎知識
12．売り場をめぐる闘い（１）
13．売り場をめぐる闘い（２）
14．マーケティングミックス－最適な組み合わせを探せ
15．まとめ

### 【評価方法】
毎回の小テスト（50％）と期末テスト（50％）の合計で評価します。小テスト以外の出席点はありませんが、連続物の講義なので、休まないで出席してください。

### 【テキスト】
使用しません。毎回プリントを配布します。

### 【参考文献・資料】
わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹　有斐閣アルマ　1800円）
日経マーケティングジャーナル（旧流通新聞）を時々読んでみることもおすすめします。

## マーケティングストラテジー

大塚英揮

### 【授業の概要】
本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、この目標を達成するためにとられる戦略的手法について理解を深めていく。先ず企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得し、その上で個別企業が操作可能な戦略手段である価格、製品、マーケティングチャネル、広告の各手段をそれぞれ取り上げ、これら各手段に関する具体的戦略の理解を深めていく。

### 【授業の目標】
（１）戦略的思考法（競争の場である市場の構造を分類し、実現可能な戦略の選択肢を想定、最適な戦略を選択する）を習得する。（２）戦略的思考法をベースに、価格、製品、広告の各戦略手段をどう実行していけば良いのか、現実のケースを素材に意志決定できる力を身につける。

### 【授業計画】
1．オリエンテーション
2．戦略的思考法（１）
3．戦略的思考法（２）
4．戦略的思考法（３）
5．市場構造とマーケティング戦略
6．戦略的ブランドマネジメント（１）
7．戦略的ブランドマネジメント（２）
8．戦略的ブランドマネジメント（３）
9．知識創造と製品開発（１）
10．知識創造と製品開発（２）
11．戦略的価格マネジメント
12．消費者心理と広告戦略（１）
13．消費者心理と広告戦略（２）
14．関係性マーケティング
15．ケース分析

### 【評価方法】
平常点（50％）と期末試験（50％）で評価します。

### 【テキスト】
使用しない

### 【参考文献・資料】
授業の中で適宜指示する。

※履修条件：マーケティングベーシックを履修済みのこと

## 民法入門

西山一博

### 【授業の概要】
私法の一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わりの深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に取り上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実際的な解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要な限りで民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

### 【授業の目標】
実例を通じて民法を説明するなかで、法律を身近に感じ、法律の考え方を実感できるようにしたい。また、社会において生起する問題についての解決方法のヒントや、トラブルにならないために注意すべきことを学んでほしい。

### 【授業計画】
第１回　民法の原則～私的自治の原則とは。
第２回　契約の成立・意思表示～未成年者の法律行為は取り消せる。
第３回　代理・表見代理～他人が勝手に自分名義で契約を結んだ場合はどうなるか?
第４回　不法行為に基づく損害賠償請求～交通事故でけがをしたら、どんな請求ができるのか?
第５回　債権と物権の違い・物権～担保とは。
第６回　債権総論～保証人はどんな責任を負うのか?
第７回　債権各論～契約の種類。賃貸借契約を中心に。
第８回　契約の効力・拘束力～自己都合で契約を解除したら、どんな請求を受けるのか?
第９回　時効～10年住み続けたら、他人の家が自分のものになるということが本当にあるのか?
第10回　親族法～離婚に伴う金銭問題はどう考えるのか?
第11回　相続法１～相続人と相続分。遺言。
第12回　相続法２～自分だけが故人の面倒をみてきたのに相続分は同じか?
第13回　民法の周辺法規～消費者契約法、破産法等。
第14回　法律事務所における弁護士業務・事務員業務～法律事務所における実務の運用と法律の扱われ方。
第15回　試験

### 【評価方法】
出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】
入門民法（森泉章著・有斐閣ブックス）

## モジュール

福本明子　藤井正志　三浦克人　森下允之　諸上茂光　吉村文雄

### 【授業の概要】
ビジネスに関する基本概念、仕組を学習し、受講者相互のコミュニケーションを通して、自己の考えを自発的、創造的にまとめ、効果的に発表する態度を育成する。

### 【授業の目標】
ビジネスに欠かせない経済・金融・会計を含む幅広い分野についての関心を高め、新聞・雑誌などを読むように仕向け、ビジネス学部の学生としての自覚をもたす。

### 【授業計画】
経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野についての全体的な理解を得られるように、担当教員が基本的なことがらを説明する。

### 【評価方法】
出席状況および理解度テストによる。

### 【テキスト】
必要に応じてプリントを配布する。

## 簿記Ⅰ

三浦克人

### 【授業の概要】
企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

### 【授業の目標】
この授業の目標は、日商簿記検定３級レベルの記帳技術を習得し、これから履修することになる会計学の諸分野の基礎を身につけることにある。（この授業は、簿記論Ⅰを再履修する２年生以上を対象として開講する。）

### 【授業計画】
1．簿記の目的と役割
2．貸借対照表と損益計算書
3．取引と勘定
4．仕訳帳と元帳
5．現金・預金取引（1）
6．現金・預金取引（2）
7．商品売買取引（1）
8．商品売買取引（2）
9．掛取引と貸倒れ（1）
10．掛取引と貸倒れ（2）
11．手形取引（1）
12．手形取引（2）
13．その他の債権・債務取引（1）
14．その他の債権・債務取引（2）
15．有価証券・固定資産取引（1）
16．有価証券・固定資産取引（2）
17．伝票と訂正仕訳（1）
18．伝票と訂正仕訳（2）
19．決算手続（1）
20．決算手続（2）
21．8桁精算表の作成（1）
22．8桁精算表の作成（2）
23．総合問題（1）
24．総合問題（2）
25．総合問題（3）
26．総合問題（4）

### 【評価方法】
出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

### 【テキスト】
段階式　日商簿記３級商業簿記（18年受験用）（加古宣士・穐山幹夫監修　税務経理協会）
段階式　日商簿記ワークブック３級商業簿記（加古宣士・穐山幹夫監修　税務経理協会）

## 簿記Ⅱ

三浦克人

### 【授業の概要】
日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

### 【授業の目標】
この授業の目標は、日商簿記検定２級レベルの記帳技術を習得し、これから履修することになる会計学の諸分野の基礎を身につけることにある。（この授業は、簿記論Ⅱを再履修する２年生以上を対象として開講する。）

### 【授業計画】
1．現金預金・日商簿記２級の範囲（1）
2．現金預金・日商簿記２級の範囲（2）
3．有価証券・日商簿記２級の範囲（1）
4．有価証券・日商簿記２級の範囲（2）
5．その他の債権・債務取引・日商簿記２級の範囲（1）
6．その他の債権・債務取引・日商簿記２級の範囲（2）
7．手形取引・日商簿記２級の範囲（1）
8．手形取引・日商簿記２級の範囲（2）
9．商品売買取引（1）
10．商品売買取引（2）
11．未着品売買（1）
12．未着品売買（2）
13．委託販売（1）
14．委託販売（2）
15．受託販売（1）
16．受託販売（2）
17．割賦販売（1）
18．割賦販売（2）
19．試用販売（1）
20．試用販売（2）
21．予約販売（1）
22．予約販売（2）
23．固定資産
24．棚卸表の作成と決算整理（1）
25．棚卸表の作成と決算整理（2）
26．株式会社の資本

### 【評価方法】
出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

### 【テキスト】
段階式　日商簿記２級商業簿記（18年受験用）（渡部裕亘・片山覚監修　税務経理協会）
段階式　日商簿記ワークブック２級商業簿記（渡部裕亘・片山覚監修　税務経理協会）

## 工業簿記

三浦克人

### 【授業の概要】

製造業における製造過程を貨幣額によって記録・計算・整理する簿記が工業簿記であり、その中心は原価の算定にある。工業簿記の基本的仕組みを理解し、記帳技術を習得する。

### 【授業の目標】

この授業の目標は、（1）日商簿記検定２級（工業簿記）の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、（2）関連科目である原価計算や管理会計の履修のための基礎を固めることにある。

### 【授業計画】

1．工業簿記とは
2．工業簿記と原価計算
3．工業簿記の構造
4．材料費・労務費・経費の計算
5．製造間接費の計算と処理（1）
6．製造間接費の計算と処理（2）
7．部門費の計算
8．個別原価計算（1）
9．個別原価計算（2）
10．個別原価計算（3）
11．総合原価計算（1）
12．総合原価計算（2）
13．総合原価計算（3）
14．総合原価計算（4）
15．まとめ

### 【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

### 【テキスト】

段階式　日商簿記２級工業簿記（18年受験用）（岡本清・廣本敏郎監修　税務経理協会）
段階式　日商簿記ワークブック２級工業簿記（岡本清・廣本敏郎監修　税務経理協会）

## 財務会計

石川雅之

### 【授業の概要】

企業が財務諸表を作成するうえで従わなくてはならない会計処理上の諸規則について、まずその基本的な考え方を学習するとともに、なぜそうした規則が必要であるのか、どのような課題もしくは問題点があるのかを理解する。次に財務諸表の作成・表示に係る諸規則を学習し、現代会計制度についての理解を深める。

### 【授業の目標】

現代財務会計制度の基礎的な知識を身に付けるとともに、制度を支えるさまざまな会計ルールの基本的な考え方を理解すること。

### 【授業計画】

1）負債の概念
2）流動負債と固定負債
3）資本の概念
4）株式と資本
5）資本と評価替え
6）損益会計
7）経常損益
8）特別損益
9）キャッシュフロー計算書
10）財務諸表の注記
11）連結財務諸表Ⅰ
12）連結財務諸表Ⅱ
13）まとめ

### 【評価方法】

筆記試験による。

### 【テキスト】

新版財務会計論　第７版（新井清光・加古宣士）（法令の改正に伴い変更する場合もある）

## 会計学概論

石川雅之

### 【授業の概要】

取引の記録から財務諸表の作成に至る一連の手続についての理解を深め、現代の企業会計の基本的な考え方を学習する。そして、現代の会計制度がどのような考え方に基づいて形成されているのか、また現実の経済社会においてどのような役割を果たしているのかを学習する。

### 【授業の目標】

現代財務会計制度の仕組みについての基礎的な知識を身に付けるとともに、制度の背後にある基本的な考え方を理解すること。

### 【授業計画】

1）財務会計の意義と役割
2）企業会計の技術的構造
3）企業会計の理論的構造
4）企業会計制度
5）会計基準
6）財務諸表の様式
7）資産の概念
8）資産の評価
9）流動資産Ⅰ
10）有形固定資産
11）無形固定資産
12）繰延資産
13）資産会計のまとめ

### 【評価方法】

筆記試験による

### 【テキスト】

新版財務会計論　第７版（新井清光・加古宣士）（法令の改正に伴い変更する場合もある）

## 原価計算

三浦克人

### 【授業の概要】

製造業において製造された製品が１個いくらであるかを知ることはそれほど容易ではない。製品の製造過程において生じた原価を集計する手続きが原価計算であるが、原価の発生をどのように認識・記録するか、そしてそれをどのように集計するのかについて考察する。

### 【授業の目標】

この授業の目標は、（1）日商簿記検定２級（工業簿記）の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、（2）関連科目である管理会計などの履修のための基礎を固めることにある。

### 【授業計画】

1．工業簿記と原価計算の基礎
2．総合原価計算（1）
3．総合原価計算（2）
4．総合原価計算（3）
5．総合原価計算（4）
6．標準原価計算（1）
7．標準原価計算（2）
8．標準原価計算（3）
9．標準原価計算（4）
10．直接原価計算（1）
11．直接原価計算（2）
12．直接原価計算（3）
13．直接原価計算（4）
14．営業費の計算・工場会計の独立
15．まとめ

### 【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

### 【テキスト】

段階式　日商簿記２級工業簿記（18年受験用）（岡本清・廣本敏郎監修　税務経理協会）
段階式　日商簿記ワークブック２級工業簿記（岡本清・廣本敏郎監修　税務経理協会）

この授業には「工業簿記」の知識が必須である。よって、受講登録にあたっては「工業簿記」を履修済みであることを条件とする。

## 管理会計Ⅰ

吉村文雄

### 【授業の概要】

企業は資源の効果的・効率的な運用を図るため、貨幣額によってこれを測定・評価し、そのデータをもとにさまざまな意思決定を行わなければならない。しかも、企業経営には実績情報だけでなく予測情報も必要不可欠である。こうした情報を適切に把握し、分析するための基本的な考え方を学習する。

### 【授業の目標】

管理会計Ⅱの学習に役立つように基礎知識の習得に努める。

### 【授業計画】

第１回　管理会計の体系
第２回　利益管理のプロセスと利益目標の設定
第３回　損益分岐点分析
第４回　プロダクトミックス
第５回　原価管理
第６回　責任会計
第７回　原価センターと投資センター
第８回　企業予算の意義
第９回　企業予算の編成
第10回　標準原価管理
第11回　原価標準の設定
第12回　原価差異分析
第13回　原価企画
第14回　意志決定会計１
第15回　意志決定会計２

### 【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込みは禁止。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義中に随時指示する。講義内容に関する質問は、講義終了後の休憩時間内に受け付ける。

## 管理会計Ⅱ

吉村文雄

### 【授業の概要】

企業・組織の計画と管理に役立つ会計情報の特性を理解するとともに、会計データを事業計画の策定や業績評価に活用するための合理的な方法がどのようなものであるのかを、また会計情報システムをどのように設計すべきかを検討する。

### 【授業の目標】

前半で管理会計の発達史と体系を、後半で実践的な個別管理会計技法を説明するので、個別具体的な管理会計技法の特徴を把握すること。

### 【授業計画】

前半で管理会計の発達史と体系を説明し、後半で実践的な管理会計技法の構造と機能を把握するとともに、財務諸表分析の管理的意義を検討する。

概ね、以下の順に講義する。

1．職能部門制組織の成立と管理会計
2．階層組織の発達と管理会計
3．コントローラーシップの発達
4．計画会計と統制会計
5．戦略予算とバランス・スコアカード
6．情報処理と財務諸表分析
7．管理会計論の諸問題

### 【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込み禁止。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示す。授業中に常時質問を受け付ける。

## 国際会計

山川 勝

### 【授業の概要】

財務諸表を理解するためには、その財務諸表がどのような会計基準に基づいて作成されているのかを知らなければならない。今日、国際的に用いられる会計基準は、国際会計基準（国際財務報告基準）または米国会計基準である。本講義では、英文財務諸表を中心とする財務会計の諸領域を取り上げ、日米をはじめとする各国の会計基準の相違について学習する。

### 【授業の目標】

世界的な会計基準のコンバージェンスがどう進行しているかを理解する。

### 【授業計画】

1．日本の会計基準の現状と課題
2．国際会計基準（国際財務報告基準）の概要
3．米国会計基準の概要
4．会計基準各論
5．企業の財務情報（アニュアルレポート）開示の分析

### 【評価方法】

課題に対するレポートの提出を求め、出席状況とあわせて総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

日本の代表的な有力企業の海外向けに開示された財務情報の実例（アニュアルレポート）をケース・スタディとして使用する。

この授業は、既に会計学概論又は財務会計論を履修していることを前提にしているので、会計学の講義を始めて受講する学生を対象にすることは予定していない。

## 監査論Ⅰ

前川三喜男

### 【授業の概要】

現代の株式会社制度を支える一つの制度として、専門的な能力を有する独立の第三者による財務諸表の検証とその結果報告が求められている。それが会計監査である。本講義では、公認会計士による財務諸表監査の目的や制度についての基本的な知識を学習する。

### 【授業の目標】

監査の基本を理解する。

### 【授業計画】

第１回　監査の意義
第２回　監査の類型
第３回　会計士監査の歴史的展開
第４回　監査とディスクロージャー
第５回　監査制度１
第６回　監査制度２
第７回　監査人の資格と要件
第８回　公認会計士制度
第９回　監査人の職業倫理
第10回　監査人の独立性
第11回　監査人が負うべき法的責任
第12回　不正・違法行為と監査人の義務
第13回　粉飾決算と訴訟
第14回　監査基準の必要性
第15回　まとめ

### 【評価方法】

概ね授業４回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計３度のテストの結果で評価する。

### 【テキスト】

なし
レジメで対応

## 監査論Ⅱ

前川三喜男

### 【授業の概要】

財務諸表の適正性を判断するためにどのような手続きが必要とされるのかについて、監査基準を中心として学習する。また、会計士監査における課題や問題点を取り上げ、監査の本質についての理解を深める。

### 【授業の目標】

監査の基本を理解するとともに監査実務についても修得する。

### 【授業計画】

第１回　監査契約
第２回　予備調査
第３回　監査計画
第４回　内部統制
第５回　リスク・アプローチ
第６回　実証的監査手続
第７回　実査
第８回　立会
第９回　確認
第10回　監査調査
第11回　監査結果
第12回　監査意見の形成

### 【評価方法】

概ね授業４回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計３度のテストの結果で評価する。

### 【テキスト】

なし
レジメで対応

## 経営分析Ⅱ

浅野敬志

### 【授業の概要】

会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業の安全性・成長性・収益性などを把握するための方法を習得する。

### 【授業の目標】

実践的かつ高度な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的かつ詳細に分析できるようになること。

### 【授業計画】

1．企業価値を創造する会計戦略
2．ROEの使用方法－武田薬品工業のケース－
3．ROAの使用方法－ウォルマート・ストアーズのケース－
4．ROICの使用方法－日産自動車のケース－
5．売上高営業利益率の使用方法－ソニーのケース－
6．EBITDAの使用方法－NTTドコモのケース－
7．フリーキャッシュフローの使用方法－アマゾン・ドットコムのケース－
8．株主資本比率の使用方法－東京急行電鉄のケース－
9．売上高成長率の使用方法－GEのケース－
10．EPS成長率の使用方法－花王のケース－
11．EVA™の使用方法－松下電器産業のケース－
12．会計指標の選択とポートフォリオ

### 【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

企業価値を創造する会計指標入門（大津広一著　ダイヤモンド社）

### 【参考文献・資料】

財務諸表分析（桜井久勝著　中央経済社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）
ビジネス・アカウンティング－MBAの会計管理－（山根節著　中央経済社）

## 経営分析Ⅰ

浅野敬志

### 【授業の概要】

企業が公表する財務諸表を中心とする会計情報は企業についての重要な情報の一つである。会計情報から企業の成績を把握するために必要な基本的な技法を学習する。

### 【授業の目標】

実践的な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的に分析できるようになること。

### 【授業計画】

第１回　経営分析の必要性
第２回　財務諸表を理解する
第３回　成長性の分析（１）
第４回　成長性の分析（２）
第５回　収益性の分析（１）
第６回　収益性の分析（２）
第７回　採算性の分析（１）
第８回　採算性の分析（２）
第９回　安全性の分析（１）
第10回　安全性の分析（２）
第11回　総合分析（まとめ）
第12回　実例を使っての総合分析（１）
第13回　実例を使っての総合分析（２）
第14回　実例を使っての総合分析（３）
第15回　実例を使っての総合分析（４）

### 【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

３ステップ式だからキャッシュフロー重視の経営分析がらくらくできる本（増木清行著　あさ出版）

## 会計学特論Ⅰ

杉本典之

### 【授業の概要】

現代の企業に求められる会計情報ないし会計ディスクロージャーの範囲はかなり広い。そうしたニーズに応えるためには従来の企業会計原則や商法だけでは対応しきれない。そのため、制度上もさまざまな会計基準が設けられている。本講義では、そうした会計基準を中心に解説し、現代会計制度に対する理解をより深いものとする。

### 【授業の目標】

現代社会では、営利目的の企業組織において発達してきた企業会計方式の情報システムが、公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス（及び会計監査のプロセス）から成り立っている。会計学特論Ⅰでは、主として会計測定のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

### 【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、会計学特論Ⅱへの橋渡しを目指す。

1．株式会社会計を典型とする企業会計
2．情報システムとしての企業会計
3．企業会計の基本的構造と会計基準の位置づけ
4．会計測定の基本的構造と会計基準
5．勘定記録と会計情報

### 【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

### 【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－（杉本典之著　同文舘）
キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－（杉本典之・洪慈乙共著　東京経済情報出版）

### 【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

## 会計学特論Ⅱ

杉本典之

### 【授業の概要】
企業活動が多様化しグローバル化する中で、より迅速なディスクロージャー、企業グループ全体についての会計情報、資金に関する情報、企業の現在価値に関する情報など、企業に求められる会計情報の内容や質も多様化している。本講義では企業会計に求められる課題や制度上の最近の動向を取り上げる。

### 【授業の目標】
現代社会では、営利目的の企業組織において発達してきた企業会計方式の情報システムが、公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス（及び会計監査のプロセス）から成り立っている。会計学特論Ⅱでは、主として会計伝達のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

### 【授業計画】
会計学特論Ⅰの続きとして、下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。
1．情報システムとしての企業会計
2．会計情報を搬送する決算財務諸表
3．決算財務諸表をめぐる会計基準
4．会計基準の国際的調和化
5．各国の会計基準と国際会計基準

### 【評価方法】
授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

### 【テキスト】
各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
―会計理論の探究―会計情報システムへの記号論的接近（杉本典之著　同文舘）
キャッシュフロー計算書―その国際的調和化の現状と課題―（杉本典之・洪慈乙共著　東京経済情報出版）

### 【参考文献・資料】
『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。
必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

## 税務会計

森 恒夫

### 【授業の概要】
税務会計といってもその範囲はかならずしも明確ではない。本講義では、範囲を法人税法および所得税法に絞り、その基本的な考え方や重要な概念・項目などについての解説を行う。

### 【授業の目標】
（1）税務会計の基本的考え方及び基本原理の理解
（2）税務会計の計算構造につき一通則的な規定と個別規定の体系的関連及び仕組みの理解

### 【授業計画】
第1回　税法の意義
第2回　税務会計の概要
第3回　租税法律主義
第4回　税法の体系と税金の種類
第5回　応能負担原則と税の平等問題
第6回　法人税の仕組み
第7回　確定決算主義の意義
第8回　企業利益と課税所得
第9回　寄付金と交際費
第10回　減価償却
第11回　使途秘匿金
第12回　同族会社課税
第13回　別表について
第14回　所得税の仕組み
第15回　連結納税制度

### 【評価方法】
単位認定試験及び出席などを加味する

### 【テキスト】
未定

## 英文会計

白木俊彦

### 【授業の概要】
基本的な英文会計の用語について解説するとともに、国際会計基準および米国FASBの会計基準による財務諸表の用語・様式について講義する。
また、必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の英文による財務諸表と国内基準による財務諸表との比較も行う。

### 【授業の目標】
具体的に企業が提供している財務諸表を入手することができることをまず習得する。その後、基本的な英文財務諸表の会計基礎用語を理解し、英文による貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書を読むことができることを目標とする。
さらに、重要な会計方針及び注記事項を理解できることを目標としたい。

### 【授業計画】
講義と演習方式で行う。以下の内容について解説し、用語等については演習をして理解を確認しながら進めていく。
1．英語による会計用語の解説
2．国際財務報告基準の用語解説
3．FASB基準書及び国際財務報告基準の内容
4．アニュアルレポートの理解
5．上記以外の理論的な文献解説

### 【評価方法】
定期試験及び講義の中で行う演習結果と出席状況及び講義中の態度も含めた総合評価による。

### 【テキスト】
講義の中で指示する。

### 【参考文献・資料】
国際財務報告基準、FASB基準書
各社ホームページに開示されるアニュアルレポート等

## 会計実務Ⅰ

三浦克人

### 【授業の概要】
会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な帳簿の作成や伝票の処理などの実践的な知識や技能のほか、関係法令の知識を学ぶ。

### 【授業の目標】
この授業の目標は、会計実務（＝経理の仕事）について、その種類や年間業務のサイクルを理解することにある。受講を通じて経理の仕事に対する興味が高まるよう、いろいろ工夫しながら授業を進めていきたい。

### 【授業計画】
以下のトピックスを扱う。受講者の知識や関心に応じて、会計実務にかかわるその他のトピックスも適宜紹介したい。

1．会計学と会計実務
2．企業経営における経理の役割
3．会計にかかわる法規
4．帳簿組織と記帳の実務
5．月次決算と年次決算
6．その他

### 【評価方法】
出席状況、レポート、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

### 【テキスト】
最初の講義で指示する。

## 会計実務Ⅱ

三浦克人

### 【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な財務諸表の作成やその他法令で必要とされる書類の作成に係る知識や技能を学ぶ。

### 【授業の目標】

この授業の目標は、企業内部にあるさまざまな会計実務の概要を理解することにある。会計実務には地味なイメージがつきまとうことが多いが、受講を通じて、会計実務のダイナミックな側面も知っていただきたい。

### 【授業計画】

以下のトピックスを扱う。受講者の知識や関心に応じて、会計実務にかかわるその他のトピックスも適宜紹介したい。

1．経営組織と財務管理組織
2．経理担当者にもとめられる資質
3．財務会計の実務
4．管理会計の実務
5．CFOの役割

### 【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

### 【テキスト】

最初の講義で指示する。

この授業の受講にあたっては、会計実務Ⅰを履修済みであることが望ましい。

## ミクロ経済学

村上敬進

### 【授業の概要】

この講義では、消費者や企業がどのように意思決定し経済活動をしているか、市場の役割等を分かりやすくかつ丁寧に解説していく。

身近な応用例を取り上げながら、経済学の考え方を理解できるように講義をしていく。

### 【授業の目標】

ミクロ経済学の基礎を理解し、ミクロ経済学的手法を用いて経済分析をするための考え方を勉強することが本講義の目標である。

### 【授業計画】

1．イントロダクション：経済学をなぜ勉強するか
2．需要の理論
3．供給の理論
4．需要曲線と弾力性
5．市場の理論
6．需要と供給で解く経済問題
7．余剰分析で解く経済問題
8．市場の失敗

### 【評価方法】

成績評価は定期試験のみで行う。

### 【テキスト】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著　中央経済社）

### 【参考文献・資料】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著　中央経済社）

## 経済学概論

石坂綾子

### 【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

### 【授業の目標】

経済のしくみやマーケットの本質を知ることによって、社会とのかかわりや世の中の動きについて理解する。

### 【授業計画】

1．ガイダンス
2．市場経済システム
3．マーケットメカニズム
　（1）－需要と供給－
　（2）－規制と保護による損失－
4．社会主義の失敗
5．金融仲介機能
6．株式会社
7．競争社会の光と影
8．所得の決定
9．市場の失敗
10．大不況を克服する方法
11．グローバルエコノミー
12．貿易黒字の発生
13．日本型システムの崩壊

### 【評価方法】

中間試験と期末試験の成績によって評価する。２つの試験の評価比率は、50％ずつである。

### 【テキスト】

特に指定しない。第１回目の授業において資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

痛快!経済学（中谷 巌著　集英社インターナショナル/集英社文庫）

## ビジネスとファイナンス

島田舒一

### 【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

### 【授業の目標】

伝統的な資金の調達運用から、最近重要性を増している証券化、M&A、リスク管理など広範囲にわたる財務の動向を理解される。

### 【授業計画】

1．企業経営とファイナンスの役割
2．金融資本市場の変化と企業財務
3．資金の調達１　金融市場からの調達
4．資金の調達２　資本市場からの調達
5．事業への投資とその評価
6．バランスシート管理の重要性とその手法
7．資金の運用と管理
8．国際的な取引と資金の管理
9．企業の直面するリスクとその管理
10．プロジェクトファイナンス
11．証券化の活用
12．企業ファイナンスとビジネスの展望

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布

### 【参考文献・資料】

現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座１　中央経済社）
企業ファイナンス入門（津森信也著　日経文庫）
証券化の知識（大橋和彦著　日経文庫）

## 国際金融論

藤井正志

### 【授業の概要】

国際金融市場の生成と発展、累積債務問題の発生と国際金融に従事する銀行や投資家のリスクについて考察し、リスク管理の一手法としてのデリバティブの活用法など、基礎と現実の動きを幅広く考察し今後の課題についても検討する。

### 【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要な国際金融の基礎知識を修得すること（詳細は授業にて解説する）。

### 【授業計画】

第１講　外国為替のしくみと貿易取引
第２講　国際収支
第３講　経常収支の不均衡と国際金融
第４講　シンジケート・ローン
第５講　アジアの通貨・金融危機
第６講　アメリカの対外累積債務
第７講　累積債務問題
第８講　国際資本市場
第９講　外国為替相場
第10講　デリバティブ取引Ⅰ
第11講　デリバティブ取引Ⅱ
第12講　デリバティブ計算問題
第13講　国際金融まとめ

### 【評価方法】

期末試験、出席・ミニテストなどにより総合的に評価する（評価の詳細については授業にて説明する）。

### 【テキスト】

レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## 数理ファイナンス

上原 衛

### 【授業の概要】

この講義ではファイナンス理論の基礎を数理的なアプローチで解説する。実社会での事例や簡単な応用を交え、なるべく平易でわかりやすい解説を試みる。具体的には、金利と現在価値の概念、ポートフォリオ選択問題、オプション、スワップ、先物の各取引を含む金融派生商品（デリバティブ）についての基本的な概念、リスクのコントロールの基礎的な概念について最新の動向を交えながら紹介し解説する。

### 【授業の目標】

数理的にアプローチするファイナンス理論の基礎を理解すること。また、数理ファイナンスの活用について実社会での事例を理解すること。

### 【授業計画】

1．金利の概念
2．現在価値の概念
3．ポートフォリオ選択問題
4．オプション、スワップ、先物の各取引を含むデリバティブ
5．ブラック＝ショールズ・モデル
6．リスクのコントロール

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

金融工学を勉強しよう（足立光生著　日本評論社）

## ファイナンス概論

伊藤義明

### 【授業の概要】

キャッシュ・フロー会計を基本とした現代ファイナンス理論の３つのアプローチ、投資の分野（正味現在価値とポートフォリオ理論）、コーポレートフィナンス分野（企業価値と資本コスト、ＭＭ理論）及び資本市場分野（株式、債券、デリバティブなど）の基本的概念を学習する。

### 【授業の目標】

上記の３分野の概念を基礎的な計算事例を通じて学習する。簡単なExcelの関数計算機能と四則演算程度の初歩的な計算。

### 【授業計画】

1．金融市場、資本市場と企業財務（証券化など）
2．キャシュ・フロー会計とキャシュ・フローの計算
3．現在価値と将来価値、ＩＲＲ（内部収益率）とＮＰＶ（正味現在価値）
4．債券の基礎理論（金利の期間構造）
5．債券の基礎理論（価格の計算とリスク）
6．企業価値と資本コスト
7．加重平均資本コスト（WACC）とM&A
8．財務レバレッジと資本構成（MM理論）
9．ポートフォリオと分散投資（効率的フロンティアー理論）
10．ポートフォリオと分散投資（ＣＡＰＭ理論）
11．株価の評価（投資尺度）
12．株価の評価理論（配当割引モデル）
13．デリバティブの基礎理論（リスク・ヘッジとスペキレーション）
14．デリバティブの種類（先物、先渡し、スワップ、オプションとリアル・オプション）

（講義によってはEXCELの関数計算機能を使用する。）

### 【評価方法】

学期末試験の結果で評価（出席率は評価対象とはしない）

### 【テキスト】

入門　企業財務～理論と実践　第２版（津森信也著　東洋経済新報社）

### 【参考文献・資料】

ファイナンス入門（新井啓著　慶応義塾大学出版会）
ビジネスマンのためのファイナンス入門（山澤光太郎著　東洋経済新報社）

## 現代ビジネス事情Ⅰ

森下允之

### 【授業の概要】

世界に独立国（independent）はなく、みな相互依存国（interdependent）である。国内ですべての取引が完結し、海外との接点が全くない、あるいは影響を受けないビジネスはない。現代のビジネスにとり国境の壁は低くなっており、企業は全世界で調達生産・販売している。この実態を企業の海外拡張の側面を有する海外直接投資の視点から分析し、主要投資先国のビジネス環境を紹介し、空洞化問題など、国内産業に与える影響を論ずる。

### 【授業の目標】

国境を越える企業の動きと意義を理解すること。

### 【授業計画】

第１回　世界貿易の大潮流
第２回　ビジネスの国際化（生産・調達の海外依存度の高まり）
第３回　国際投融資の目的と形態（直接投資、証券投資）
第４回　証券投資の急増とその功罪
第５回　マルチ企業による超大型企業買収合戦の功罪
第６回　日本の対外直接投資（本邦企業の海外進出とグローバル戦略）
第７回　対外直接投資が国内産業に与える影響（産業空洞化問題）
第８回　日本への対内直接投資（日本の優良企業も外資に狙われる）
第９回　WTOと自由貿易協定（日本の対応方針）
第10回　カントリー・リスクとビジネス・リスク
第11回　東南アジア諸国の投資環境
第12回　NIES（韓国、台湾、香港）の投資環境
第13回　中国の投資環境

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを適時配布する。

### 【参考文献・資料】

2005年版ジェトロ貿易投資白書　（日本貿易振興会）

## 現代ビジネス事情Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】
ヨーロッパ諸国の金融業を中心に、その基本的特徴を具体的事例を挙げて考察する。

【授業の目標】
グローバル化の進展によって、日本・アメリカ・ヨーロッパの三極を軸に、国境を超えた競争が激しくなっている。アメリカ・ヨーロッパ諸国との関連トピックスを中心に、産業毎の特徴について理解する。

【授業計画】
1．ガイダンス
2．銀行・証券・保険業（アメリカ・ヨーロッパ）
3．鉄道業（ヨーロッパ）
4．高級ブランド（ヨーロッパ）
5．航空業（アメリカ・ヨーロッパ）
6．旅客機メーカー（アメリカ・ヨーロッパ）
7．コンピューター産業（アメリカ）
8．鉄鋼業（ヨーロッパ）
9．自動車産業（アメリカ・ヨーロッパ）
10．流通業（アメリカ・ヨーロッパ）
11．通信業（アメリカ・ヨーロッパ）
12．石油産業（アメリカ）
13．単位認定試験

【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。授業においてプリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業において適宜提示する。

## 証券ビジネス論

島田舒一

【授業の概要】
日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

【授業の目標】
近年変化の著しい証券、金融とビジネスの動向を学習することにより、今後の経済、社会の方向を金融面から理解する力をつけさせる。

【授業計画】
第1講　証券市場の機能と役割
第2講　証券の種類と内容
第3講　証券市場の仕組み
第4講　証券会社の業務1　株式業務
第5講　証券会社の業務2　債券業務ほか
第6講　銀行の証券業務
第7講　投資信託業務
第8講　資産運用業務と投資計算
第9講　証券流通市場関連業務
第10講　国際証券業務
第11講　日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
第12講　規制緩和と新しい証券ビジネス

【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布

【参考文献・資料】
証券業務の基礎（住友信託銀行著　経済法令研究会）
証券市場2005（証券広報センター　中央経済社）

## 銀行ビジネス論

森下允之

【授業の概要】
日本の銀行界は未曾有の危機、再編の繰り返しを経験し、日本経済不振の元凶とも非難されてきた。しかしながら、実際には銀行は加害者でもあり、被害者でもある。ようやく日本経済に明るさが見え始めた現在、金融機関その代表である銀行が再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

【授業の目標】
銀行経営、ビジネス環境を理解すること。

【授業計画】
第1講　金融システムの基礎知識
第2講　金融システムにおける銀行
第3講　バブル崩壊と不良資産
第4講　間接償却と直接償却
第5講　金融再編成
第6講　日本の銀行の特徴（なぜ儲からないか）
第7講　ペイオフ問題と中小金融機関
第8講　郵政民営化
第9講　政府系金融機関の功罪
第10講　日本の資金需給の大変化
第11講　郵政民営化、政府系金融機関統合後の地方銀行の生きる道
第12講　メガバンクが世界トップ銀行と互角に渡り合うために
第13講　単位認定試験
ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じ、プリントを配布

【参考文献・資料】
図説　わが国の銀行　（全国銀行協会調査部編　財経詳報社）
日経文庫　ベーシック金融自由化入門　（円居総一著　日本経済新聞社）
21世紀日本の金融産業革命　（植田、川北、高月著　東洋経済新報社）
銀行収益革命　（川本裕子著　東洋経済新報社）

## 保険ビジネス論

跡部浩一

【授業の概要】
保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営と日常の生活にとって不可欠な生命保険・損害保険の意義と役割についての理解を深める。
特に保険業法の法的解釈よりも、日常の経済活動を通じての保険の現状とその仕組みの解説を中心に、その法的根拠としての保険業法の基本を理解する。

【授業の目標】
① 身近な生命保険・損害保険とは何か、保険の基礎知識の習得
② 同時に、生命保険・損害保険に関する保険業法の概要の習得
③ 以上を通じて、社会人として必要となる「リスク管理」と「生きること・生命の大切さ」を身につける

【授業計画】
第1講　保険と保険業法の概要と授業のすすめ方
第2講　身近な保険を考える①
　＊米国同時多発テロと海外旅行傷害保険
第3講　損害保険の基礎知識①
　＊自動車保険と自賠責保険
第4講　損害保険の基礎知識②
　＊自動車事故を素材に自動車保険と自賠責保険
第5講　損害保険の基礎知識③
　＊損保の原型＝火災保険と地震・台風
第6講　保険会社と保険業法
第7講　生命保険の基礎知識①
　＊生命保険とは何か
第8講　生命保険の基礎知識②
第9講　身近な保険を考える②
　＊損害保険と生命保険の違いと保険業法
第10講　身近な保険を考える③
　＊最近の保険犯罪と保険募集のあり方
第11講　身近な保険を考える④
　＊保険の思想と保険業法
第12講　身近な保険を考える⑤
　＊リスクと保険・授業のまとめ
単位認定試験

【評価方法】
1　出席状況と　2　単位認定試験の成績　により、総合的に評価する

【テキスト】
特定の教科書を教材には使用しない。講義ごとにレジメを配布する

【参考文献・資料】
授業にて明示する。

## ファイナンス特論

細野義晴

### 【授業の概要】
資金の需要者と供給者との間には、現在、多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

### 【授業の目標】
家計・企業といった経済主体の金融行動が、どう行われているかを、理論的・実証的にみて理解したうえ、その中で日本の金融機関の金融行動と金融構造・金融行政がどう変化して、経済社会の発展を支えているかを理解する。（詳細は授業にて説明）

### 【授業計画】
1．日本の資金循環と各経済主体の金融行動
　貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2．わが国の金融機関とその変化
　近代的金融機関の成立、第２次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化、など。
3．金融機関の業務とその変貌
　中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化、など。
4．わが国の金融構造と金融機関行政の変化
　高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこでの金融機関経営、など。
5．金融ビッグバンと金融機関の将来像
　金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とペイオフ問題、など。

### 【評価方法】
単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】
使用しない（資料配布）。

### 【参考文献・資料】
1．金融（貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著　東洋経済新報社）
2．図説、わが国の銀行（全国銀行協会連合会調査部編著　財経詳報社）

## 外国為替論

森下允之

### 【授業の概要】
「国際金融」のExchange（交換、為替）の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

### 【授業の目標】
毎日、ニュースで報道される外国為替に関する総合的な知識を身につけさせる。

### 【授業計画】
第１講　外国為替の仕組み
第２講　外国為替相場の種類
第３講　スワップとアウトライト
第４講　外国為替リスクと回避方法
第５講　外国為替相場と経済の関係
第６講　外国為替相場と国際収支
第７講　オプション取引
第８講　外国為替相場の決定理論
第９講　国際通貨制度
第10講　ユーロ
第11講　人民元
第12講　アジアと円の国際化
第13講　単位認定試験
ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

### 【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】
日経文庫　外国為替の知識（国際通貨研究所編　日経新聞社）

### 【参考文献・資料】
国際金融・外為市場（佐久間潮著　財経詳報社）

## 金融システム論

石坂綾子

### 【授業の概要】
中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

### 【授業の目標】
バブル期以降、日本の金融界は変遷の最中にある。日本の金融システムの整備と金融自由化の進展について学ぶとともに、アメリカ・ヨーロッパ諸国が日本の金融システムにどのような影響を与えたのかを理解する。

### 【授業計画】
1．ガイダンス
2．日本の金融システム
　（1）　金融システムの発展とその特徴
　（2）　日本銀行と金融政策
　（3）　金融業務についての規制・慣行と変化
　（4）　金融自由化　－日本版ビッグバン－
3．アメリカの金融システム
　（1）　大恐慌の教訓
　（2）　金融システムの発展とその特徴
　（3）　アメリカ金融革命
4．ヨーロッパの金融システム
　（1）　イギリス　－国際金融市場とビッグバン－
　（2）　フランス　－国有化と公的金融－
　（3）　ドイツ　－ユニバーサルバンキングの展開－
5．国際通貨体制
　（1）　国際通貨制度の変遷
　（2）　現在の国際通貨体制
6．1980・1990年代の金融世界
　（1）バブルの陶酔と清算（1985～1994年）
　（2）ボーダーレスマネー（1994年）
　（3）金融異変（メルトダウン）
7．単位認定試験

### 【評価方法】
単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】
特に指定しない。第１回目の授業において資料を配布する。必要に応じてプリントを配付する。

### 【参考文献・資料】
ゼミナール現代金融入門（斎藤 精一郎著　日本経済新聞社）
金融システム（酒井 良清・鹿野 嘉昭著　有斐閣）
金融政策（酒井 良清・鹿野 嘉昭著　有斐閣）

## 金融工学

上原 衛

### 【授業の概要】
この講義を受講するにあたり、数理ファイナンスを履修済みか同等の能力があることが望ましい。金融ハイテク商品の開発や市場価格の決定方法、企業の信用力の変動に伴う金融取引のリスクを減らし効率的に利益を得る方法を、高度な数理的・工学的アプローチを駆使して取り扱う「金融工学」について、実社会での事例を用いて平易でわかりやすい解説を試みる。まず、金融のリスクについて考え、ポートフォリオ理論、金融派生商品（デリバティブ）、オプション価格決定についての基礎を解説し、金融工学の応用を最新の動向と具体的な事例を交えて解説する。オプション価格決定のためのブラック=ショールズ・モデルの解説に当っては、身近な表計算ソフトを利用して例題や演習を解くことにより、その概念を確実に理解することを目指す。

### 【授業の目標】
金融のリスクについて理解し、ポートフォリオ理論、金融派生商品（デリバティブ）、オプション価格決定についての基礎を理解すること。そして、金融工学を応用した最新の動向と具体的な事例を理解すること。

### 【授業計画】
1．金融のリスクを考える
2．ポートフォリオ理論の本質
3．金融派生商品（デリバティブ）とは
4．オプションの価格決定理論
5．金融工学の応用

### 【評価方法】
出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
金融工学　マネーゲームの魔術（吉本佳生著　講談社＋α新書）

### 【参考文献・資料】
Excelで学ぶ金融市場予測の科学（保江邦夫著　講談社）

## ファイナンシャルプランニングⅠ

島田舒一

### 【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅰでは、学習する6分野のうち、金融資産の運用、保険とリスク管理、ライフプランニングと年金などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

### 【授業の目標】

年金、社会保険、生命・損害保険、税金、不動産、相続など社会生活に必要な知識を理解させるとともに、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。

### 【授業計画】

1．ライフプランニングの重要性
2．社会保険
3．公的年金
4．ライフプランの策定と計画
5．リスクマネージメントと保険
6．生命保険
7．損害保険
8．第3分野の保険
9．金融マーケットと金融商品
10．債券投資
11．株式投資
12．資産運用の考え方

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能検定研究会編著　きんざい）

### 【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能検定研究会編著　きんざい）
パーフェクトFP技能士3級対策問題集・実技編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能検定研究会編著　きんざい）

## ファイナンシャルプランニングⅡ

島田舒一

### 【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅱでは、Ⅰで学習した3分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

### 【授業の目標】

年金、社会保険、生命・損害保険、税金、不動産、相続など社会生活に必要な知識を理解させるとともに、ファイナンシャルプランナーの資格取得を目指す。

### 【授業計画】

1．所得税の仕組み
2．各種所得
3．所得控除、税額控除と所得税の申告
4．保険、年金、金融商品と税金
5．不動産の見方と不動産取引
6．不動産と法律
7．不動産と税金
8．不動産の有効活用
9．相続と法律
10．相続
11．贈与
12．相続財産の評価

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（3級用）（きんざいFP技能検定研究会編著　きんざい）

### 【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士3級対策問題集・学科編（きんざいFP技能検定研究会編著　きんざい）
パーフェクトFP技能士3級対策問題集・技能編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能検定研究会編著　きんざい）

## プログラミング入門

西荒井学　小林久恵　原 伸之

### 【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASIC言語等を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

### 【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をコンピュータ実習を通じて習得する。

### 【授業計画】

1．システム開発におけるプログラミング
2．プログラミング言語の概要
3．プログラミングの基礎、手順
4．アルゴリズムとフローチャート
5．変数とデータ型
6．順次構造
7．関数の利用
8．選択構造
9．繰り返し構造（1）
10．繰り返し構造（2）
11．一次元配列
12．二次元配列
13．文字列処理

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

プログラミング入門（西荒井学著　共立出版）

## プログラミング応用Ⅰ

諸上茂光

### 【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Excel, Visual Basicを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

### 【授業の目標】

実際にプログラムを作成することにより、Visual Basic及びVisual C++によるプログラミング方法の習得。

### 【授業計画】

1．ガイダンス
2．Excelを用いた表計算と図表の作成
3．Visual Basic によるプログラミングの手順
4．Visual Basic の基本操作
5．Visual Basic プログラミング演習1（演算子，関数）
6．Visual Basic プログラミング演習2（繰り返し，条件分岐）
7．Visual Basi cプログラミング演習3（図表作成）
8．C/C++ の考え方と基礎的な構文
9．Visual C++.net の使用方法
10．Visual C++ プログラミング演習1（演算子，関数）
11．Visual C++ プログラミング演習2（繰り返し，条件分岐）
12．Visual C++ プログラミング演習3（ファイル入出力）
13．Visual C++ プログラミング演習4（配列操作）
14．まとめ

### 【評価方法】

出席、レポートによる総合評価

### 【テキスト】

第1回目の授業にて指定

### 【参考文献・資料】

補足資料を適宜配付

## プログラミング応用Ⅱ

小林久恵

### 【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須条件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Javaを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用なプログラムを作成する能力を育成する。

### 【授業の目標】

Javaの特性を理解し、コンピュータ実習を通じてJavaのオブジェクト指向プログラミングを習得する。

### 【授業計画】

1．Javaプログラムの基本構造
2．Javaの基本操作
3．一次元配列、二次元配列
4．選択構造（if－else文、switch－case文）
5．反復構造（for文、while文、do－while文）
6．例外処理
7．オブジェクト指向
8．クラスとインスタンス
9．コンストラクタ
10．クラス変数とクラスメソッド
11．クラスの継承
12．アクセス制御
13．まとめ

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験、及びコンピュータ実習課題提出内容によって総合評価する。

### 【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック（三和義秀著　共立出版）

## ビジネスプレゼンテーション

三浦信宏

### 【授業の概要】

ビジネスの場面における情報メディアと自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から学習する。また、プレゼンテーションツール、マルチメディアを活用し実践することにより、プレゼンテーションスキルを習得する。

### 【授業の目標】

見やすいプレゼンテーション資料を作成し、効果的な発表を行うことのできるスキルと知識を習得する。

### 【授業計画】

第1回　ガイダンス
第2回　プレゼンテーションの概要
第3回　パワーポイントによるスライド構成と基本機能（1）
第4回　パワーポイントによるスライド構成と基本機能（2）
第5回　プレゼンテーション・シナリオの作成
第6回　プレゼンテーション資料の作成（1）
第7回　プレゼンテーション資料の作成（2）
第8回　プレゼンテーション資料の作成（3）
第9回　プレゼンテーション資料の作成（4）
第10回　プレゼンテーション・スキルの整理
第11回　発表と講評（1）
第12回　発表と講評（2）
第13回　発表と講評（3）
第14回　発表と講評（4）
第15回　まとめ

### 【評価方法】

出席状況、スライド作成の課題、発表等の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著　弘学出版）

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## ビジネスプレゼンテーション

梅田敏文

### 【授業の概要】

ビジネスの場面における情報メディアと自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から学習する。また、プレゼンテーションツール、マルチメディアを活用し実践することにより、プレゼンテーションスキルを習得する。

### 【授業の目標】

見やすいプレゼンテーション資料を作成し、効果的な発表を行うことのできるスキルと知識を習得する。

### 【授業計画】

第1講　ガイダンスとプレゼンテーション概要
第2講　パワーポイントの構成と基本機能
第3講　プレゼンテーションシナリオの作成
第4講　プレゼンテーション資料の作成（1）
第5講　プレゼンテーション資料の作成（2）
第6講　プレゼンテーション資料の作成（3）
第7講　プレゼンテーション資料の作成（4）
第8講　発表（1）
第9講　発表（2）
第10講　発表（3）
第11講　発表（4）
第12講　発表（5）
第13講　まとめ

### 【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

### 【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著　弘学出版）

### 【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 情報倫理

梅田敏文

### 【授業の概要】

情報化社会の特徴、ＩＴが社会に及ぼす影響などを考察するとともに、知的財産権、プライバシー、コンピュータ犯罪などを検討し、情報倫理の必要性を理解する。

### 【授業の目標】

情報倫理の基礎概念と、現在課題とされているテーマについて幅広く理解する。

### 【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　情報倫理ベイシック（1）
第3講　情報倫理ベイシック（2）
第4講　情報技術の社会的インパクト
第5講　情報社会における個人・企業・社会の倫理
第6講　情報倫理のフレームワーク
第7講　技術倫理という視座
第8講　企業情報化の進展と倫理
第9講　企業倫理と個人情報保護
第10講　ITガバナンスと情報倫理
第11講　情報倫理の実践―企業と自治体の比較―
第12講　技術による情報倫理の実現
第13講　情報技術の進展と法の整備
第14講　倫理思想と情報技術
第15講　テスト

### 【評価方法】

出席点とテストで評価する。

### 【テキスト】

情報倫理（村田潔編　経営情報学会情報倫理研究部会著　有斐閣）

## 情報システム論Ⅰ（DB）

林 誠

### 【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

### 【授業の目標】

企業情報システムの中でのデータベースの位置づけを理解し、データ中心の設計手法を習得する。エンタープライズアーキテクチャの方法論についても活用できるようにする。

### 【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　企業情報システムとデータベース
第３回　データベースシステムの基本概念
第４回　データベースの種類と特徴
第５回　業務プロセスとデータベースの位置付け
第６回　エンタープライズアーキテクチャ（EA）の概要（１）
第７回　エンタープライズアーキテクチャ（EA）の概要（２）
第８回　ビジネスアーキテクチャ
第９回　データベースアーキテクチャ
第10回　構造化分析とデータ分析
第11回　データベース設計（１）
第12回　データベース設計（２）
第13回　データベース設計（３）
第14回　まとめ
第15回　テスト

### 【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは適時指示する。

## 情報システム論Ⅱ（設計）

林 誠

### 【授業の概要】

情報システムは情報の入手・処理・活用を行うためのシステムである。近年とみに企業環境の変化の激しさから情報システムの構築がビジネスのニーズに追いつかない面が顕著に現れている。そのため、いままで企業独自に開発してきた情報システムを捨てて統合的なソフト・パッケージを採用した情報システムへの移行も進んでいる。本講義では、はじめにアプリケーションシステムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをとおして会計システムの機能設計（概要設計を含む）や運用設計の基本も学ぶ。全体を通して、実際の業務とアプリケーションシステムの整合性をどのようにとりシステムを構築・管理をすればよいかの基本を理解することを目標にしている。

### 【授業の目標】

業務分析、アプリケーションの設計を通じて、企業の基幹業務システムの構造を理解し、IT化によって業務プロセスを改善する能力を育成する。

### 【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　企業と基幹情報システム
第３回　情報システム設計・開発のプロセス
第４回　アプリケーションシステム設計・開発の基礎（１）
第５回　アプリケーションシステム設計・開発の基礎（２）
第６回　情報システムの構造変化
第７回　情報システムとビジネスモデル
第８回　販売管理システムの概要
第９回　販売管理システムの設計
第10回　会計の基礎知識
第11回　会計システムの概要設計
第12回　会計システムの詳細設計
第13回　Excelによる開発演習（１）
第14回　Excelによる開発演習（２）
第15回　まとめ

### 【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは適時指示する。

### 【参考文献・資料】

会計情報入門：Excelによる会計処理と分析（橋本義一・他著　創成社発行）
会計情報システムの機能と構造（田宮治雄著　中央経済社発行）

## 情報通信ネットワーク論

諸上茂光

### 【授業の概要】

「情報通信」とは、情報を相手に知らせることであり、そのために使われるしくみの中心がネットワークである。現在はインターネットというグローバルなネットワークから個別に構築された個別ネットワークまで大小さまざまなネットワークがビジネスで活用されている。その中で代表的なネットワークについて理解することが企業ビジネスにおいて重要である。

当講義では情報通信ネットワークを情報通信とネットワークの２つの概念の基に取り扱う。情報通信では、「情報とはなにか」から始まり、情報通信の基本である通信回線の種類や伝送方式について学習する。ネットワークでは、LANやインターネットのしくみについて学習する。さらにネットワーク構築の際の運用や管理の知識について学び、最近特に注目されているネットワーク・セキュリティについても学習する。全体を通して情報をいかにうまくビジネスに活用するか、という観点からそのしくみである情報通信ネットワークの役割を理解することを目標にしている。

### 【授業の目標】

企業ビジネスにとって重要な情報通信の仕組みと活用方法の習得。

### 【授業計画】

1．ガイダンス
2．情報通信ネットワークの概要
3．ネットワークの接続形態とコスト
4．通信回線の種類
5．LANとWAN
6．ネットワーク制御とプロトコル
7．ネットワークシステムの設計
8．ネットワークの運用と管理
9．ネットワークサービスの種類
10．インターネットの歴史と通信の仕組み
11．インターネットの接続環境
12．セキュリティの管理
13．ビジネスと情報通信（電子取引）
14．まとめ

### 【評価方法】

出席、レポート、テストによる総合評価。

### 【テキスト】

コンピュータ・ネットワーク概論（水野忠則・他著　ピアソン・エジュケーション発行）

### 【参考文献・資料】

補足資料を適宜配布する。

コンピュータ・ネットワーク概論（水野忠則・他著　ピアソン・エジュケーション発行）
コンピュータ・ネットワークの運用と管理（水野忠則・他著　ピアソン・エジュケーション発行）
わかりやすい情報通信ネットワーク（都丸敬介著　ソフト・リサーチ・センター発行）

## ITと職業倫理

梅田敏文

### 【授業の概要】

情報化の進展による産業や職業の変化を検討する。情報と関わる職業に要求されるプロフェッショナル倫理を、ケーススタディなどを通して理解を深め、情報化社会における職業観や勤労観を育成する。

### 【授業の目標】

ＩＴが現代の職業に与えている影響を理解し、学生としてまた、社会人としてＩＴの望ましい活用方法を習得する。

### 【授業計画】

第１講　ガイダンス
第２講　情報化社会の進展
第３講　職業とは
第４講　情報化と職業
第５講　企業活動と情報化
第６講　企業の人材育成
第７講　職業倫理（プロフェッショナル倫理）（１）
第８講　職業倫理（プロフェッショナル倫理）（２）
第９講　職場監視
第10講　内部告発
第11講　事例研究（１）
第12講　事例研究（２）
第13講　事例研究（３）
第14講　まとめ
第15講　テスト

### 【評価方法】

出席点とテストで評価する。

### 【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

## システムリスク管理論

上原 衛

### 【授業の概要】
インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、企業や金融機関は、ビジネスリスクや通信ネットワークのリスクにさらされるようになった。
本科目では、これらのリスクをシステムリスクとして概観し、とくにネットワークの構築や運用時のリスクと、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクに焦点をあて実習を通して学習する。
また、リスク低減策としてのセキュリティの知識と技術を習得する。

### 【授業の目標】
リスク管理に関して、まず戦略的統合リスク管理を理解した上で、情報セキュリティ管理、システムリスク管理からビジネスリスク管理にいたるまで理解を深めること。

### 【授業計画】
1．情報化環境の構築と整備
2．情報化環境の運用と活用
3．情報化環境の管理
4．情報通信ネットワークとコミュニケーション
5．情報システム・経営システムにおけるリスクについて
6．eビジネスの進展に伴うビジネスリスクとシステムリスクの増大
7．リスクの評価とコントロール
8．情報セキュリティ管理（1）
9．情報セキュリティ管理（2）
10．情報化社会における新たなリスクとリスクマネジメント
11．システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（1）
12．システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（2）
13．企業経営と全社的リスクマネジメント
14．システムリスク・マネジメントの実践例（1）
15．システムリスク・マネジメントの実践例（2）

### 【評価方法】
出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
適宜指定する。

## プロジェクト管理

三浦信宏

### 【授業の概要】
適用業務開発プロジェクトを想定し、情報システムの設計局面、管理局面の作業内容とプロジェクトコントロールの知識と技法を学習する。とくに、画面設計やデータベース設計の作業を取り上げ、設計の作業を実習するとともに、作業の進捗管理、品質管理、変更管理の知識を習得し、情報システムの効果的な設計と管理の技法を学習する

### 【授業の目標】
情報システム開発に関する開発手順・管理項目について実例を基に理解を深める。

### 【授業計画】
第1回　ガイダンス
第2回　情報システム開発とプロジェクト
第3回　情報システムの開発プロセス
第4回　プロジェクト実施計画の立案Ⅰ
第5回　プロジェクト実施計画の立案Ⅱ
第6回　プロジェクト実施計画の立案Ⅲ
第7回　情報システムの適用業務分析
第8回　情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
第9回　情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
第10回　プロジェクト実施局面における進捗管理
第11回　プロジェクト実施局面における品質管理
第12回　プロジェクト実施局面における変更管理
第13回　プロジェクトの評価方法
第14回　国際標準プロジェクトマネジメント（PMBOK）の動向
第15回　テスト

### 【評価方法】
出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
なし、プリント配布

### 【参考文献・資料】
授業の途中に適宜、資料を配布する。

## 流通情報システム論

三浦信宏

### 【授業の概要】
流通サービス産業におけるコンビニエンスストアをとりあげて、情報システムの設計、管理、活用の知識を習得する。とくに、コンビニ経営のためのデータベース設計や情報検索の手法を、実習を通して習得する。また、情報システムを基盤としたコンビニ経営の最新動向を学習する。

### 【授業の目標】
小売業に関する業種、業態の現状と情報化の課題を理解する。

### 【授業計画】
第1回　ガイダンス
第2回　企業経営における情報システムの役割
第3回　流通業における情報システムの変遷
第4回　流通情報システムの特徴
第5回　流通業務フローと業務処理
第6回　流通情報システム事例Ⅰ（企業間取引情報システム）
第7回　流通情報システム事例Ⅱ（企業内情報システム）
第8回　流通情報システムの適用業務設計（DFDによる実習）
第9回　流通情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
第10回　流通情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
第11回　流通情報システムの運営と管理
第12回　流通業の諸形態と小売業の将来像
第13回　ロジスティクス改革（QR、ECR、SCM）と新流通情報システム
第14回　まとめ
第15回　テスト

### 【評価方法】
出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
なし、プリント配布

### 【参考文献・資料】
流通情報概論（高崎商科大学ネットビジネス研究所編　成山堂）

## 経営情報システム論

林 誠

### 【授業の概要】
経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

### 【授業の目標】
経営情報システムの進化のプロセスを学習し、ITが企業の意志決定やビジネスモデルに与える影響を理解する。

### 【授業計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　情報通信ネットワークの進展と情報システム
第3回　コミュニケーション形態の変遷と情報システム
第4回　経営情報システムとネットワーク
第5回　MISの歴史
第6回　意思決定支援システム
第7回　SIS（戦略的情報システム）
第8回　BPRと情報システム
第9回　ロジスティクスシステム
第10回　SCMとネットワーク
第11回　ナレッジマネジメントシステム
第12回　CRMとCS経営
第13回　経営情報システムの構築手法
第14回　まとめ

### 【評価方法】
出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】
適時指示する。

### 【参考文献・資料】
経営情報システム（島田達巳、高原康彦著　日科技連）
現代経営情報システム開発論（立川丈夫著　創成社発行）

## コンピュータシミュレーション

上原 衛

### 【授業の概要】

情報処理システムを活用してデータの統計処理やシミュレーション機能を学習するとともに、図形処理や画像処理機能を活用して効果的なデータ提示方法を検討する。

### 【授業の目標】

オペレーションズリサーチ（ＯＲ）の代表的な手法である待ち行列、線形計画法に加え、ＡＢＣ分析、回帰分析、重回帰分析、数量化理論Ｉ類、経済性分析について理解を深め、実務に利用できるコンピュータシミュレーションの知識を習得すること。

### 【授業計画】

第１回　コンピュータシミュレーションとは
第２回　Excelを利用したシミュレーションの基礎（ゴールシーク、シナリオ、テーブル）
第３回　Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列１）
第４回　Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列２、乱数）
第５回　Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列３）
第６回　Excelを利用したシミュレーション（OR：線形計画法）
第７回　ＡＢＣ分析
第８回　需要予測　回帰分析
第９回　需要予測　重回帰分析１
第10回　需要予測　重回帰分析２
第11回　需要予測　数量化理論Ｉ類
第12回　経済性分析１
第13回　経済性分析２
第14回　まとめ

### 【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

## 異文化コミュニケーションⅠ

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

日本は21世紀のボーダーレス社会において、工業大国と呼ばれながらも、外交や貿易取引、あるいは海外への多額の経済援助にも拘わらず、コミュニケーションの分野でややもすると誤解を受けたり、「顔」が見えないなどの批判を受けている。日本はなぜ世界から理解されないのか？　当コースでは「多文化共生時代」を生きる学生と共に、異文化間でのコミュニケーションのあり方を模索、探求することを目的とする。

### 【授業の目標】

海外に在住する多文化を生きる人々の生活習慣、価値観、日常の行動で特に日本人学生に理解し難い要素を、日英両語の資料を使い国際感覚を育成する。

### 【授業計画】

1週　Orientation
2週　Greeting
3週　Making Contact
4週　Dressing
5週　Moving and Touching
6週　Chatting
7週　Choosing Your Language
8週　Midterm Exam
9週　Eating and Drinking
10週　Gift-giving
11週　Time-keeping
12週　Working Together
13週　Visiting Homes
14週　Final Exam
15週　Extra class

### 【評価方法】

中間、期末試験、出席率、授業への参加状況などを総合的に評価判断する。

### 【テキスト】

*Kiss, Bow, or Shake Hands* (Richard Powell, Macmillan LanguageHouse, 1994.)

### 【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子他　三修社　1998.）

## ビジネスマナーと異文化

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

当講座は、21世紀の国際ビジネスパーソンを目指す学生が、海外との取引や異文化における習慣や価値観などを学習することによって、国際ビジネスマナーや、世界に共通するプロトコールについて広範囲にわたり研鑽を積み、将来の国内、海外での商取引をはじめ、国際交流におけるコミュニケーションでの正しいマナーを身につける。

### 【授業の目標】

海外とのビジネス行動において、日常何気なく行われる簡単な握手や自己紹介、アポイントメントの取り方を始め、数多くの事柄の中で、日本人が慣れていない国際的マナーやプロトコールについて国ごとにその特徴を考える。

### 【授業計画】

1．Orientation
2．序章：　国際儀礼の基本的な考え方
3．第１部：　日常生活【社交面】のDoとDon't
4．第２部：　ビジネス【オフィス】のDoとDon't
5．まとめ
6．期末試験

### 【評価方法】

期末試験、英語を使用してのPresentation又はレポート、授業への出席・関与度を総合的に評価判断する。

### 【テキスト】

国際ビジネスのためのプロトコール（寺西千代子　有斐閣　2000）
世界60カ国比較文化事典（T. モリスン、W.A.コナウエイ、G.A.ボーデン、マクミラン　ランゲージハウス　1999）

### 【参考文献・資料】

海外のビジネスマナー（ジェトロ　【日本貿易振興会】編　2003）

## 異文化コミュニケーションⅡ

福本明子

### 【授業の概要】

本講義では、「文化」を静止的なものではなく構築されたものとして捉え、異文化コミュニケーションⅠで学習した「文化」の概念を再検討する。力の性質や機能を学び、異文化コミュニケーションの複数のアプローチを学習し、人をカテゴリーに分類して理解することを検証します。英語や方言への言語に関る「力」、アメリカ・日本社会でマジョリティーからマイノリティーへ関る「力」を学び、多文化共生社会へ向け、コミュニケーションを通じて個人の社会への関与・貢献の可能性を探求する。異文化コミュニケーションⅠを履修または同程度の知識を有すること。

### 【授業の目標】

「力」のコミュニケーションへの影響を、構築主義・批判主義的視点から学習することを目的とする。

### 【授業計画】

以下のテーマに沿って異文化コミュニケーションへの社会的「力」の影響を学習します。

1．「コミュニケーション」、「力」とは
2．異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
3．カテゴリーで人を理解することについて、社会的現実の構築
4．言語と「力」：英語と方言についての考察
5．社会と「力」：ホワイトネス研究、日本人論、アイデンティティー
6．グローバライゼーションと多文化共生とは

### 【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】

初回の授業にて発表。

### 【参考文献・資料】

多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　監修　三修社）

## ビジネスと社会

國信潤子　原山恵子

### 【授業の概要】
ビジネス・労働環境における人間関係の諸側面を法制、社会階層、ジェンダー関係など産業社会学的視点および法制度から考察する。近年女性・男性の社会参画が社会のあらゆる側面で進展している。しかし雇用均等法などの法制は日本のビジネス界に十分に浸透しているとは言い難い。そこで２名の講師によるビジネス活動の多面的な考察をおこなう。
（オムニバス方式）
（國信潤子教授）
社会学的統計データ、産業社会学、男女共同参画などの領域でビジネス、労働環境におけるジェンダー関係を紹介する。
（原山恵子弁護士、兼任講師）
法制面でのビジネス・労働環境の変容、特にビジネス・労働と家庭生活の両立におけるジェンダー関係の考察を行う。日本社会における企業組織、家庭におけるジェンダー関係を法制面から事例的に考察し、雇用機会均等法、家族関係の変容などについて解説する。

### 【授業の目標】
産業社会学の領域で特に労働環境の変化、雇用の平等について基礎知識を得ること。また事例的に訴訟などからみる男女地位・賃金格差の修正がどのように進展しているかを事例的に学ぶ。それらの領域の国際比較データからその異同を分析する。

### 【授業計画】
ジェンダーの概念を紹介し、産業社会学の領域でジェンダーに敏感な視点とは何かを学ぶ。またその社会的現象について日本の現状を紹介する。各種統計、調査報告、企業における職域、職階別統計データなどから日本のビジネス・労働環境にみるジェンダー区分を考察する。國信が最初の３～４回、ついで原山弁護士によって５～６回、最後にまとめとして國信が２～３回日本のビジネス界おけるジェンダー領域の課題を講じる。
講師２名によるオムニバスである。

### 【評価方法】
履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

### 【テキスト】
特になし。随時資料を配布。

### 【参考文献・資料】
ジェンダーと職業（亀田ほか　東洋経済社）
新しい産業社会学（犬塚編　有斐閣）
コース別雇用管理と女性労働（渡辺　峻著　中央経済者）

## ビジネスレター

寺本史子

### 【授業の概要】
経済のグローバル化の進む中、英文ビジネスレターを書く機会は間違いなく増えている。手紙、ファックス、E－メールと形は異なっても、ビジネスレターにおいて最も大切なものは“50％が文法、のこりの50％は書き手の態度”ともいわれており、明確・簡潔・誠実・友好的に書くことが基本となる。読みやすく、プロフェッショナルにみえる英文ビジネスレターの書き方を、豊富な実例に学び、練習することを通じて、マスターする。

### 【授業の目標】
（１）ビジネスレターによく使われる表現を学び、応用できるように練習する。毎時１通のビジネスレターを完成する。
（２）アルク・NetAcademyビジネスレターの全ユニットを学習し、さまざまな状況に対応する力を強化する。

### 【授業計画】
1．英文手紙の特徴・よい手紙を書くためのルール
2．ビジネスライテイングのポイント
3．依頼と問い合わせ
4．依頼や問い合わせに対する返答
5．発注
6．請求
7．支払い
8．情報の伝達
9．出荷
10．苦情
11．謝罪
12．感謝
13．ルーテインレター
14．ルーテインレター

### 【評価方法】
第一に、課題に取り組む態度を重視するが、出来上がった手紙の内容（正確さと表現の適切さ）そして出席状況等を含め総合的に判断

### 【テキスト】
最新英文ビジネスレター（ブルース・ハード著　立花久稔訳　松柏社）

## ビジネスマナー

松田照美

### 【授業の概要】
一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

### 【授業の目標】
企業活動におけるビジネスマナーの意味を理解し、組織人としてのコミュニケーションスキルを実践的に獲得する。

### 【授業計画】
第１回　オリエンテーション　職業とビジネスマナー
第２回　企業の存立意義
第３回　経営組織について
第４回　仕事の基本原則とすすめ方　～マネジメント・サイクル～
第５回　職場の人間関係とコミュニケーションの理解
第６回　職場における話し方、言葉づかい
第７回　対人接遇の基礎（１）　ビジネス基本行動、来客応対
第８回　対人接遇の基礎（２）　訪問のマナー、紹介の原則
第９回　対人接遇の基礎（３）　ビジネス電話のマナーと実際
第10回　ビジネス文書の作成（１）　文書作成のポイント、社内文書
第11回　ビジネス文書の作成（２）　社外文書、E－mail
第12回　ファイリングの基礎知識
第13回　会議の知識
第14回　慶弔と贈答の心得
第15回　試験

### 【評価方法】
出席状況・課題・期末試験などによって総合的に評価する。

### 【テキスト】
社会人のパスポート（東福賢監修　嵯峨野書院）

## 交渉術 / ディベート

福本明子

### 【授業の概要】
本講義は、「交渉術」をmediation（ミディエーション：第３者仲介調停）とDebateを含む広い概念として捉え、交渉術の概要を講義すると同時に、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とする。概要にて、文化・感情・面子などの交渉・議論への関与を学習する。その後ディベートを中心に、議論の組み立て方・批判検証のポイント・言語操作の俊敏性などの技能向上を目指す。ディベートの使用言語は様子を見ながら日本語と英語の分量を調整する。

### 【授業の目標】
ディベートを通してクリティカル・シンキングを学び、身の回りの情報を論理・批判的に分析できる技能を修得すること

### 【授業計画】
以下の項目を中心にディベートの訓練を行います。
1．「ディベート」、「交渉」、「説得」とは
2．ディベートのルール、フォーマット
3．簡易ディベート
4．「アーギュメンテーション」、「クリティカル・シンキング」とは
5．調査・リサーチ
6．論証・検証のポイント
7．ディベートと復習（３回）

### 【評価方法】
出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、グループ内の相互評価を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】
初回の授業にて発表。

### 【参考文献・資料】
初回の授業にて発表。

## 英語プレゼンテーション

福本明子

### 【授業の概要】

本講義は、プレゼンテーション関連の知識の学習・プレゼンテーションの実践・復習を通して英語でのプレゼンテーションを訓練します。学習項目は、スピーチの構成、言語・非言語による信頼性の構築や聴衆分析や意味付与等です。毎月プレゼンテーションを実施し、学習した情報を実践し、個々人が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探求します。プレゼンテーションは録画し、改善点を各自レポートで分析し、訓練を繰返します。学期末にはパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行います。

### 【授業の目標】

英語でのプレゼンテーション技能を、学習・実践・復習のサイクルを通じて向上させることを目指します。

### 【授業計画】

1．コミュニケーションモデル
2．自己紹介プレゼンテーションと相互評価のポイント
3．意味付与
4．言語メッセージとプレゼンテーション
5．非言語メッセージとプレゼンテーション
6．スピーチと自分らしさ
7．スピーチと文化
8．パワーポイントとプレゼンテーション

### 【評価方法】

出席率、授業への参加度合いやプレゼンテーションやクラスメートとの相互評価を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】

初回の授業にて発表。

### 【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

## Communication Strategies I

JOLLY, James A.

### 【Course description】

This course is aimed at aiding students to develop their abilities to communicate more effectively in English as used in international business. Lessons will emphasize training and practice in listening and speaking using model conversations with practical application in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies in order to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

### 【Course objectives】

1. To increase students' communication abilities in international business situations, with particular emphasis on oral communication skills.
2. To provide practical training and development of the students' abilities to express their thought and ideas freely and assertively.

### 【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

### 【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) (Bquizzes and, (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

### 【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## Communication Strategies II

JOLLY, James A.

### 【Course description】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The objectives of this course are to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include practice in written business communications in addition to business conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

### 【Course objectives】

1. To increase students' understanding of various oral and written business communications and to increase their abilities to properly handle such.
2. To equip students with communication skills to deal with international business situations.

### 【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

### 【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and, (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

### 【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

### 【Reference】

To be recommended individually as need arises.

## ビジネス外書講読 I

小池弘道

### 【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダースダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の日本および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

### 【授業の目標】

英字新聞などのやさしいビジネス文が、辞書を片手に読めるようになる。

### 【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど。企業の経営状況・・・決算状況、収益性分析、倒産など。企業再編成・・・合併、統合、提携など。マーケッティング・・・市場調査・解析、新製品開発など。新技術研究。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ資料配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## ビジネス外書講読Ⅱ

小池弘道

### 【授業の概要】
ビジネス外書講読Ⅰでの学力向上を踏まえて、新聞、雑誌・本（リーダースダイジェスト、日経ジャーナル、ハーバードビジネスレビューなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として使い、さらにレベルアップを図る。

### 【授業の目標】
英字新聞などのビジネス文が、辞書を使って読めるレベルになる。

### 【授業計画】
下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。
世界の政治、経済、外交などに関するニュースを読んで理解する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合、法律問題、環境問題などに関する分野も取り入れて講義していく。

### 【評価方法】
単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】
必要に応じ資料配布。

### 【参考文献・資料】
授業の中で、適宜指示する。

## ビジネス英語入門

ジョリー幸子

### 【授業の概要】
本講義は国際ビジネスに不可欠な英語表現を学び、主として取引の相手との対話、交渉などの実務的口語技術を習得することを目的とする。

### 【授業の目標】
国の内外を問わず、国際言語として世界の国々のビジネス・パーソンとの意志の疎通に不可欠なビジネス英語のスキルの中で特にListeningとOral Communicationに重点を置き、基本的なやりとりが習得できることを目標とする。

### 【授業計画】

Course Orientation

Unit One： Making Introductions
- L.1 Introducing Yourself to a Business Colleague
- L.2 Making a Self-Introduction at a Business Meeting
- L.3 Introducing Business Guests to Colleagues

Unit Two： Taking and Giving Messages
- L.4 Leaving a Message on an Answering Machine or Voice Mail
- L.5 Leaving a Message by Phone
- L.6 Taking a Message in Person for a Colleague

Unit Three： Going on an International Business Trip
- L.7 Getting Ready to Go: Checking-In at the Airport
- L.8 Getting through Immigration and Customs
- L.9 Settling into your Hotel

Unit Four： Everyday Business Dealings
- L.10 Conducting a Business Meeting
- L.11 Making Appointments with Customers
- L.12 Making Small-Talk with Colleagues

Final Examination

### 【評価方法】
期末試験、出席率、レポート、授業への参加状況など総合的に判断評価する。

### 【テキスト】
*Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English*（Todd Jay Leonard, Seibido, 2004）

### 【参考文献・資料】
グローバル・ビジネス英語教本　*Global Business Communication,*（土農田義明　南雲堂　1999）
国際ビジネスコミュニケーション入門　*English for Business Communication,*（亀山和夫、八尾晃　Seibido　1998）

## TOEFL（Writing）

JOLLY, James A.

### 【Course description】
本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一歩一歩学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質問に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

### 【Course objectives】
1. To increase students' abilities to formulate proper responses about given topics and to draft that response in a proper constructed writing.
2. To provide practical training in preparing and writing expressions of personal opinion or comment.

### 【Course schedule】
A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:
1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

### 【Assessment】
Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests. Practice written tests will be given at mid-term and at the end of course.

### 【Textbooks】
The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

### 【Reference】
To be recommended individually as need arises.

## 比較文化特論

國信潤子

### 【授業の概要】
本講座は産業社会学と開発社会学の２領域をジェンダーに敏感な視点から考える。まず日本国内のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観し、次に異なる文化背景を持つ社会とビジネス関係や開発協力関係を形成するときに必要となる異文化理解について考える。近年の経済活動は環境に配慮した「持続可能な開発」が基本とされなければならないのでジェンダーに敏感な視点とともに環境配慮について近年の開発協力の状況を事例紹介する。このとき男女の社会関係の平等化は重要な鍵である。

### 【授業の目標】
本講座は産業社会学と開発社会学の領域の接点にある。
1）日本のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観する。
2）異なる文化背景を持つ社会：特に南北社会問題とビジネス関係や開発協力関係の実態を知る。
3）異文化理解について、ジェンダーの視点から各種統計データから比較検討する方法を理解する。
4）近年の経済活動や開発協力活動は環境に配慮し「持続可能な開発」が基本となる。ジェンダーに敏感な視点とともに環境配慮について認識する。

### 【授業計画】
講座の日程
講座第1，2回目：ジェンダーという概念を紹介し、日本社会のジェンダー関係の特徴を検討。
講座第3，4回目：近年の国際法における男女平等法を紹介。国連女性の地位委員会、ILO他
講座第5，6回目：開発途上国におけるジェンダー関係関連の統計資料を検討。主に南北社会問題を考察する。
講座第7，8回目：開発途上国における生活、教育、労働などの実態について事例紹介
講座第9，10回目：日本の政府機関、民間組織による開発途上国支援・協力の実態とその問題点を考察する。特にジェンダー関係を考察。
講座第10，11回目：これからの南北社会関係とジェンダー。日本社会のジェンダー関係の改善に向けての課題を考える。
講座第12，13回目：半期のまとめ。期末レポート課題提、レポート提出。

### 【評価方法】
履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

### 【テキスト】
特になし　資料を随時プリントとして配布する

### 【参考文献・資料】
新しい産業社会学（犬塚他　有斐閣アルマ刊）
ジェンダーと開発（田中ほか　国際協力出版会刊）
人間開発報告書（ＵＮＤＰ　国際協力出版会刊）

## 異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

### 【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なもの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることでもある。その意味からも、日本人の常識と社交性の特質を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

### 【授業の目標】

今日の国際化の中で諸外国の異文化状況を具体的に把握し、異文化適応ができる能力を形成する。

### 【授業計画】

1．異文化間コミュニケーションの背景
2．異文化間コミュニケーションの領域
3．文化とコミュニケーション
4．非言語コミュニケーション
5．言語と文化的認識
6．言葉の中のジギルとハイド
7．カルチャー・ショック
8．より効果的なコミュニケーション

### 【評価方法】

授業中の発言や参加度、積極的な態度、最後に期末試験を行い、総合して評価する。

### 【テキスト】

異文化間コミュニケーション入門（鍋倉健悦著　丸善ライブラリー）

## 異文化教育論

霜田一敏

### 【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を身近な異文化教育の観点から具体的に論究する。

### 【授業の目標】

身近にある異文化状況を見直し、人間形成の観点から考えられる能力を培う。

### 【授業計画】

・身近な異文化の教育論
序．大学入学までの異文化体験
1．大学生活の異文化状況
2．ひとり暮らしの異文化状況
3．方言と風俗習慣の違い
4．都会と田舎の文化の違い
5．アルバイト（世界）の異文化状況
6．世代間・家族間の異文化状況
7．いじめ・ひきこもりの世界
8．障害者の世界
9．インターネットの世界
10．海外旅行・留学での異文化体験
11．その他（転居・転入学など）

### 【評価方法】

授業中の発言やミニレポート、最後に期末試験を行い、総合的に評価する。

## 組織心理学

石田寅生

### 【授業の概要】

組織とは何か、個人は組織に参加することで相互に影響しあっている。社会心理学の基礎的知識を学習した上で、組織の特徴を捉え、集団から個人へ、個人から個人への影響のあり方について研究をする。

### 【授業の目標】

授業において、個人が組織に参画し、それらの成員となるために必要な知識や考え方を取得する。

### 【授業計画】

1．組織とは何か（組織と人との関係を概観する）
2．組織の目的と行動システム（個人と集団、環境の影響）
3．組織の機能と成果（組織モチベーションとは）
4．組織の意志決定システム（いかにして成立するか）
5．組織の構成と多様化（個人差、社会環境、その他の影響）
6．組織と個人の葛藤（人間関係とストレス）
7．組織の成功と衰亡（リーダーシップとは）

### 【評価方法】

出席状況（20%）、レポート（80%）

### 【テキスト】

未定（考慮中）

### 【参考文献・資料】

組織の心理学（田尾雅夫　有斐閣ブックス）
成功の技法（田尾雅夫　中公新書）
組織の盛衰（堺屋太一　PHP研究所）
イノベーションと企業家精神（P.Fドラッカー　ダイヤモンド）　以上

## 比較文化論Ⅰ（日・米）

鈴木哲至

### 【授業の概要】

日本とアメリカの文化を比較をするとき、表層のみならず深層文化へ思いをめぐらし考察することにより、日米の人々の意識の違いが浮き彫りになってくるに違いない。この授業では日本とアメリカの文化の中で、変化しつつあるものとそうでないものを見つめながら、深層にある隠れた文化をつきとめる試みをする。

### 【授業の目標】

様々な文化人類学的切り口を通して日米文化を比較することにより、内と外から見た日米深層文化の客観的な捉え方を認識することを目標とする。また課題を通して新聞の批判的な読み方、文章の要約の仕方も身に付ける。

### 【授業計画】

アメリカ文化関連新聞記事の切り抜きの発表、課題の文献（英語）の要約の発表の後、講義、討論などにより、毎回のテーマの考察をする。また、美しいビデオ映像などにより、視覚的にも日米文化の比較を楽しみながら授業を進める。

パート　1　文化の基盤
1．文化の型
2．自然環境
3．宗教
4．政治
パート　2　文化のスナップショット
5．権力
6．時間
7．多様性
8．性意識
9．新聞
10．買い物とビジネス
パート　3　変わりゆく価値観
11．新しい家族
12．新しい学生
13．新しい働き手

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、その他を総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本とアメリカ―深層文化へのアプローチ（Paul Stapleton著　金星堂）
夢のアメリカ合衆国探訪（Timothy Kiggell著　マクミラン・ランゲージハウス）

# 異文化トレーニング

福本明子

## 【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々が共に生活し、問題を解決するために必要な知識・態度・コミュニケーションの習得の為にどのような訓練が有効か、ロールプレイやシミュレーション等を体験しながら任意のトレーニングを立案・実施できるよう訓練する。異文化コミュニケーションⅠを履修又は同程度の知識を有すること。

## 【授業の目標】

トレーニングの立案・実施を学習することを目的とします。

## 【授業計画】

異文化コミュニケーションⅠで学習する基礎概念を元に、以下のテーマに沿って異文化トレーニングについて学習します。

1．異文化コミュニケーションの発展と前提
2．「文化」「トレーニング」とは
3．「大人の学習者」「学習スタイル」
4．トレーニングの立案
5．トレーニング技術、聴衆分析
6．トレーニングの評価
7．トレーニングの実施

## 【評価方法】

出席率、課題、授業中のディスカッションへの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

## 【テキスト】

初回の授業にて発表。

## 【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子、町惠理子、小池浩子、磯貝友子　三修社）
異文化間コミュニケーション入門（西田ひろ子　編　創元社）
多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　監修　三修社）

# ビジネス概論Ⅰ

市古 勲

## 【授業の概要】

我々の生活は企業無しではもはや成り立たない程、企業と深い関係がある。本講義では、ビジネスの中心である企業および企業が抱える問題の全体像を理解することを目的とする。まず企業はどのようなもので、どのような活動をしており、各々の企業が、どのような構造・形態をしてるのかを取り上げる。次に企業は誰のため、何のためにあるのかという、コーポレートガバナンス（企業統治）の視点から企業を分析した上で、企業の社会的責任や社会貢献の問題についても取り上げる。

## 【授業の目標】

現代社会における企業の現実を分析するための枠組みを受講生に提供することが、本講義の目標である。これによって、企業の諸活動とその社会に及ぼす影響を、各受講生が自分自身の問題としてリアルに知覚できるようになることを望んでいる。

## 【授業計画】

1．ガイダンス―講義の進め方、企業とは何か―
2．企業観―企業の見方―
3．企業の分類（1）―企業規模、公企業と私企業―
4．企業の分類（2）―私企業（旧法）―
5．企業の分類（3）―私企業（新法）―
6．株式会社の特徴と仕組み
7．ケース分析―個人企業が会社になること―
8．企業の分類（4）―公開・非公開会社、その他の形態―
7．所有と経営の分離
9．株主と企業の関係―M＆Aに関わる問題―
10．ケース分析―会社は誰のものか―
11．コーポレート・ガバナンス（1）―制度的考察―
12．コーポレート・ガバナンス（2）―理論的考察―
13．企業の社会的責任
14．総復習
15．テスト

## 【評価方法】

分析レポート（40%）、試験（60%）の比率で総得点を算出し、評価付けを行う。

## 【テキスト】

講師の自作レジュメ（以下の参考文献を基礎に作成されている）

## 【参考文献・資料】

テキスト経営学［増補版］（井原久光　ミネルヴァ書房）
経営学再入門（手塚公登・小山明宏・上田泰　同友館）
ベーシック会社法入門（宍戸善一　日本経済新聞社）
ゼミナール会社法入門（岸田雅雄　日本経済新聞社）
企業論（三戸浩・池内秀己・勝部伸夫　有斐閣アルマ）
テキスト現代企業論（坂本恒夫・大坂良宏　同文館出版）
企業形態論（小松章　新世社）
コーポレート・ガバナンス入門（深尾光洋　ちくま新書）
日本型コーポレートガバナンス（伊丹敬之　日本経済新聞社）
コーポレートガバナンスの経済学（小佐野広　日本経済新聞社）

# マスコミュニケーション論

小塚哲司

## 【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起きる日々の動きを映す鏡である。IT革命と相まって、ますますグローバル化、スピード化する21世紀高度情報社会。マスコミ、マスメディアは、そうした刻々と起きる地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をして、国民に伝えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されてこそ可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。ジャーナリズムに課せられた責務と職業観、勤労観を考え、ニュースへの理解を深めるため、主に新聞報道を素材として、新聞記者、海外特派員の体験を交えながら、分かりやすく教えていきたい。

## 【授業の目標】

ニュースとは何かをしっかり学ぶ。高度情報化時代、デジタル時代の中で、マスコミ、特に活字メディアである「新聞」の果たすべき役割とジャーナリズム倫理を考える。

## 【授業計画】

1．マス・コミュニケーションは、一度に大事件などを多数に伝えられる点では有効だが、一つ誤ると大混乱を生む。公平な視点を欠けば、偏った見方を伝えてしまう。影響力が大きいが故に、加害者、被害者、報道される側の人権、プライバシーへの細心の配慮、厳しい報道倫理が求められる。
2．低年齢化する少年非行、実名と匿名報道、その訴訟例、イラク戦争とナショナリズム……。これらの意味、背景を、具体的なニュース報道で検証する。
3．新聞、メディアの歴史と日本、世界の新聞、通信事情を考える。
4．授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、その週の大きなニュースを解説する。

## 【評価方法】

出席率、毎日の小レポートと最終講義での大レポートなどで総合評価する。

## 【テキスト】

毎回、独自のレジメを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## ビジネス概論Ⅱ

浅井敬一朗

### 【授業の概要】

ビジネスは変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（1）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（2）いかに分業し調整するという組織構造、組織形態の選択、（3）インセンティブシステムを確立し、いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これら3つのついての概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

### 【授業の目標】

ビジネスストラテジーにつなげる基礎的な科目として、経営戦略論の基礎を学ぶとともに、基本的な組織形態について学習する。

実際の企業ケースにおける簡単な戦略分析ができることを目標とする。

### 【授業計画】

第1回　ガイダンス
第2～10回　企業の経営戦略
・経営戦略の体系
・企業ドメイン
・成長戦略
・競争戦略
第11～13回　企業の組織形態
第14回　まとめ
第15回　テスト

### 【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

### 【テキスト】

わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹著　有斐閣アルマ）

### 【参考文献・資料】

経営戦略（大滝精一他著　有斐閣アルマ）
経営管理（塩次喜代明他著　有斐閣アルマ）

## ビジネスストラテジー

河合篤男

### 【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

### 【授業の目標】

経営戦略のコンセプトを学ぶとともに、それが組織プロセスから生まれるものであることを理解する。人間の行動や思考の産物であるという特性を理解することで、より実効性の高い戦略論の体得を狙う。

### 【授業計画】

0．イントロダクション
1．経営戦略について（その1）
2．経営戦略について（その2）
3．企業のドメイン
4．ドメインの変化
5．企業革新のモデル（その1）
6．企業革新のモデル（その2）
7．資源展開（その1）
8．資源展開（その2）
9．企業とパラダイム
10．パラダイムの逆機能
11．企業革新の新機軸
12．企業革新と経営コンサルタント

### 【評価方法】

試験中心

### 【テキスト】

組織能力を活かす経営　3M社の自己超越ストーリー（河合篤男・伊藤博之・山路直人・山田幸三　中央経済社）

### 【参考文献・資料】

必要に応じて配布する

## 国際ビジネストレンド

真田幸光

### 【授業の概要】

国際ビジネストレンドの講義に於いては、国際化の進む日本経済の現状を鑑み、日本経済の動向、そして日本企業の国際戦略を意識しつつ、Currentな国際経済情勢を学んでいくことを大きなテーマとしている。従って、その題材は新聞、雑誌等のマスコミ報道や日本政府、国際機関の示すデータや情報から取り上げ、これを担当教員が解説した上で、日本経済に与える影響や日本企業に対するビジネス・チャンスやビジネス・リスクなどについて考察、その上で可能な限り、受講生との意見や視点を引き出すことを心掛け、授業を展開していくことを予定している。

### 【授業の目標】

この授業は学生諸君が社会人となる際に必要最低限な国際情勢に関する基礎知識を習得することを第一の目的としている。

また、現状の国際情勢を概観、その上で国際情勢分析を行う為のスキルを習得することを更なる目標と定めている。

### 【授業計画】

第1回　ガイダンス、入門基礎レベル確認試験
第2回　国際経済情勢下に於ける日本経済概況の解説
第3回　最新米国経済事情の解説
第4回　最新欧州経済事情の解説
第5回　最新北東アジア経済事情の解説
第6回　最新中国経済事情の解説
第7回　最新東南アジア経済事情の解説
第8回　最新国際経済事情概要の総括
第9回　日本企業の国際ビジネス展開概要の解説
第10回　日本企業の対外投資戦略に関する解説
第11回　日本政府・日本企業の外資誘致戦略、政策に関する解説
第12回　日本の地方自治体政府の地域企業国際化支援策に関する解説
第13回　日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ1）
第14回　日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ2）
第15回　理解力確認試験

### 【評価方法】

試験による評価

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

## ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

### 【授業の概要】

労働法の基礎知識について講義する。それから企業風土、組織について説明する。更に日本的労働慣行の崩壊について解説する。そのうえで、日本と欧米との人事・労務管理の違いなどを踏まえて、今後の人事・労務管理の変化について説明する。

### 【授業の目標】

人と組織についての基礎的知識を持つ。そして、労働基準法の概要を知る。更に日本の労働慣行・労働市場の今までと将来について理解する。

### 【授業計画】

人というものについて色々な視点から考察する。そのうえで労働基準法などについて講義する。更に企業風土、組織、権限などについて解説する。また日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊とその原因について考察する。更に今後の労働市場の変貌について説明する。また日本と欧米との人事・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。

そのようことを踏まえて、今後の人事・労務管理において予想される変化と個人としての対応について解説する。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

必要に応じ資料配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## ビジネスマネジメント

辻村宏和

### 【授業の概要】

起業ブームの裏には低成長率もあることを見逃してはならない。財務テクニックや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良きビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友（兄弟）の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとってほんのプロローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を“組織の病気”として、事例を交えながら理論的に学習する。

### 【授業の目標】

起業前後で発生するヒューマン・ファクターを起因としたトラブルを数多くの事例によって紹介しつつ、それらの組織論的な説明ロジックを理解すること（詳細は授業にて解説する）。

### 【授業計画】

主要なテーマは以下の通りである。

1．組織の病気（トラブル）の特異性
2．強い組織と非公式組織
3．日本的経営の再検討
4．「任せてくれる」組織の怖さ
5．「参謀」の効用および危険性
6．「目標による管理」の思わぬ落とし穴
7．会議（ティーム）の予想外の非効率性
8．「権力（権限）－権威」図式の有効性
9．二代目経営者のリスク
10．ワンマン経営者の功罪
11．その他

### 【評価方法】

期末試験の結果に講義中に取得したポイント数を加味する。

### 【テキスト】

組織のトラブル発生図式（辻村宏和著　成文堂）

## リテールマネジメント

大塚英揮

### 【授業の概要】

他国に比べて厳しいといわれる「流通規制」に守られていた小売業界も、大店法撤廃、酒販免許緩和などの規制緩和の結果、年々競争が激化する傾向にある。セブンイレブンＶＳローソンのようなコンビニという同じ業態同士の競争のみならず、ユニクロなどの急成長する専門店とイトーヨーカ堂のようなＧＭＳ間の異なる業態間の競争も活発化している。激化する競争にどう対応すればよいのか。本講義では小売業に関する基礎知識を学習した上で、小売業のとりうる競争戦略のパターンについてケースを用いて、より実践的に考察する。

### 【授業の目標】

小売経営に必須となる次のトピックに関する基本的知識を習得する。（1）出店、店舗運営に必要となる基礎知識、（2）小売業界の基礎知識、（3）小売とメーカーとの取引関係、外資系小売との競合関係など、小売を取り巻く環境を分析するために必要となる基礎知識。これらの基礎知識を習得し、現実のケースを分析できる力を身につける。

### 【授業計画】

第１回　小売とは何か
第２回　小売の実態について考える（１）一般小売店と専門店
第３回　小売の業態について考える（２）ＧＭＳと百貨店
第４回　小売の業態について考える（３）コンビニエンス
第５回　小売の「輪」は回る－業態変化のプロセス
第６回　小売の出店戦略（１）
第７回　小売の出店戦略（２）
第８回　売り場を「創る」（１）
第９回　売り場を「創る」（２）
第10回　小売のＩＴ戦略
第11回　メーカーと小売のパートナーシップ（１）
第12回　メーカーと小売のパートナーシップ（２）
第13回　小売の日米比較
第14回　黒船襲来－流通外資の戦略（１）
第15回　黒船襲来－流通外資の戦略（２）

### 【評価方法】

小テストなどの平常点（60%）＋期末試験（40%）で総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

### 【参考文献・資料】

ベーシック　流通と商業（原田英生・向山雅夫・渡辺達朗　有斐閣）

## マーケティングリサーチ

石原 守

### 【授業の概要】

企業の対市場創造活動であるマーケティングは、その意思決定過程において消費者や市場についての多種多様なデータ情報を必要としている。その情報を組織的かつ体系的に収集・記録・分析し、戦略策定や課題解決に反映させる活動がマーケティング・リサーチである。本講義では、リサーチの基礎となる考え方と統計的な分析手法の習得に重点を置きながら解説していく。

### 【授業の目標】

マーケティングによる市場構想の命題は「最適性の追求」である。この本質的課題にマーケティング・リサーチがどのような役割を果たしているのか？
これを理解してもらうことが本講義最大のねらいである。

### 【授業計画】

1．ガイダンス
2．マーケティングの基本発想　－市場創造の意味－
3．マーケティング・リサーチとは何か？　－その意義－
4．market research と marketing research
5．マーケティング・リサーチの手法（１）定量調査とその特徴
6．マーケティング・リサーチの手法（２）定性調査とその特徴
7．マーケティング・リサーチの手法（３）インターネット・サーベイ
8．モバイル・リサーチの現状と課題
9．マーケティング・リサーチの手順
10．サンプリングの理論（１）その考え方と方法
11．サンプリングの理論（２）標本数の決定
12．統計的推定（点推定と区間推定、平均値・比率の推定）
13．統計的検定（標本平均値・標本比率の差の検定）
14．総括
15．試験

### 【評価方法】

期末試験の成績、レポート課題の提出、及び出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に使用せず。毎回の講義時に「講義プリント」を配布する。

### 【参考文献・資料】

初回の講義時に「文献リスト」を配布する。

## アントレプレナー特論

真田幸光

### 【授業の概要】

本講義では、ビジネスの原点とも言うべき「起業」、即ち、人々が「業を起こす」という初期過程からビジネスとは何かを考察していくことを目的としている。起業をするには、財務分析等の定量分析的考察のみならず、市場環境調査、労務管理、リーダーシップなど、幅広い視点からビジネスの本質を捉えていく必要が生じ、こうた幅広い視点を研究することによって受講生のビジネスに対する学問的知識の向上と共に実践的な知識・ノウハウの向上を図っていくべく、講義を展開する。尚、実践的知識・ノウハウ向上の為、開講中、３～４人前後の外部講師（外資系企業経営陣、ベンチャー企業経営者、ベンチャーキャピタル経営者、マスコミ関係者、行政関係者などを予定）を招き、講義を受けた後、担当教員とのディベート、更には受講生との意見交換などを組み入れていくことを予定している。

### 【授業の目標】

本授業はビジネスを起こす際に必要な倫理観、目的意識、経営スキル、組織運営等々を習得しながら、ビジネスの原点を探ることを目的としている。
従って、必ずしも「起業」の為だけの技術論に固執して授業を展開するのではなく、幅広く「企業経営」全般をも概観しながら、経営者としての有り方を学生諸君に理解してもらうことを最終目標としている。

### 【授業計画】

1．ガイダンス
2．ビジネスとは何か
3．起業の契機
4．コアビジネスの作り方
5．販売戦略
6．コスト部門の効率化戦略
7．人材活用
8．企業組織論
9．ファイナンス
10．中期計画の立て方
11．投資家の視点と起業
12．ケース・スタディー１
13．ケース・スタディー２
14．総括
15．理解力試験

### 【評価方法】

試験による評価

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

特になし。

## チャネルマネジメント

大塚英揮

### 【授業の概要】
メーカーが自社商品のシェアを高めていく上で、流通チャネルをどう管理していくかは非常に重要な意味を持つ。本講義では次の３つのトピックスについて取り扱う。(a)「チャネル」の形状、「チャネル」を構成する基本要素であるメーカー、卸、小売三者間の取引関係、(b) メーカーが流通業者とどのような取引関係を結び、どう流通業者を管理するのが最適なのか、(c) メーカーと流通業者間の「製販統合」、これら３つのトピックスについて具体的ケースを用いて学習し、流通に関する専門的知識を習得する。

### 【授業の目標】
チャネルを管理する上で必要となる基礎知識（(１) 流通チャネルの構造がどのように定まるのか、(２) 日本型流通の特徴は何か、(３) 流通をめぐる環境の変化と流通業の対応）を習得する。概念や理論を丸暗記するのではなく、現実のケースにあてはめて分析できる力を習得することが最終目標である。

### 【授業計画】
1. 流通チャネルとは何か（１）
2. 流通チャネルとは何か（２）
3. 流通の基礎理論（１）機能代替可能性、取引数最小化
4. 流通の基礎理論（２）取引費用アプローチ
5. 流通の基礎理論（３）パワー理論、帰属原理
6. 日本型流通システムとは何か
7. 日本型流通（１）専売店制
8. 日本型流通（２）返品制
9. 日本型流通（３）製販統合と製販連携
10. 環境変化と日本型流通の変質（１）流通規制緩和
11. 環境変化と日本型流通の変質（２）流通外資の参入
12. 環境変化と日本型流通の変質（３）流通におけるパワー関係の変化
13. 環境変化と日本型流通の変質（４）流通情報化の進展
14. 環境変化と日本型流通の変質（５）卸売業の機能強化
15. まとめ

### 【評価方法】
小テストなどの平常点（60%）＋期末試験（40%）で総合的に評価します。

### 【テキスト】
使用しない。プリントをその都度配布します。

### 【参考文献・資料】
現代流通（渡辺達朗　有斐閣）
流通原理（田村正紀　千倉書房）

## 統計基礎

元吉忠寛

### 【授業の概要】
本講義では、社会調査やマーケティング・リサーチを行う上で必要となる統計の基礎（どのような分析の際にどのような統計手法を使用するか、また結果をどのように解釈するか）について、表計算ソフトExcelや社会科学用統計パーケージSPSSを利用しながら学びます。

### 【授業の目標】
統計学に関する基本的な知識を学習しながら、パソコンを用いたデータ処理スキルを身につけ、分析方法について理解する。

### 【授業計画】
1. 授業ガイダンス・統計学とは
2. 統計データとその分布
3. 分布の特徴をあらわす指標
4. Excelを用いた統計処理（１）
5. SPSSによる統計処理（１）
6. 相関係数
7. Excelを用いた統計処理（２）
8. 推測統計とは
9. 平均値の差の検定
10. SPSSによる統計処理（２）
11. 回帰分析
12. SPSSによる統計処理（３）
13. カテゴリー変数の関連分析

### 【評価方法】
課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

### 【テキスト】
なし。

### 【参考文献・資料】
講義中に紹介します。

## eビジネス

林 誠

### 【授業の概要】
前半はe－ビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをeビジネスのタイプ事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やe－ビジネスの現状と課題について学習する。後半はe－ビジネスのしくみをエージェントシステム、オークションをとおして学び、e－ビジネスを支援する情報推薦システムについても見ていく。最後にe－ビジネスのシステムを構築する際の概要を留意点を中心に学んでいく。

### 【授業の目標】
最新のICT技術動向とeビジネスの様々なモデルを学習し、eビジネスの戦略策定やビジネスプランの立案が出来る能力を習得する。

### 【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　eビジネスとは
第３回　eビジネスのタイプ
第４回　ビジネスモデル特許と課題
第５回　eビジネスの現状と課題（１）
第６回　eビジネスの現状と課題（２）
第７回　eビジネスの成功モデル（１）
第８回　eビジネスの成功モデル（２）
第９回　Webサービス
第10回　ブログとSNS
第11回　eビジネスのシステム構築概要
第12回　eビジネス戦略策定
第13回　eビジネスのプランの立て方
第14回　まとめ

### 【評価方法】
出席状況、課題および試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】
適時指示する。

### 【参考文献・資料】
eビジネスの理論と応用（菅坂玉美・他著　東京電機大学出版局発行）

## 職業指導論

宮部幸雄

### 【授業の概要】
職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

### 【授業の目標】
1. 自らの個性や適性を最大限に発揮するライフサイクルの中での、将来の人生設計を進めるような職業を見いだすべく、職業のもつ意義と役割について考察する。
2. 進路指導の理論に基づく実践的な指導能力を身につけることを主なねらいとする。

### 【授業計画】
第１章　進路指導の歴史と発展
第２章　教育課程と進路指導
第３章　進路指導における組織と体制
第４章　特別活動における進路指導
第５章　進路指導の方法と技術
第６章　進路相談の方法と技術
第７章　進路指導の評価
第８章　資格取得指導
第９章　産業構造、職業構造の変化と進路指導
第10章　職業生涯設計の在り方

### 【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】
自作教材

## 民法

石畔重次

### 【授業の概要】

現代社会においては法との関わりなしに生活していくことはできない。なかでも民法は最も身近な法である。売買や賃貸借、雇用などの契約、交通事故などの不法行為、物の所有などの物権、さらには家族関係や相続まで、社会生活は基本的に民法によって規律されている。本講では、事例を交えながら、社会人として必要な民法の基礎知識を習得していく。

### 【授業の目標】

民法の基礎的な知識を修得し、法的な思考能力を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

1　民法の基本原則
2　所有権その他の物権。物権変動と対抗要件
3　契約の成立と効力。契約の無効と取消
4　契約各論…売買、贈与、賃貸借、使用貸借、金銭の消費貸借、雇用、請負、委任
5　債務の履行と保証
6　担保物権
7　不法行為と損害賠償
8　夫婦、親子、後見、
9　相続と遺言

### 【評価方法】

レポートの提出により評価する。

### 【テキスト】

民法への招待（池田真朗著　税務経理協会）

## 会社法 I

上田純子

### 【授業の概要】

会社法のうち、まず会社の種類を取り上げ、社員の責任の態様について学習する。株式会社の設立・運営に関して会社法はどのような考え方に基づいてどのような規定を設けているのか講義する。株式に係る規定についても解説する。

### 【授業の目標】

2006年５月から施行される予定の新会社法において、従来の商法上の規定から変更された点を重点的に解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

### 【授業計画】

1　総論・設立（３週）
2　法人格否認の法理
3　会社法の改正経過（３週）
4　会社の設立（２週）
5　株式（３週）
6　株式の譲渡（２週）
7　試験

### 【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

### 【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著　北樹出版　2006年４月刊行予定）
六法（新会社法が掲載されているもの）を持参されたい。

### 【参考文献・資料】

講義内容の全体をカヴァーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

## 会社法 II

上田純子

### 【授業の概要】

会社法のうち、会社の機関と会社の運営に係る規定を中心に取り上げる。会社の経営がいかなる者に任され、その者にどのような義務・責任が課せられるかなど、会社の組織法を中心に講義する。また、企業再編・企業結合等についても可能な限り言及する。

### 【授業の目標】

会社法Ｉに引き続き、株式会社の機関、会計・監査、企業再編などにおける新会社法の諸規定を解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

### 【授業計画】

1　株主総会（２週）
2　株主総会決議の瑕疵
3　取締役と取締役会（２週）
4　取締役の義務・責任（２週）
5　株主代表訴訟（２週）
6　代表取締役
7　監査役・会計監査人
8　企業再編・企業結合
9　委員会等設置会社（２週）
10　試験

### 【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

### 【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著　北樹出版　2006年４月刊行予定）。
六法（新会社法が掲載されているもの）を持参されたい。

### 【参考文献・資料】

講義内容の全体をカヴァーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

## 国際ビジネス法

JOLLY, James A.

### 【Course description】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に考察する。

The aim of this course is to train students in the basic concepts of business law that are currently used in international trade. This field of law includes the legal principles of various trading nations and the new body of international private law developing from trade treaties and international agreements. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of basic Japanese and English vocabulary of legal terminology to be able to converse in an international atmosphere. The course textbook will be in Japanese and students will be required to read and absorb basic concepts covered in these. Supplemental materials will be provided in Japanese and English to augment the lessons.

### 【Course objectives】

1. To provide students with basic knowledge and understanding of the legal concepts relate to international business.
2. To equip students with abilities to recognize the implications that legal problems have for international business dealings.

### 【Course schedule】

Basically class sessions will cover one chapter of the textbook each week, with lecture and supplemental materials related to the current legal principles discuss in that chapter. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Classification and content of Legal Matters（法の分類とその内容）
2. Parties related to international contractual transactions（国際解約の当事者）
3. Characteristics of international trade dealings（国際売買の特色）
4. International trade dispute resolution practices（国際取引紛争の解決）
5. International investment practices（国際投資）
6. International technology transfer practices（国際議実移転）
7. Intellectual property rights（知的所有権）
8. International money markets and financing（国際金融や融資）
9. International transport and shipping（国際運送）

### 【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation and scores in quizzes and the final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in each segment. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

### 【Textbooks】

国際取引法入門：当事者の視点から（富沢敏勝　窓社　1999年）Each student is also expected to have and use his/her own Japanese/English dictionaries.

### 【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

## 有価証券法

藤田修輔

【授業の概要】
商取引の決済等において重要な役割を果たしている手形について、手形法がどのように規定しているのかについて講義する。高度ではあるが、テキストを用いながら法の基本的な考え方の理解を深める。

【授業の目標】
企業の決済方法が多様化した現在においても手形及び小切手による支払いは依然として大きな位置を占めている。本講義において抽象的に手形・小切手での決済方法を論じるにとどめることなく、具体的事例に即して受講者の手形・小切手に関する法的理解を深める。

【授業計画】
1）手形・小切手の法的構造と経済的機能
2）手形行為の特色（原因関係と手形関係）（以下、約束手形を中心に）
3）手形行為の成立要件・方式
4）手形の振出
5）手形の裏書（裏書の意義・効力・善意取得・抗弁の制限）
6）特殊な裏書
7）手形の支払
8）手形の不渡りと銀行取引停止処分
9）遡　求
10）手形保証
11）為替手形・小切手

【評価方法】
筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】
新手形法・小切手法（有斐閣双書）（上柳克郎・北沢正啓・鴻常夫編　有斐閣）

【参考文献・資料】
各授業の際に必要に応じて指示する。

## モジュールⅢ・Ⅳ

吉村文雄　林 誠　三浦克人　諸上茂光

【授業の概要】
モジュールⅠⅡを踏まえて、ビジネス分野の基本知識習得をさらに高め、意欲的に、自ら進んで課題に取組む態度を育成する。

【授業の目標】
ビジネスに欠かせない経済・金融・会計を含む幅広い分野についての関心を高め、新聞・雑誌などを読むように仕向け、ビジネス学部の学生としての自覚をもたす。

【授業計画】
経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野について担当教員がそれぞれの視点からさまざまなテーマを取り上げる。

【評価方法】
出席状況および理解度テストによる。

【テキスト】
必要に応じてプリントを配布する。

## ビジネスと法

藤田修輔

【授業の概要】
現代企業がビジネスの現場で遭遇すると思われる問題を取り上げ、法律的側面から検討する。また、ビジネスに関する興味深い裁判例を取り上げ、解説するとともに、今後企業が対応すべき新たな領域や問題についても考察する。

【授業の目標】
企業がビジネス上直面する法律分野である会社法、民法、商法、手形小切手法、民事執行法、労働基準法、独占禁止法、知的財産法などについての一般的な知識を、現実の取引やトラブル事例（裁判例）の検討を通じて身につける。

【授業計画】
1）ビジネスに関する法の概要（さまざまな法律と裁判の制度について）
2）企業の形態（さまざまな企業の形と法律）
3）株式会社
　株式会社の設立、内部組織、資金の調達、株式会社の変動（営業の譲渡、合併、会社の清算など）
4）企業の取引
　契約の締結と効力、契約の解除、解約に基づく損害賠償請求
5）さまざまな契約
　売買契約、賃貸借契約、消費貸借契約、その他の契約
6）不法行為の責任
7）債権の保全と回収
　緊急時の回収、担保による回収、強制執行による回収
8）企業の法的な整理手続
　破産、民事再生、会社更正など
9）労働関係に関する法
10）経済法、独占禁止法
11）知的財産の管理
　特許権、実用新案権、商標権、著作権など
12）紛争の解決方法
　民事訴訟、調停など

【評価方法】
筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】
書店で購入できるコンパクトな分量のものでよいので六法を準備すること。基本的なテキストは使用しないが、必要に応じて資料を授業の都度に配布することがある。

【参考文献・資料】
講義の対象がきわめて広範なので、各法律分野の講義に入る時に紹介する。

## 基礎演習Ⅰ

浅井敬一朗

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
（1）新聞の経済記事を読む上で最低限必要とされる経済・企業経営の仕組みについて学ぶ。
　入本的なテキストを輪読する。報告者が担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。
（2）ゼミ対抗のディベートを行う。
（3）3年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み、夏休み期間集中）。
（4）テキストとは別にテーマを与え、共同レポートを作成しプレゼンテーションを行う。

【評価方法】
演習での報告、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。
無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅰ

浅野敬志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
日商簿記検定２級の合格支援を行うと同時に、下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを学ぶ。

【評価方法】
ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】
新検定簿記講義２級商業簿記〈平成17年版〉（加古宣士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
新検定簿記ワークブック２級商業簿記（加古宣士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
合格テキスト日商簿記２級工業簿記（TAC簿記検定講座著　TAC出版）
考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著　ダイヤモンド社）
頭を鍛えるディベート入門（松本茂著　ブルーバックス）

## 基礎演習Ⅰ

石川雅之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

【評価方法】
レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】
演習の最初に指示する。

## 基礎演習Ⅰ

石坂綾子

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】
受講態度・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】
第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】
第１回目の演習において指示する。

## 基礎演習Ⅰ

上原 衛

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。
1．情報社会について
2．情報システムとデータの重要性
3．システムリスクについて
4．Excelno応用、VBA
5．ホームページ作成
6．プレゼンテーション、表現力の重要性

【評価方法】
各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】
授業中に別途指示・紹介する。

## 基礎演習Ⅰ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　パワーポイントの構成と機能
第3講　プレゼンテーションとは何か
第4講　プレゼンテーションの計画
第5講　プレゼンテーションの技法
第6講　発表とディスカッション（1）
第7講　発表とディスカッション（2）
第8講　発表とディスカッション（3）
第9講　発表とディスカッション（4）
第10講　発表とディスカッション（5）
第11講　発表とディスカッション（6）
第12講　まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著　弘学出版）

## 基礎演習Ⅰ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

（1）テキストをゼミ員全員で輪読し、流通に関する基礎理論を習得する。
（2）習得した基礎理論を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
（3）理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

## 基礎演習Ⅰ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

ディベート訓練
パブリックスピーキング
プレゼンテーション
QC管理と手法
財務諸表の見方、企業会計原則、経営分析、

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## 基礎演習Ⅰ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習はまずビジネスとジェンダーの接点において、各学生の問題意識、関心領域を意見交流し、それらに沿った資料の講読をおこなう。

原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料、雇用機会均等法などの資料を講読をする。各自が分担部分をレジメ作成し報告・討議する。

1）関心領域の意見交流～ジェンダーとビジネス・労働～
2）産業社会学、開発社会学、雇用関係法制の基礎文献資料
3）ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの事例分析をおこなう。
　各種ジェンダー区分された統計資料の考察
4）学生の企画による企業訪問、ディベイト、夏期合宿などを実施
5）国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、講演を頂き、討議を行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

新しい産業社会学（犬塚　有斐閣）
開発社会学（恩田　ミネルヴァ書房）
職業とジェンダー（岡村他　日本評論社）
女性学・男性学～ジェンダー論入門（國信他　有斐閣）

## 基礎演習 I

真田幸光

### 【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】
ビジネスのあり方、経営のチェックポイント、起業に向けての理論武装などについて考察する。

### 【評価方法】
演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

### 【テキスト】
無し

## 基礎演習 I

JOLLY, James A.

### 【Course description】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【Course objectives】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【Course schedule】
Basically class sessions will cover one assigned international business topic each week. Assigned textual materials will be mostly in Japanese language, and English language documents will be used as supplementary study sources. Students will be encouraged to discuss and refine their knowledge of each topic in class. A schedule of the study assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Business structures of companies of international trading countries
2. Basic concepts of international trade arrangements
3. International trade terms (INCOTERMS)
4. Typical international trade process
5. Present-day concepts of international trade and sales laws

### 【Assessment】
Assessment will be based upon attendance and participation in class discussions, as well as scores attained in quizzes and a final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in classes. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

### 【Textbooks】
The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary materials will be provided throughout the course when appropriate. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

### 【Reference】
To be recommended individually as the need arises.

## 基礎演習 I

ジョリー幸子

### 【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】
1. Orientation
2. L.1: Globalization in Business and Culture
3. L.2: Business Manners: Body Language
4. L.3: Names, Titles, and Terms of Respect
5. L.4: Business Etiquette
6. L.5: Individualism and Group Spirit
7. L.6: Working Overseas
8. L.7: Coping with Language and Culture Shock
9. L.8: Hospitality and Friendship
10. L.9: Negotiations: Cultural Differences
11. L.10: Negotiation for "Win-Win" Solutions
12. L.11: US and Japanese Business: A Case Study
13. L.12: Marketing, Advertising, and Distribution
14. Final Examination

### 【評価方法】
期末試験、英語でのスピーチ、プレゼンテーション（レポート）、出席率、授業の参加態度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】
1. *Global Understanding: Success in International Business,* (Makoto Shishido and Bruce Allen, Seibido, 2002)
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために，ジョリー幸子他（風媒社 2003）

### 【参考文献・資料】
異文化にみる非言語コミュニケーション：Vサインは屈辱のサイン? *Nonverbal Communication in Diverse Cultures*（御手洗昭治 ゆまに書房 2000）
*Nonverbal Communication*（S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo 2002）

## 基礎演習 I

杉本典之

### 【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】
この基礎演習Iの共通テーマは、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

このような共通テーマに接近するために、種々の教材を活用して、発表の仕方や討論の仕方等を実践にそくして学修する。学生各人の問題意識が芽生えかつ発展するにしたがって、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

### 【評価方法】
演習形式のこの授業では、講義形式の多くの授業とは異なり、学生の皆さんが主役である。各人の主体的・能動的・積極的な行動が授業を活性化させる。よって皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

### 【テキスト】
相談して決める。

### 【参考文献・資料】
『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 基礎演習Ⅰ

林 誠

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
パソコンの基本リテラシーをしっかりマスタするとともに、ケースを通じて、ロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】
授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】
適時指示する。

## 基礎演習Ⅰ

福本明子

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
「視点の多様性」をテーマに、以下の「文化」と「コミュニケーション」の基礎・関連概念を学習します。
1．「コミュニケーション」「文化」とは。ビジネスとの関連性
2．「意味」とは
3．「聞くこと」とは
4．言語メッセージ
5．非言語メッセージ
6．文化とアイデンティティー
7．文化と「価値観」
8．価値判断
9．ステレオタイプと差別

【評価方法】
出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】
初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】
多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　監修　三修社）
異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子、町惠理子、小池浩子、磯貝友子　三修社）

## 基礎演習Ⅰ

藤井正志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
第１講～第12講　演習の受講者が、経済金融の基礎知識を習得することを目的とする。
テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

【評価方法】
出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

## 基礎演習Ⅰ

前川三喜男

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】
ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】
商業簿記２級レベルの教材
その他レジメで対応

## 基礎演習 I

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の入門書や会計に関する新聞や雑誌の記事などを利用して、上記のテクニックが自然と身につくように演習を進める。課題についてはあらかじめ提示するので、事前によく準備して演習に臨むこと。必要に応じて、合宿や工場見学などの課外活動を行うこともある。

【評価方法】

事前の準備、演習への参画、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

## 基礎演習 I

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報技術（IT）の中でもハードウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

## 基礎演習 I

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

## 基礎演習 I

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1．広告に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
2．必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

## 基礎演習Ⅰ

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

最初の演習では、「大学で何を学ぶのか」について討論したり、ビジネスの学問を学習する方法、考え方を身につけるようにする。その後に、ビジネスを支えている諸制度の意味について考えるとともに、計数的管理手段の貢献的機能について検討する。それをとおして、現代経済の動向とビジネス改革のの道筋を見つめてほしいと思う。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

小橋 勉

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

以下の二本立てで考えています。進捗状況に合わせて、進めかたを考えようと思います。第一が、戦略論を中心に、組織論なども交えながら、理論を用いて現実を分析する練習を積んでいくという内容です。具体的には、各メンバーが自身の分析対象企業等を決め、それに基づいて様々な資料やデータを集めて分析するという流れになります。第二が、文献を輪読しながら、理解を深めていくという内容です。メンバー間のディスカッションが盛んに行われるよう期待します。

【評価方法】

レポート内容、ディスカッション等への積極性、レポートにより評価します。

また、無断欠席には厳しく対処します。

【テキスト】

演習時に指定します。

【参考文献・資料】

適宜紹介します。

## 基礎演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

経済および企業の状態を映し出す株価の特徴を活かし、株式のバーチャル取引（例：トレーディング・ダービー）を行い、経済ニュースだけでなく実際の企業を身近に感じ、興味を持てるように指導する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

東大生が書いたやさしい株の教科書（東京大学株式投資クラブAgents著　インデックス・コミュニケーションズ）

すぐわかる株式投資2006年度版（日本経済新聞社編著　日本経済新聞社）

## 基礎演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表と講議をおりまぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 基礎演習Ⅱ

石坂綾子

**【授業の概要】**

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

**【評価方法】**

受講態度・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

**【テキスト】**

第1回目の演習において指示する。

**【参考文献・資料】**

第1回目の演習において指示する。

## 基礎演習Ⅱ

上原 衛

**【授業の概要】**

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．経営管理
2．情報処理と分析力の重要性
3．統計学
4．情報システムを利用した業務の効率化
5．エンドユーザー・コンピューティング

**【評価方法】**

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

**【テキスト】**

経営管理（有斐閣アルマ）。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

梅田敏文

**【授業の概要】**

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**

第1講　ガイダンス
第2講　論文の構成と用語の使用
第3講　レポート分析（1）、WORDの活用（1）
第4講　レポート分析（2）、WORDの活用（2）
第5講　レポート分析（3）、WORDの活用（3）
第6講　レポート分析（4）、WORDの活用（4）
第7講　レポート分析（5）、EXCELの活用（1）
第8講　レポート分析（6）、EXCELの活用（2）
第9講　レポート分析（7）、EXCELの活用（3）
第10講　レポート分析（8）、EXCELの活用（4）
第11講　レポート分析（9）、EXCELの活用（5）
第12講　レポート分析（10）、EXCELの活用（6）
第13講　まとめ

**【評価方法】**

レポート分析の発表内容、出席を総合的に評価する。

**【テキスト】**

授業中に、適宜配布する。

## 基礎演習Ⅱ

大塚英揮

**【授業の概要】**

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**

（1）テキストをゼミ員全員で輪読し、流通の各論について学習する。
（2）本から学び取った理論的知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
（3）理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
（4）基礎演習の集大成として、他大学とのディベートを行うことで、目的を持ってゼミ員がゼミ活動に取り組めるよう留意する。

**【評価方法】**

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

**【テキスト】**

授業の中で適宜指示する。

**【参考文献・資料】**

授業の中で適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

小池弘道

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う

法律関係

1）労働法（差別問題・セクハラを含む）、
2）商法、税法
3）独占禁止法

品質関係

基本的考え方、QC手法、ISOなど

### 【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

### 【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

國信潤子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】

前期授業の継続

原則的に産業社会学、雇用機会均等法改正法、開発社会学の基礎資料の講読をする。

各自が分担部分をレジメ作成し報告・討議する。

1）ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
2）将来のライフプランの立て方、就職活動の方法
3）新しい雇用に関する法制、家族関係の変容について
4）学生の企画による企業訪問、夏期合宿などを実施
5）英語資料講読：社会問題についてのテキスト、ジャーナル記事を英文講読
6）国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘

### 【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献・資料】

新しい産業社会学（犬塚他　有斐閣アルマ）
開発とジェンダー（田中他　国際開発出版会）
女性学・男性学～ジェンダー論入門（國信他　有斐閣アルマ）

## 基礎演習Ⅱ

真田幸光

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

### 【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

### 【テキスト】

無し

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 基礎演習Ⅱ

JOLLY, James A.

### 【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【Course schedule】

Basically class sessions will cover one assigned international business topic each week. Assigned textual materials will be mostly in Japanese language, and English language documents will be used as supplementary study sources. Students will be encouraged to discuss and refine their knowledge of each topic in class. A schedule of the study assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. International contracts terms and terminology
2. Trends in uniformity of international sales contracts
3. International business arrangements: agency, distributorship, license, plant, and joint venture agreements
4. Regulation of international companies and their subsidiaries
5. International trade agreements and treaties

### 【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation in class discussions, as well as scores attained in quizzes and a final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in classes. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

### 【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary materials will be provided throughout the course when appropriate. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

### 【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

## 基礎演習Ⅱ

ジョリー幸子

**【授業の概要】**
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**
1. Orientation
2. L.13: Communication in the "Thumb Generation"
3. L.14: Women in the International Workplace
4. L.15: Changes in Employment Systems
5. L.16: Establishing Trust in International Business
6. L.17: International Business and the Internet
7. L.18: Business and the Law: Foreign Lawsuits
8. L.19: Questions about Globalization and Free Trade
9. L.20: What is Success in the Global Business World?
10. Speeches/Presentations (1)
11. Speeches/Presentation (2)
12. Speeches/Presentations (3)
13. Speeches/Presentations (4)
14. Final Examination

**【評価方法】**
期末試験、英語でのスピーチ、プレゼンテーション（レポート）、出席率、授業の参加態度などを総合的に評価する。

**【テキスト】**
1. *Global Understanding: Success in International Business* (Makoto Shishido and Bruce Allen Seibido 2002)
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために（ジョリー幸子他 風媒社 2003）

**【参考文献・資料】**
異文化にみる非言語コミュニケーション：Vサインは屈辱のサイン?（*Nonverbal Communication in Diverse Cultures*）（御手洗昭治 ゆまに書房 2000）
*Nonverbal Communication* S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo 2002）

## 基礎演習Ⅱ

林 誠

**【授業の概要】**
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**
ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、ロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

**【評価方法】**
授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

**【テキスト】**
適時指示する。

## 基礎演習Ⅱ

杉本典之

**【授業の概要】**
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**
この基礎演習Ⅱの共通テーマも、基礎演習Ⅰのそれと同じく、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。
基礎演習Ⅰの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を、さらに明確化させかつ発展させる。そして、そのような各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

**【評価方法】**
この基礎演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

**【テキスト】**
相談して決める。

**【参考文献・資料】**
『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。
必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 基礎演習Ⅱ

福本明子

**【授業の概要】**
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

**【授業の目標】**
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

**【授業計画】**
基礎演習Ⅰで学習したコミュニケーションの基礎を踏まえ、小集団・組織・メディア・コミュニケーションを更に学習します。
1. 「コミュニケーション」の基礎の復習
2. 小集団のコミュニケーション
3. 「よりよいグループワークとは」、チームワーク、リーダーシップ
4. 組織コミュニケーション
5. 「組織文化を探せ！」、ロゴ・行事・物語分析
6. メディア・コミュニケーション
7. 企業活動におけるイメージ・現実の構築、記号論

**【評価方法】**
出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーション、授業への参加度合い等を総合して最終評価を行う。

**【テキスト】**
初回の授業にて発表。

**【参考文献・資料】**
初回の授業にて発表。

## 基礎演習Ⅱ

藤井正志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
第１講～第12講　エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】
出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

## 基礎演習Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】
ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】
商業簿記２級レベルの教材
その他レジメで対応

## 基礎演習Ⅱ

三浦克人

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
会計学の入門書や会計に関する新聞や雑誌の記事などに加え、ネット上にあるさまざまな会計情報を利用して演習を進める。課題についてはあらかじめ提示するので、事前によく準備して演習に臨むこと。必要に応じて、合宿や工場見学などの課外活動を行うこともある。

【評価方法】
事前の準備、演習への参画、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

三浦信宏

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
情報技術（IT）の中でもソフトウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】
出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】
なし、プリント配布

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示する。

## 基礎演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

## 基礎演習Ⅱ

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に引き続き

1．広告に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）

2．必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

さらに、

3．実際の広告を題材に、効果の測定や分析、ディスカッション（グループワーク・ゼミ内発表）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）および討議、ゼミ内発表の内容により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

## 基礎演習Ⅱ

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

少人数の構成であるので、自分の考えをまとめて発表し、他人の意見に耳を傾けながら、ビジネスについて学びつつ討論の楽しさを身につける。ビジネス社会で役立つ知識を身につけるため、ここでは何よりもまず管理のための計数的手段を取り上げ、その機能を組織の文化的・経済的諸要因との関係においては把握する。なお、大学生活を送るにあたって悩んでいることや、履修上の問題を抱えている者は、相談してほしい。

【評価方法】

協調性、レポートの内容などを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

吉村文雄『組織会計論』森山書店を使用する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 専門演習Ⅰ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

（1）経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する

（2）ゼミ対抗のディベートを行う。

（3）グループごとに共同レポートを作成し、プレゼンテーションを行う

（4）マネジメントゲームを2年生と合同で行う（春休み、夏休み集中）

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけではなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 専門演習Ⅰ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

身近な企業を取り上げ、企業の分析手法について学習する。具体的には、複数の分析視点から企業を分析し、さらに企業の経営戦略とその効果、問題点についても客観的に検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

財務諸表分析（桜井久勝著　中央経済社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）
ビジネス・アカウンティング－MBAの会計管理－（山根節著　中央経済社）

## 専門演習Ⅰ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅰ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第１回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅰ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

## 専門演習Ⅰ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．ACCESSの基礎と応用
2．Excelの応用とVBA
3．ホームページ作成
4．経営情報論
5．株式投資シミュレーション

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示・紹介する。

## 専門演習Ⅰ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　インターネットを活用した情報収集と情報発信
第3講　HTMLの機能（1）
第4講　HTMLの機能（2）
第5講　HTMLの機能（3）
第6講　ホームページの作成（1）
第7講　ホームページの作成（2）
第8講　ホームページの作成（3）
第9講　ホームページの発表と評価（1）
第10講　ホームページの発表と評価（2）
第11講　ホームページの発表と評価（3）
第12講　まとめ

【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度、出席などを統合的に評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅰ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

（1）テキストをゼミ員全員で輪読し、日本型流通の現実に関して学ぶ。
（2）習得した知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
（3）理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
（4）グループに分かれ、自分たちで決めたテーマに沿って論文を作成することで、資料収集・文章作成のスキルを身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅰ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習Ⅰ、Ⅱでの学習内容を踏まえ、国内及び国際社会で必要な、人事労務管理、効率化の進め方、問題解決手法などの能力・知識を深める学習をするとともに、国際社会での仕事の進め方について取り組んでいく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

## 専門演習 I

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続

各自の問題意識領域の掘り下げる。関連専門資料、情報の検索方法の習得。就職活動の方法なども具体的な先輩の事例から紹介する。4年になったときに卒業論文のテーマとなるような関心領域を探求する。

テーマの例

1）女性のビジネス界における正規雇用継続と家族
2）ファミリーフレンドリー企業とは
3）雇用機会均等法と実態
4）女性・男性のキャリア形成
5）女性・男性の社会的地位の国際比較

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

キャリア・職業選択を考える（女性と仕事未来館　刊）
職業キャリアとライフコースの日米比較研究（日本労働研究機構刊）

## 専門演習 I

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考案する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

## 専門演習 I

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials.

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

## 専門演習 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

| | | |
|---|---|---|
| 第1週 | Chapter 1 | Aspects of Nonverbal Communication- 1 |
| 第2週 | | 〃 |
| 第3週 | Chapter 2 | Aspects of Nonverbal Communication- 2 |
| 第4週 | | 〃 |
| 第5週 | Chapter 3 | Body Movements and Gestures |
| 第6週 | | 〃 |
| 第7週 | Chapter 4 | Facial Expression |
| 第8週 | | 〃 |
| 第9週 | | Midterm Exam. |
| 第10週 | Chapter 5 | Eye Behavior and Gaze |
| 第11週 | Chapter 6 | Territoriality |
| 第12週 | | 〃 |
| 第13週 | Chapter 7 | Personal Space |
| 第14週 | | 〃 |
| 第15週 | | Final Exam |

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆どを英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況と共に総合的に判断する。

【テキスト】

*Nonverbal Communication* (S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo、2002)

【参考文献・資料】

ジェスチュア：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

## 専門演習Ⅰ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Ⅰの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

基礎演習ⅠとⅡの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅰ

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習Ⅰ・Ⅱで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習します。

1.「小集団・組織・マス・コミュニケーション」の復習
2. 企業の求める「コミュニケーション力」とは
3.「コンフリクト・対立・交渉」の学習と分析
4. 基礎演習Ⅰ・Ⅱの発展項目

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

## 専門演習Ⅰ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講〜第12講　エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅰ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組を理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の解説書
その他レジメで対応

## 専門演習 I

三浦信宏

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
情報システムとその開発方法についての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】
出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
なし、プリント配布

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示する。

## 専門演習 I

森下允之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】
出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
国に応じ演習中に指示する。

## 専門演習 I

吉村文雄

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
管理会計は経営管理を遂行するのに必要な様々な情報を提供するための技術と行為である。この授業では、初めに企業理論の観点から管理会計システムの組織・技術の側面について検討し、その後に、会計情報の性質と役割および管理会計技法の特徴を解明する。

【評価方法】
報告、討論の内容およびレポートによって評価する。

【テキスト】
吉村文雄『組織会計論』森山書店を使う。

【参考文献・資料】
授業を進めるなかで、適宜示す。

## 専門演習 II

大塚英揮（浅井敬一朗）

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
競争戦略論の基本的な考え方を身につけ、それを現実の企業がとっている企業戦略にあてはめる訓練を繰り返す。文献は、バーニー『企業戦略論』（上）、ポーター『競争戦略論』の中から、特に興味深く、比較的内容が理解しやすいものを選択し、コピーの上配布する。

【評価方法】
平常点（出席、授業に対して積極的に取り組んだかどうか）で評価する。

【テキスト】
コピーして随時配布する。

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

## 専門演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
身近な企業を取り上げ、企業の分析手法について学習する。具体的には、複数の分析視点から企業を分析し、さらに企業の経営戦略とその効果、問題点についても客観的に検討する。

【評価方法】
ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】
必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】
財務諸表分析（桜井久勝著　中央経済社）
企業分析シナリオ（西山茂著　東洋経済新報社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）

## 専門演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
学生による発表を中心に行う。

【評価方法】
レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】
演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】
受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】
第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】
出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
未定

## 専門演習Ⅱ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得し、分析手法の応用としてのコンピュータ・シミュレーション、ケース・スタディーを利用した実社会の経営戦略の研究、経営情報理論を学ぶ。また、自らが考える新たな事業計画を作成し、発表と意見交換を行い、理解を深める。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．コンピュータ・シミュレーション
2．経営情報論
3．経営戦略ケース・スタディ
4．新規事業計画の作成と発表

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅱ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　課題説明（1）
第3講　課題説明（2）
第4講　グループ作業説明
第5講　グループ作業実施（1）
第6講　グループ作業実施（2）
第7講　グループ作業実施（3）
第8講　グループ作業実施（4）
第9講　グループ作業実施（5）
第10講　グループ作業実施（6）
第11講　グループ作業実施（7）
第12講　まとめ

【評価方法】

提案書の内容、プレゼンテーション、出席、グループ作業への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の開始時にレジュメを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅱ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

（1）グループ別にあるテーマに沿って研究を行い、成果を論文にまとめる。
（2）作成した論文をもとに他大学と討論を行うことで、「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝えるスキルを身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを絞り込み、主体的に資料収集、文献による学習、ヒヤリングなどに取り組んでもらい、知識・考え方を深める。必要に応じて企業経営、国際企業経営など関する講義を織り交ぜる。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する。

## 専門演習Ⅱ

國信潤子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】

基礎演習１、２、専門演習１で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆のための基礎的資料の調査。

テーマ例としては産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。資料調査を継続。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。就職活動の方法、問題点の検討をする。

### 【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

### 【参考文献・資料】

専門演習　Ⅰに同じ

## 専門演習Ⅱ

真田幸光

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

### 【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

### 【テキスト】

無し

### 【参考文献・資料】

特になし。

## 専門演習Ⅱ

JOLLY, James A.

### 【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials.

### 【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

### 【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting

### 【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

## 専門演習Ⅱ

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

### 【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

### 【授業計画】

| | | |
|---|---|---|
| 第１週 | Chapter 8 | Touching Behavior |
| 第２週 | Chapter 9 | Time |
| 第３週 | Chapter 10 | The Voice and Vocal Expression<br>－Characteristics of the Voice |
| 第４週 | Chapter 11 | The Voice and Vocal Expression<br>－Information Communicated through the Voice |
| 第５週 | Chapter 12 | Clothing as Communication |
| 第６週 | Chapter 13 | Personal Artifacts as Communication |
| 第７週 | Chapter 14 | Environmental Influences on Communication |
| 第８週 | | Midterm　Exam |
| 第９週 | Chapter 15 | What the Environment Communication |
| 第10週 | Chapter 16 | Verbal Expression and Nonverbal Communicates |
| 第11週 | Chapter 17 | Differences in Nonverbal Communication of Americans and Japanese |
| 第12週 | | Extra　classes |
| 第13週 | | 〃 |
| 第14週 | | Final　Exam |

### 【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆ど英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況を総合的に判断する。

### 【テキスト】

*Nonverbal Communication*（S Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo、2002）

### 【参考文献・資料】

ジェスチュア：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

## 専門演習II

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IIの共通テーマも、専門演習Iのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

専門演習Iでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習IIIへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習II

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I・II、専門演習Iで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習します。

1．「対立：交渉・企業の求めるコミュニケーション力」の復習
2．「日本社会のマジョリティー・マイノリティー」を考える
3．「日本社会と外国人労働者」を考える
4．基礎演習I・II、専門演習Iの発展項目

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

## 専門演習II

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講〜第12講　エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習II

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組を理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

財務諸表に関する解説書
その他レジメで対応

## 専門演習Ⅱ

三浦信宏

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
IT革命と業種・業態に関する知識修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】
出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
なし、プリント配布

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示する。

## 専門演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】
出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
国に応じ演習中に指示する。

## 専門演習Ⅱ

吉村文雄

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
管理会計行為を社会的関係としてとらえる。つまり、管理会計の方法や手段を人間間の関係を投影したものとして理解する。詳細は授業にて明示する。

【評価方法】
報告、討論の内容およびレポートによって評価する。

【テキスト】
吉村文雄『組織会計論』森山書店を使う。

【参考文献・資料】
講義を進めるなかで示す。

## 専門演習Ⅲ

浅井敬一朗

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
日本企業の経営システムや国際経営に関する文献の輪読を行う。
エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する。

【評価方法】
出席回数、演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。
特に重視するのは、どのようなディスカッションポイントを提示し、議論をいかにリードしていくかという点である。

【テキスト】
適宜指定する。

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

## 専門演習Ⅲ

浅野敬志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】
ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】
必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】
7つの習慣（スティーブン・R・コビィー著　キング・ベアー出版）
企業分析入門（第2版）（パレプ他著　東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著　白桃書房）
要説　経営分析（青木茂男著　森山書店）

## 専門演習Ⅲ

石川雅之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
学生による発表を中心に行う。

【評価方法】
レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】
演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅲ

石坂綾子

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】
受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】
第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅲ

石橋善弘

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】
出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
未定

## 専門演習Ⅲ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅲ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第１講　ガイダンス
第２講　問題とは何か
第３講　問題の分析
第４講　解決策の策定
第５講　問題解決セッション（1）
第６講　問題解決セッション（2）
第７講　問題解決セッション（3）
第８講　問題解決セッション（4）
第９講　問題解決セッション（5）
第10講　問題解決セッション（6）
第11講　問題解決セッション（7）
第12講　まとめと講評（1）
第13講　まとめと講評（2）

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席などで評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅲ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が選択した分野において取り組んだ内容を授業において発表し、その指導をしていく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み、および取り組んだ結果を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 専門演習Ⅲ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習Ⅰ、Ⅱ、専門演習Ⅰ、Ⅱで学習したことを踏まえて、各自のリサーチテーマにそって和英資料講読、資料調査の継続。就職活動を進める。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆の開始とリサーチの継続。

テーマの例として日本の女性基幹労働者、キャリア継続と家族的責任、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。各自の関心のもてるテーマについて資料調査を継続。就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。先輩から就職活動の体験談を聞く。企業コンサルタントなどから若年労働者のキャリア形成の変容について聞く。ゲストスピーカーとして外部講師を招聘する。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【参考文献・資料】

専門演習Ⅰ，Ⅱと同じ。さらに日本労働研究機構の専門誌、論文を講読。

## 専門演習Ⅲ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

## 専門演習Ⅲ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第１～６回　日本と外国の証券市場改革を比較検討することにより、資本市場の現状と課題を深く理解させる。

第７～12回　専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで取り上げた資金運用や投資戦略について、金融工学的な手法の実務的な応用力を高めるため、事例研究を通じて理解を深めさせる。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

金融システム改革と証券取引制度（証券取引法研究会編　日本証券経済研究所）

アメリカの資本市場改革（淵田康之・大崎貞和編　日本経済新聞社）

図説　アメリカの証券市場（日本証券経済研究所）

図説　ヨーロッパの証券市場（日本証券経済研究所）

## 専門演習Ⅲ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心と問題意識を重視して、次のような手順で専門演習を行う。

1．各人のこれまでの学習経験や関心領域を整理してレポートに作成し、発表する。
2．それぞれのレポートに基づく発表を集団で検討し、指導を行う。
3．関連する参考資料や文献を収集する方法、調査する場合は調査方法について指導する。
4．各人で上記の作業や文献購読を行う。
5．中間まとめをしながら期末にレポートとして集約する。その際、論文の書き方の指導を行う。
6．期末にこれまでの研究のまとめを行い、演習時に発表し、論文としてまとめる。

【評価方法】

演習への参加度と研究に対する態度及び研究成果とレポートについて総合的に評価する。

## 専門演習Ⅲ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Ⅲの共通テーマも、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅲ

藤井正志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
第１講〜第12講　学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】
出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

## 専門演習Ⅲ

前川三喜男

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】
ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】
有価証券報告書
監査小六法

## 専門演習Ⅲ

三浦信宏

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
グループ討議を中心に、発表力と思考能力向上のトレーニングを行う。

【評価方法】
出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
なし、プリント配布

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示する。

## 専門演習Ⅲ

森下允之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】
出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

## 専門演習Ⅳ

大塚英揮

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
3年間にわたるゼミ活動の集大成として、戦略論、組織論などに関する興味深い文献をいくつかとりあげ輪読する。なお輪読を進めていくにあたっては、文献に書かれた理論的知識をまとめ、それを現実の例にあてはめる訓練に力を入れていく予定である。経営学とは何か、に関する大まかなイメージを各人が頭の中にきちっと作り上げ、社会に出たときに「経営学を学んだ」経験がどう役に立つのかを理解する、ことを最終目標としたい。

【評価方法】
演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。
卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

【テキスト】
使用しない。随時コピーの上配布する。

【参考文献・資料】
適宜紹介する

## 専門演習Ⅳ

浅野敬志

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】
ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】
必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】
企業分析入門（第2版）（パレプ他著　東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著　白桃書房）
要説　経営分析（青木茂男著　森山書店）

## 専門演習Ⅳ

石川雅之

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
学生による発表を中心に行う。

【評価方法】
レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】
演習の最初に指示する。

## 専門演習Ⅳ

石坂綾子

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】
受講態度・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】
第1回目の演習において指示する。

## 専門演習Ⅳ

石橋善弘

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】
出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
未定

## 専門演習Ⅳ

上原 衛

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】
各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

## 専門演習Ⅳ

梅田敏文

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
第１講　ガイダンス
第２講　ＤＶＤの作成方法説明（１）
第３講　ＤＶＤの作成方法説明（２）
第４講　ＤＶＤの作成方法説明（３）
第５講　ＤＶＤ作成（１）
第６講　ＤＶＤ作成（２）
第７講　ＤＶＤ作成（３）
第８講　ＤＶＤ作成（４）
第９講　ＤＶＤ作成（５）
第10講　発表（１）
第11講　発表（２）
第12講　発表（３）
第13講　発表（４）

【評価方法】
ＤＶＤの内容、発表態度、出席で評価する。

【テキスト】
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

## 専門演習Ⅳ

小池弘道

【授業の概要】
受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】
概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】
それぞれの学生が取り組んだ内容を授業において発表し、まとめができるように討議・指導していく。

【評価方法】
出席状況、演習での報告、およびレポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

## 専門演習Ⅳ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習、専門演習Ⅰ～Ⅲで学習、リサーチしたことを踏まえて、論文執筆。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。

テーマ例として、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分、開発途上国への開発協力とジェンダー視点など。

就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

基礎演習、専門演習Ⅰ～Ⅲに同じ。さらに各自の問題意識にそって専門ジャーナル、紀要論文を講読する。

## 専門演習Ⅳ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

## 専門演習Ⅳ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第１～６回　資金調達とファイナンス理論について事例研究を通じて理解を深め、応用力をつけさせる。

第７～12回　企業経営とビジネスについての総合的な知識を習得させるため、ベンチャー企業の設立とそれに伴う課題への対処を事例研究中心に行う。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

証券投資論（日本アナリスト協会編　日本経済新聞社）

ベンチャー企業株式公開への道（エンゼル証券株式会社、監査法人アイ・ピー・オー編著　清文社）

ベンチャー企業の経営と支援（早稲田大学アントレプレヌール研究会編　日本経済新聞社）

## 専門演習Ⅳ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

専門演習Ⅲでの研究成果を踏まえて、各人の研究を発展的に展開する。

1．前期で明確になった研究上の問題点を検討整理してその克服のために新たな資料の発掘と文献の購読を行う。
2．演習に参加している学生同士の検討と相互支援を行う。
3．最終レポート作成上の留意点や注意を行う。
4．共同研究としてまとめる場合は、その分担を明確にし、論理的統一性を保つよう指導する。
5．何度かの個人指導で修正を行い、最後に論文形式としてのレポートを作成し、提出する。

【評価方法】

研究論文としての完成度と独創性を評価する。

## 専門演習Ⅳ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Ⅳの共通テーマも、専門演習Ⅲのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 専門演習Ⅳ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第１講～第12講　学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

## 専門演習Ⅳ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

## 専門演習Ⅳ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

種々のケースを用いて、企業の情報化推進の現状と課題を考察する。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

## 専門演習Ⅳ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

## 卒業論文・制作

浅井敬一朗

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の（1）～（4）の提出期限前に最低各２回、計８回以上のの中間報告を行う。必要に応じ個別指導を行う。

（1）５月上旬までに論文骨子の提出
（2）７月下旬までに論文概要の提出
（3）10月下旬までに第１稿の提出（できる限り９月末までに完成させること）
（4）最終稿提出（12月中～下旬）

【評価方法】

卒業論文の内容および、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある（1）～（4）を全て提出しなければ単位を認定しない。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

## 卒業論文・制作

浅野敬志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

【テキスト】

卒論の内容に応じて必要な資料を配布する。

## 卒業論文・制作

石川雅之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

## 卒業論文・制作

石坂綾子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文執筆を進める。論文骨子、論文概要、初稿作成の過程において個別指導・ゼミ報告を行い、完成度を高めていく。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

## 卒業論文・制作

石橋善弘

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

【評価方法】

日常の勉学態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

## 卒業論文・制作

上原 衛

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの決定を行い、テーマに沿った資料・事例・データ・文献の収集・調査と分析方法について指導する。論文骨子の作成、論文概要の作成、初稿作成の過程に従い、学生各自に個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、卒業論文内容により総合的に評価する。

研究の新規性・独創性、有用性に加え論旨の展開、従来研究の調査、研究成果の意義が明確であるかを重視する。

【テキスト】

指定しない。

## 卒業論文・制作

梅田敏文

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。

各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

【テキスト】

特になし。

## 卒業論文・制作

小池弘道

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個人別の指導を行なう。

【評価方法】

卒業論文により評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 卒業論文・制作

國信潤子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

1）卒論テーマの画定と研究方法の決定。当該領域の先行研究を講読する。
2）論文執筆方法の指導と論文構成作成
3）テーマの例
　雇用機会均等法と実施状況
　女性管理職のキャリアコース
　男女の家族的責任
　国際開発協力におけるジェンダー視点　など

【評価方法】

完成論文による評価

【参考文献・資料】

各自の研究テーマにそって選択する。学術論文、専門ジャーナル論文などの検索方法を指導する。

## 卒業論文・制作

真田幸光

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

## 卒業論文・制作

島田舒一

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

第１～３回　関心のある分野、課題の中から議論を通じて取り組み目的を明確にしたうえでテーマを選定する。
第４～12回　テーマに沿った参考文献・資料の収集、使い方について助言をしながら論文作成に取り組ませる。
第13～20回　論文の素案がまとまった段階で中間発表をさせ、不十分な箇所および全体の構成を修正のうえ、より充実した論文作成にあたらせる。
第21～24回　最終的な内容、資料などを点検のうえ論文を完成させる。

【評価方法】

課題に対する取組み、参考文献、資料の利用の仕方、論理の展開および論文内容などを総合的に勘案して評価する。

## 卒業論文・制作

霜田一敏

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

専門演習Ⅲ、Ⅳと絶えず関連させながら、発展的に研究を展開する。

1. 各人の問題意識と目的に応じた卒業論文の書き方の指導を行う。
2. 論文構成をどのようにしたらよいか、具体的な論文を事例を通して指導する。
3. 各人の研究の進展と論文作成について具体的な作業を行う。
4. 各章ごとの内容について集約する。
5. 序章から順次執筆にかかる。その都度指導を行う。
6. 中間まとめを行い、再度全体構成について検討を図る。
7. 全体を書き上げ、見直し、数度の推敲を行う。
8. 一冊の論文として完成させる。

【評価方法】

研究方法と論文構成について、また研究成果について評価する。

## 卒業論文・制作

杉本典之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Ⅰないし専門演習Ⅳの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の作成に挑戦する学生は、5月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文作成のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文作成作業の具体的な進展に併行して改めて学修し直す。

【評価方法】

卒業論文の出来栄えによって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

## 卒業論文・制作

藤井正志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

【評価方法】

卒業論文に対する取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない

## 卒業論文・制作

前川三喜男

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行う

卒論内容の添削

【評価方法】

卒論の内容で評価

【テキスト】

なし

## 卒業論文・制作

三浦信宏

【授業の概要】
専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】
卒業論文の完成

【授業計画】
学生個々人のテーマ、進捗状況に応じて対処する。

【評価方法】
卒論の内容によって評価する。

【テキスト】
内容に応じて指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じて紹介する。

## 卒業論文・制作

森下允之

【授業の概要】
専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】
卒業論文の完成

【授業計画】
和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

【評価方法】
卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

## インターンシップ

上原 衛

【授業の概要】
2週間程度の短期間であるが、企業に出向き実際の会社での業務に触れて、実社会での活動を体験する。これまで主として座学によって学んだ理論や事柄が、どのように応用されているかを理解する。また、実社会でビジネスパーソンとしてどのような心構えを持つべきかを自分なりに考えかつ体得する。

【授業の目標】
講義、インターンシップ実地研修、成果報告を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】
原則として、夏期1～2週間程度の期間、企業や公共機関でインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その前後に、下記の事前講義および事後の研修報告と成果発表を行い、研修の準備ならびに総括を行う。

1．ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2．職業と人生について
3．各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4．日本の企業経営について
5．ビジネスマナー講座
6．キャリアプランの作成
7．研修後の報告レポートの作成と成果報告（発表会を実施）

【評価方法】
出席状況、企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。

【テキスト】
随時資料を配布する。

〈ビジネス学部特別講座科目〉

## 資本市場と証券投資（野村證券提供講座）

上原 衛

【授業の概要】
現在、証券業務に従事している各分野のプロが、基礎から最先端かつ専門的な資本市場と証券投資について実践的な講義を行います。直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何かについて考え、金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンの考え方、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業の目標】
資本市場の役割、投資とリスク・リターンの考え方、株式・債券投資について理解し、実務面についての知識も習得すること。

【授業計画】
（1）ガイダンス
（2）経済情報の捉え方
（3）経済成長と金融資本市場
（4）証券投資のリスク・リターンについて
（5）ポートフォリオ・マネジメント
（6）債券市場の役割と投資の基礎知識①
（7）債券市場の役割と投資の基礎知識②
（8）株式市場の役割と投資の基礎知識①
（9）株式市場の役割と投資の基礎知識②
（10）投資信託の役割とその仕組みについて①
（11）投資信託の役割とその仕組みについて②
（12）資本市場における投資家心理について
（13）資産運用とライフ・プランニング
※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】
出席状況と毎回の授業で提出するレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

【参考文献・資料】
証券投資の基礎（野村證券投資情報部編　丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編　東洋経済新聞社）

## 教職入門

後口伊志樹

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

### 【授業計画】

1　教育とは何か
2　近代学校教育制度の変遷
（1）第一の教育改革
（2）第二の教育改革
（3）第三の教育改革
3　教師に求められる資質能力
（1）いつの時代にも求めらる資質能力
（2）今後特に求められる資質能力
4　教師の資質能力の形成諸段階
（1）養成段階
（2）採用段階
（3）現職研修段階
5　教職員の職種・職務
6　教員の一日・一学期・一年の仕事
7　まとめ

### 【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

## 教職入門

小栗正彦

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

### 【授業計画】

1　学生たちの被教育体験
2　「教職入門」が必修化された時代背景
3　教師の一日、一年（教師の仕事）
4　いまの生徒たちが育ってきた社会とは
5　教育現場のいま（学級崩壊、いじめ、不登校など）
6　教職の意義とは何か
7　教員養成の歴史
8　学校、教師をとりまく諸制度
9　教育問題に関するいくつかの判例から学ぶ
10　教師になるためには（教員採用試験について）
11　生徒たちの進路と教師の役目（教科と教師）

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

「教育関係　基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教師論

佐藤実芳

### 【授業の概要】

日本おける明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業の目標】

日本の教員養成の歴史を理解した上で、現在の教員の養成、採用の仕組み及び教員に求められている資質や能力等について理解すること。

### 【授業計画】

1．日本における教員養成の制度
（1）教員養成の歴史と現在
（2）教職課程の仕組
（3）教員の採用
2．教師について考える
（1）教科指導
（2）生徒指導
（3）教員の研修
3．種々な教師に学ぶ

### 【評価方法】

課題の提出、学習及び受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業の目標】

・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

### 【授業計画】

1．教育とは何か
2．人間と教育
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3．教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4．教育の目的
教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5．現代の教育

### 【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

### 【テキスト】

資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育原理

羽場俊秀

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業の目標】

教育全般に対する根本的なとらえ方、考え方を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

1．教育原理の進め方
2．教育学の成立
3．教育の方法
4．学校での教育
5．学校以外での教育
6．現代の教育問題

### 【評価方法】

筆記試験（論述）を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

### 【授業計画】

1．教育思想史を勉強することの意義
2．教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3．コメニウス
4．ルソー
5．ペスタロッチ
6．ヘルバルト
7．フレーベル
8．デューイ
9．教育思想と教育実践

### 【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

### 【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

### 【授業計画】

1．欧米教育文化史の視点と課題
2．中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3．近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4．大学の誕生と展開
5．西洋的教養と学校制度の確立
6．欧米教育文化と今日の世界の教育

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編　名古屋大学出版会）

### 【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子　日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和　学文社）
教養の復権（沼田裕之他　東信堂）

## 教育心理学Ⅰ

小池理穂

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

### 【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

### 【授業計画】

1．教育心理学を学ぶということ
　・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2．発達について考える
　・生涯発達の視点
　・障害の意味と発達可能性
　・発達段階と発達課題
　・認知の発達
3．学習の過程を考える
　・学習の成立過程
　・学習における知識の役割
　・学習意欲を育てる
　　外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育心理学Ⅱ

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1．発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2．青年期の意味
3．発達と教育
4．「自分」の諸相
5．「自分でない」世界の認識から
6．第一「反抗」期の意味
7．自我と他我
8．他律的規範への順応
9．第二の誕生
10．アイデンティティの確立
11．生涯発達の視点と生き方
12．自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

1現在の障害児教育の実際を概略理解する。
2心身障害児の種類と障害の程度について理解
　特別支援教育諸学校に在籍する障害児について
　一般学級に在籍する障害児について
3心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
4社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
5まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

## 教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

・教育制度の基本的な事項について理解すること。
・日本の学校教育制度の歴史的変遷について理解すること。
・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1．教育制度の意義
2．現代学校教育制度の起源
3．学校教育制度の類型
4．日本の学校教育の変遷
5．現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6．外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

## 教育制度

羽場俊秀

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

教育制度の変遷の歴史、特徴、今日的な課題について理解すること。（詳細は授業にて説明する。）

【授業計画】

1．教育制度を学ぶ意義
2．学校教育制度の起源
3．学校教育制度の類型
4．教育法規
5．日本の学校教育制度
6．現代の学校教育制度

【評価方法】

筆記試験（論述）を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

### 【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

### 【授業計画】

小学校、・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。

（1）学級づくりと学級こわしの関係
（2）生徒理解と学級担任の役割
（3）共感的学級経営の実践
（4）成就型教育観と参加型教育観
（5）学級担任と言葉の問題
（6）カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業の目標】

各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

### 【授業計画】

1．比較教育学の基礎理論
2．社会発展論と教育
3．近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4．「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5．近現代日本の教育制度の成立と特徴
6．文化と教育、異文化交流としての教育
7．人権としての教育
8．比較教育と教育改革

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで（二宮皓編著　学事出版）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著　東信堂）
世界の学校（二宮皓編著　福村出版）
多文化教育（中島智子編著　明石書店）
学歴社会　新しい文明病（ドーア著　岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著　亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著　中公新書）
世界の教育開発（米村明夫　明石書店）

## 教育課程

後口伊志樹

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

### 【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

### 【授業計画】

1　教育課程とは
（1）教育課程研究の重要性
（2）教育課程の編成原理
2　教育課程の歴史的変遷
（1）戦前の教育課程
（2）戦後の教育課程
ア　学習指導要領第一次改訂
イ　学習指導要領第二次改訂
ウ　学習指導要領第三次改訂
エ　学習指導要領第四次改訂
オ　学習指導要領第五次改訂
カ　学習指導要領第六次改訂
3　改訂学習指導要領の普及化
（1）伝達講習（ブロック、県、各学校）
（2）実践研究指定校制度
4　現行学習指導要領総則編（小・中・高）
5　現行教育課程の事例検討（小・中・高）
6　教育課程編成の構成要件
7　教育課程研究と教師

### 【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

## 教育課程

小栗正彦

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

### 【授業計画】

1　学生たちの経験した授業の数々
2　教育課程の哲学（思想）…アメリカにおける教育課程の考え方の歴史
3　教育課程の構造（編成）と法
4　近代日本の教育課程の歩み
5　戦後の教育課程変遷史（「学習指導要領」改訂の歴史）
6　新教育課程（1998年改訂の学習指導要領）を学ぶ
7　新教育課程の問題点１（ゆとり、学力低下問題、「生きる力」とは）
8　新教育課程の問題点２（「総合的な学習の時間」、「情報」）
9　新教育課程の問題点３（あたらしい実践の数々に学ぶ）
10　新教育課程の問題点４（小学校の英語教育を考える）
11　教育課程をどう編成するか（構成要件、基本原則）
12　各国にみる教育課程

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

「教育関係　基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 商業科教育法Ⅰ

宮部幸雄

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改定の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

【授業の目標】

新しい学習指導要領について理解を求めるとともに、具体的な学習計画の立案、実施などの経験的学習を通して、商業科の教師としての基礎的資質を身につける。

【授業計画】

1　学習指導要領と商業教育
（1）学習指導要領の性格及び構成
（2）商業の目標・組織・学科
2　教育課程の編成
3　指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画・学習指導案の作成
4　各科目の内容とねらい
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
5　授業の具体的展開
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法　（吉野弘一　著　実教出版株式会社）

## 商業科教育法Ⅱ

宮部幸雄

【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

【授業の目標】

「商業科教育法Ⅰ」に引き続き、商業の各分野に関する基礎的・基本的な科目を具体的な学習指導計画に基づいた模擬授業のあり方を中心に学習を進め、あわせて「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」について理解を深める中で、教職の使命とその特殊性・専門性について自覚を促す。

【授業計画】

1　学習指導と評価
（1）学習指導の一般原則
（2）学習指導の形態と方法
（3）商業教科の評価
2　各科目の内容とねらい
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
3　資格取得指導の現状と課題
4　商業高校における進路指導の視点　進学・就職
5　商業教育の将来

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法（吉野弘一　著　実教出版株式会社）

## 情報科教育法Ⅰ

松薗重弘

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することがある。

【授業の目標】

一般教科「情報A」、「情報B」、「情報C」の概要を理解する。

【授業計画】

1．情報科教育の史的展開と意義の概観
2．情報倫理、セキュリティの指導法
（1）情報科社会に正しく、主体的に参画する態度
（2）情報の受信と発信における個人の責任
3．高度情報化社会における職業倫理、職業観の指導法
（1）高度情報化の進展と職業及び職業人としてのあり方
（2）情報に関するスペシャリストに求められる諸資格
4．コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能の指導法
5．情報システムの設計、管理、運用に関する知識・技能の指導法
6．情報通信ネットワークの構築、運用管理、活用に関する知識・技能の指導法
7．マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技能の指導法

【評価方法】

提出された報告書により評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　海隆堂出版　2000）
全員必須とする。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 情報科教育法Ⅱ

松薗重弘

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Ⅰにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するに必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業の目標】

専門教科「情報」の11科目についてその概要を理解する。

【授業計画】

1．情報Aの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
2．情報Bの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
3．情報Cの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
4．専門教科「情報」の指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
5．総合的な学習の時間と情報化教育について、情報機器を活用した効果的な授業の具体的な展開
6．情報化技術の発展と学校における情報教育のあり方

【評価方法】

提出された学習指導案、レポート等により評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　海隆堂出版　2000）
全員必須とする。（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

## 特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。

「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1．自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自な価値を考える。
2．特別活動の歴史的変遷…『どくとるマンボウ青春記』や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3．学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げれない息苦しさというマイナス面を考察する。
4．生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5．学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
（1）儀式的行事　（2）学芸的行事　（3）健康安全・体育的行事　（4）遠足・集団宿泊的行事　（5）勤労生産・奉仕的行事　等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫　新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著　ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二他編　労働旬報社）
<子供>の誕生　（フィリップ・アリエス　杉山光信・杉山恵美子訳　みすず書房）
教養主義の没落（竹内洋　中公新書）
立身出世主義（竹内洋　NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋　講談社現代新書）
日本の近代12　学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋　中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子　行路社）
学級経営の歴史（志村廣明　三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎　平凡社）
<学級>の歴史学（柳治男　講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編　青弓社）
「校則」の研究（坂本秀夫　三一書房）
教育には何ができないか（広田照幸　春秋社）
教育学がわかる事典（田中智志　日本実業出版社）
教育に関する私の方法叙説（不和de民由　新風舎）

他

## 教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

人間回復の立場に立って、今日の教育状況を見直せる力量をつけ、具体的に学校や授業をどう展開したらよいか、その方法が考えられるようになる。

【授業計画】

1．人間回復の学力と教師の在り方
（1）中学・高校における学力論と教師論の検討
（2）生徒の思考の発展を目指す授業方法
（3）生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
（4）生徒の側に立った学習指導技術
2．情報機器及び教材の活用の方法
（1）情報機器の特色とその効果的な利用方法
（2）視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
（3）メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3．学習者にとって個を生かす学習集団とは
（1）多様化した生徒への対応の仕方
（2）中学校における個を生かす学習集団
（3）高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著　明治図書　2,370円）

## 生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1　いま学校では…
2　いまの生徒たちが育ってきた社会を見てみよう
3　「生徒指導の手引き」を読む（生徒指導の意義、「積極的」生徒指導とは、生徒指導の課題、生徒指導の基礎としての人間観）
4　青年期の心理と生徒指導
5　校則と生徒指導
6　教科と生徒指導
7　教育問題をドキュメントしたビデオを見て
8　新しい「荒れ」やいじめ、不登校についてどう対応するか
9　中・高校生徒の進路指導について（フリーター、ニート）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係　基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1．現代日本における青年期の特徴と問題点
2．日本における教育観の変遷と21世紀の教育観
3．生徒指導の基本的観点と今日的課題
4．生徒指導の方法――集団指導（HR指導を中心に）
5．生徒指導の方法――個別指導・問題行動をもつ生徒の指導
6．進路指導の基本的観点と進学・就職指導
7．人間の在り方を求めて――ヨーロッパ・アジア・日本

以上の項目について学習するが、生徒たちが生きている日本や世界の情勢にも、常に関心を持つことが大切である。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

学期始めに課題図書数冊を指定。『教師をめざす若者たち』（大橋功）など。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

冨安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識学ぶ。

### 【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒ー教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

### 【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．「自分」は他者との関係の中で育つ
3．教師･生徒の相互影響過程
4．生徒理解
5．学校における教育相談
6．教育相談の進め方
7．相談とカウンセリング
8．適応と不適応
9．問題行動のとらえ方とその対応
10．不登校を考える
11．いじめを考える
12．非行を考える

### 【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## カウンセリング

冨安玲子

### 【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。それらを体験的に理解し、傾聴について学ぶ。

### 【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

### 【授業計画】

1．教育相談とカウンセリングを巡って
2．カウンセリングの歴史
3．カウンセリングの人間観
4．カウンセリングの理論
5．カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6．共感的理解のエクササイズ
7．正確に「聴く」とは
8．カウンセリングの実際例
9．話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10．応答訓練
11．ロールプレイ
12．カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業の目標】

1．学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2．教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

### 【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．教師と生徒の人間関係
　・「自分」は他者との関係の中で育つ
　・教師ー生徒の相互影響過程
　・生徒理解
3．教育相談
　・学校における教育相談
　　教育相談の位置づけ、教育相談の特質
　・教育相談の進め方
　　カウンセリングの基礎
4．学校という生活環境と適応
　・適応と不適応
　・問題行動のとらえ方とその対応
　・学校への不適応を考える
　・非行・いじめを考える

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

小栗正彦　伊藤昭道　後口伊志樹　佐藤成哉　佐藤実芳
霜田一敏　冨安玲子　渡辺かよ子　羽場俊秀

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の９テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

（１）学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
（２）福祉ー障害のある人も健常な人も共に生きるコミュニティについてー（伊藤昭道）
（３）みんなの学校問題（小栗正彦）
（４）人間と自然環境（佐藤成哉）
（５）社会と子育て（佐藤実芳）
（６）高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
（７）ジェンダーと教育（冨安玲子）
（８）生涯学習における学校（渡辺かよ子）
（９）国際化を考える（羽場俊秀）

### 【授業の目標】

各先生方の示す課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

### 【授業計画】

※印は後期日程（於　星が丘）

1．全体、各テーマ別　８月11日　※１月31日
　（１）総合演習とは、これからのすすめ方
　（２）各テーマの概要説明（各担当者）
　（３）希望テーマ提出、テーマ別編成
　（４）各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2．8月29日　※２月20日
　課題レポートの提出（必要部数の印刷）
3．各テーマ別　９月１日　※２月23日
　（１）課題レポートについて報告（１人10～15分）
　（２）質疑応答、問題点について討議
4．各テーマ別　９月２日　※２月24日
　（１）問題点について分析検討
　（２）グループとして課題について整理、代表者の選出
5．全体　９月８日　※３月２日
　（１）グループ代表者の発表（１名15～20分）
　（２）担当教員の指導
　（３）感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

## 教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかり確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

### 【授業計画】

1．教育実習の意義と目的
　・前年度実習者からのアンケート結果
　・「先輩からの一言」
2．教育実習の内容と方法
　・教育実習の領域
　・教育実習の方法
3．教育実習記録
　・実習記録の意義
　・実習記録の方法
4．授業研究
　・教材研究、教具の意義
　・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5．教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6．介護体験事前指導
　・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
　・特別支援教育諸学校教育の理解
　・障害児（者）介護への心構え
7．介護体験事後指導
8．まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著　ジアーズ教育新社）使用。

## 教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

宮部幸雄

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業の目標】

1．教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2．教師として、生徒の指導に必要な、より実際的で専門的な知識と技能を習得する。
3．教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

### 【授業計画】

1．教育実習の意義と目的
2．教育実習の内容と方法
3．教育実習記録
4．授業研究
　・教材研究、教具の意義
　・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5．教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6．介護体験事前指導・事後指導

### 【評価方法】

授業内で発表する。

### 【テキスト】

教育実習を成功させよう　2006年版（小松喬生・次山信男編　一ツ橋書店）

## 教育実習Ⅰ

伊藤昭道

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。
実習校での３週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。
（1）学級担任として
　朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
　また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
（2）教科担任として
　前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
　後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
（3）特別活動として
　学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 教育実習Ⅱ

小栗正彦

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。
実習校での２週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。
（1）学級担任として
　朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
　また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
（2）教科担任として
　前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
　後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
（3）特別活動として
　学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

1 道徳と道徳教育
2 児童・生徒を生かす道徳教育
3　公教育における道徳教育の歴史
　・明治５年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
　・戦後の道徳教育の変遷
4　道徳性の発達理論と学校道徳教育
5　学校における道徳教育の実際
　・道徳教育の目標
　・道徳教育の内容
　・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
　・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
　・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

## 国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
　（1）近代化への萌芽
　（2）海外視察と帰国後の動向
　（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
　（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
　（1）学校教育における国際理解教育
　（2）海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

### 【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

### 【授業計画】

1．学校図書館の理念と教育的意義
　（1）学校教育における学校図書館の役割
　（2）館種別にみた図書館の世界
2．学校図書館の発展と課題
　（1）学校図書館法の成立と展開
　（2）国内外の先進事例
　（3）レファレンスサービスの実践
3．教育行政と学校図書館
4．学校図書館の経営
　学校図書館の経営組織のあり方
5．司書教諭の役割とその問題点
6．学校図書館メディアの内容と構成
7．学校図書館活動と社会のつながり

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 学習指導と学校図書館

加納篤憲

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業の目標】

学校図書館司書および司書教諭に必要な基礎的知識と心得を習得させるとともに、学習指導における学校図書館の重要性について認識させる。

### 【授業計画】

1．教育課程と学校図書館
2．学習活動を促進する学校図書館――実践例
3．学校図書館の現状と問題点――蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4．各教科・科目の学習指導と図書館――実践例
5．「総合学習」における図書館利用
6．図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7．図書館実習――テーマ学習における司書教諭の指導について
8．討論――中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

特になし

## 学校図書館メディアの構成

中村和夫

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業の目標】

1．学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
2．学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
3．これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

### 【授業計画】

1．　1．児童生徒が喜んで利用するメディア構成
　（1）現在の学校図書館メディアの実態分析
　（2）児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
　（3）児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2．教育課程にマッチしたメディア構成
　（1）教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
　（2）「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
　（3）「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3．情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
　（1）ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
　（2）FD、CD－ROM等の活字メディアに代わるもの
　（3）Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4．学校図書館メディアの組織化
　（1）分類の意義と分類作業の基本
　（2）目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

### 【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編　樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務　新改訂第3版　第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。
人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

### 【授業計画】

1．読書のよろこび
　（1）人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
　（2）代表的な先人の読書経験から学ぶ
2．人間形成と読書
　（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
　（2）少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
　（3）読書における、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
　（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
　（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
　（1）家庭・友人間での読書、対話、読書会
　（2）学区図書館を利用した共同研究
　5．読書の技術
　（1）情報化時代の読書のあり方
　（2）愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

# 情報メディアの活用

枝元益祐

## 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

## 【授業の目標】

教育の情報化にあって、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

## 【授業計画】

1．学校図書館と情報機器
　（1）学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
　（2）学校図書館に設置する情報機器
2．学校図書館とコンピュータとの関わり
　（1）図書検索とコンピュータ（OPAC）
　（2）インターネットを使用しての資料の収集
3．学校図書館の情報メディアの活用
　（1）視覚メディアとしてのVTR等
　（2）聴覚メディアとしてのDVD、CD等
　（3）活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
　（4）情報メディアの今後の動向とその対応

## 【評価方法】

授業内での課題及び試験による。

## 【テキスト】

使用しない。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】
現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業の目標】
わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

### 【授業計画】
生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

### 【評価方法】
おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】
テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】
授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

### 【授業の概要】
この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業の目標】
「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

### 【授業計画】
1．情報の流通過程
　情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2．図書館・情報サービスの世界
　構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3．協力と競合
　図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4．図書館員と情報専門職の世界
5．図書館情報学の未来

### 【評価方法】
平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】
図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

### 【授業の概要】
この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業の目標】
まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

### 【授業計画】
1．情報と知識の研究と実務に関わる分野
　図書館学/情報学/図書館情報学
　図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2．情報の概念
　概念・考え方・観点・立場
　定義の多様性と現象の多面性
　情報概念の歴史/情報・知識・データ
　定義の整理のための枠組み/構造的な理解
　認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3．情報検索の過程

### 【評価方法】
平常点、レポート、試験によって評価する。
注：「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

### 【テキスト】
図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館経営論

松下 鈞

### 【授業の概要】
図書館の技術的な面―分類・目録等―資料組織とは別に図書館運営上の諸問題―司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業の目標】
図書館運営に基本にあるさまざまな基準と現状の問題点を理解するとともに、地域と情報支援をキーワードとする様々な活動の可能性を考え、それらを実現する方策を検討する。

### 【授業計画】
1．図書館法成立までの動き
2．21世紀の図書館界が直面している諸問題
3．文化芸術振興基本法の動き
4．総合法律支援法（司法ネット法）の動き
5．インフォームド・コンセントと医療情報支援の動き
6．中小企業ビジネス支援ポータルサイトなどの動き
7．生涯学習と図書館サービス
8．指定管理者制度、ＰＦＩ、アウトソーシングと図書館
9．図書館員と労働裁判
10．顧客満足、目標管理の図書館経営
11．図書館活動の評価法
12．ネットワーキングとコンソーシアム
13．学術情報政策と情報専門職の養成

### 【評価方法】
出席（30%）、小レポート（30%）、最終レポート（40%）

### 【テキスト】
適宜プリントなどを配布する。

### 【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

**【授業の概要】**

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と肥大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

**【授業の目標】**

電子化する情報社会における図書館が直面する諸問題と図書館に期待されている情報サービスの多様性を理解し、21世紀の図書館と図書館員の活動の可能性を考える。

**【授業計画】**

1. イントロダクション「情報の自分史」
2. 検索の達人をめざす
3. 情報環境の変化と図書館
4. こどもと図書館
5. お年寄りと図書館
6. 地域におけるビジネス情報支援
7. 地域における医療情報支援
8. 地域における法律情報支援
10. 学術コミュニティと情報変革
11. 大学図書館の諸問題
12. 専門図書の諸問題
13. 指定管理者制度、アウトソーシング
14. 求められる情報専門家

授業は講義を中心とし、グループ学習を並行させて進めます。受講に先立って次のことをしておくこと。

a）「インタネット講習会」を受講しておくこと。
b）Ｇｏｏｇｌｅの「ヘルプ」をよく読み、検索オプション等などさまざまな機能を試行し、検索法などで初めて知り、驚いた機能に関して「Ｇｏｏｇｌｅで目からウロコ」というテーマの感想文（1600字程度）を授業開始前に提出する。

**【評価方法】**

出席（25%）、提出物（25%）、グループ学習への積極的な参加（20%）、期末レポート（30%）

**【テキスト】**

適宜プリントを配布する。

**【参考文献・資料】**

授業中に適宜紹介する。

## 情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

**【授業の概要】**

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。

あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

**【授業の目標】**

これまで学んだ図書館情報学の断片的な知識を、ある図書館の建築計画を立案する過程を通して総合的に理解し、人々の図書館機能への期待を如何に具体化するかを考える。

**【授業計画】**

1. イントロダクション
2. ある地域の地形、人口、産業などの構造
3. ひとびとの生活、その地域の歴史と文化
4. 競合する文化情報施設
5. 建築計画立案の基本的な考え方と技術
6. 情報サービス施設を設置する環境
7. サービス内容と施設・設備
8. バリアフリーとユニヴァーサル・デザイン
9. 情報支援サービス
10. 利用者像
11. スタッフ像
12. ランガナタンの「図書館学の５法則」

ある地域に住むひとびとのニーズに応えた情報サービス施設を立案します。

その過程で机上の図書館情報学の学習では学べなかったことを自ら学ぶことが期待されます。授業はグループ学習を中心に行います。グループ編成は担当教員が行います。

**【評価方法】**

出席（25%）、グループ研究への積極的な参加（20%）グループ発表（20%）最終個人レポート（35%）

**【テキスト】**

適宜プリントなどを配布する。

**【参考文献・資料】**

授業中に適宜紹介する。

## レファレンスサービス論

櫻木貴子

**【授業の概要】**

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

**【授業の目標】**

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

**【授業計画】**

1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
   - ・質問の受付から内容の確認へ
   - ・質問内容の分析から探索の実行へ
   - ・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

**【評価方法】**

平常点、レポート、試験によって評価する。

**【テキスト】**

使用せず（配付資料）。

**【参考文献・資料】**

講義において指示する。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

**【授業の概要】**

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

**【授業の目標】**

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

**【授業計画】**

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
   学術論文の特徴
   抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
   JDream
   DIALOG
   CSA
6. テーマ検索

**【評価方法】**

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

**【テキスト】**

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

### 【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文の特徴
　抄録・索引誌
3．CD-ROM検索
4．シソーラス
5．各種オンライン情報検索システム
　JDream
　DIALOG
　CSA
6．テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

中島玲子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業の目標】

情報検索および情報活用における実践的なスキルを身につける。

### 【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文
　抄録・索引誌
3．CD－ROM検索
4．シソーラス、統制語彙
5．オンライン情報検索システム
6．テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］
1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、LLIS（DIALOG）、CiNii（NII）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

### 【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］
1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、LLIS（DIALOG）、CiNii（NII）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

## 情報メディア基礎論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】
情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】
多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】
1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e－print
レター、editorial comment
（3）新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
（4）会議資料
学会、会議録
（5）特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
（8）インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】
平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

## 情報メディア基礎論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】
情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】
多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】
1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e－print
レター、editorial comment
（3）新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
（4）会議資料
学会、会議録
（5）特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
（8）インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】
平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

松井美紀

【授業の概要】
人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から，学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】
人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

【授業計画】
1　学問分野と情報メディア
2　自然科学分野と人文・社会科学分野
3　人文・社会情報メディア
3．1　美術分野
3．2　音楽分野
3．3　文学
3．4　ビジネス分野
3．5　法律分野
3．6　心理学
3．7　図書館情報学
4　情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】
平常点およびレポートによって評価する。

【テキスト】
三浦逸雄,野末俊比古編.専門資料論.東京,日本図書館協会,2005,140p,(JLA図書館情報学テキストシリーズ,8).(ISBN：4820405128)
この他に、配付資料。

## 情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】
自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。
1．環境としての学術情報
2．文献情報と文献調査
3．学術雑誌の歴史と生態
4．総合誌、レビュー誌、レター誌
5．日本からの英文論文発表
6．主要海外誌への日本からの発表傾向
7．生物医学雑誌への統一投稿規程
8．オーサーシップからみた学術論文
9．出版倫理と利害の衝突
10．ニュースメディアと学術雑誌
11．レフェリーシステム
12．一流誌への発表
13．インパクトファクターの批判的吟味
14．電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業の目標】
学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】
講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】
期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】
電子時代の学術雑誌（Lambert, J.著　日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W.著　出版同人）
歴史としての学問（中山茂著　中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著　中外医学社）
医学文献サーチガイド　第２版（山崎茂明著　日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著　丸善）

## 資料組織論

櫻木貴子

### 【授業の概要】
情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。
目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業の目標】
情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。
目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

### 【授業計画】
第１回　情報の組織化
第２回　目録
第３回　書誌コントロール
第４回　書誌ユーティリティ
第５回　目録規則
第６回　記述目録（１）AACR２r、NCR
第７回　記述目録（２）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
第８回　記述目録（３）各種記述フォーマット
第９回　メタデータ
第10回　主題目録（１）概要
第11回　主題目録（２）分類法
第12回　主題目録（３）主要分類法
第13回　主題目録（４）主要件名標目表
第14回　期末テスト

### 【評価方法】
平常点、レポート、試験

### 【テキスト】
初回時にテキスト配布。

### 【参考文献・資料】
書誌コントロールの課題（国立国会図書館編　日本図書館協会、2002）
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著　勁草書房、1998）
図書館ネットワーク―書誌ユーティリティの世界―（宮澤彰　丸善、2002）

## 資料組織演習

櫻木貴子

### 【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の２部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

### 【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

## 資料組織演習

松井美紀

### 【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の２部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

### 【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

### 【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

### 【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

### 【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

### 【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

## 図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

近藤洋子

### 【授業の概要】
図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

### 【授業の目標】
図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。
サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。
図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

### 【授業計画】
１　公立図書館の児童サービス
　（１）子どもの読書と児童図書館
　（２）児童図書館の意義と歴史
　（３）児童用資料の種類と特性（１）絵本・文学
　（４）児童用資料の種類と特性（２）ノンフィクション・その他
２　児童サービスの実際
　（５）児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
　（６）資料収集・蔵書構成、選書、貸出
　（７）予約・レファレンス、ブックトーク
　（８）よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
３　児童サービスの対象
　（９）乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
４　類縁機関との連携
　（10）学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
５　児童図書館員の専門性
　（11）養成と採用　ボランティア
６（12）児童サービスの現在と今後　見学レポートによる
７（13）実習・ストーリーテリング

### 【評価方法】
出席状況　平常点　図書館見学等レポートを総合評価

### 【テキスト】
別に使用せず、そのつどプリントを用意する

### 【参考文献・資料】
児童サービス論　新訂版（堀川照代編著　日本図書館協会）
児童サービス論（佐藤涼子編　教育史料出版会）
児童図書館のあゆみ（児童図書館研究会編　教育史料出版会）

## 情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1．古代文明のメディアと情報・知識活動
2．ギリシア・ローマにおける進展
3．中世の学術と書物・図書館
4．印刷革命

### 【評価方法】

出席点と定期試験　※出題形式については授業にて明示

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

## 情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

### 【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

### 【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

1）ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
2）メディアとは何か
3）情報機器の発展経緯と種類、機能
4）情報メディアの発展経緯と特性
5）視聴覚メディアの種類と特性
6）コンピュータの基本的な仕組み
7）図書館の機械化
8）データベースと情報検索
9）メディアの多様化と情報技術
10）インターネットについての基礎知識
11）インターネットによる情報発信
12）電子情報と知的所有権

### 【評価方法】

（1）出席状況（2）定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

## 情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

### 【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお，マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので，それらの内容に期待する学生には，別の科目や参考書等を紹介する。

### 【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

### 【授業計画】

1．印刷のもたらした近代
　学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2．図書館の世紀
3．書誌とドキュメンテーション
4．情報メディア技術の発達
5．20世紀の情報流通システムと情報検索
6．図書館学と情報学
7．未来を索めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

### 【評価方法】

出席点と、定期試験　※出題形式については授業にて明示

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

## 博物館概論

長谷川銹治

### 【授業の概要】
博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

### 【授業の目標】
学芸員として必要な基礎となる知識を学習する。

### 【授業計画】
ア　はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
イ　博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
ウ　博物館の始原… 博物館の始原をたずねてみる。
エ　博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
オ　近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
カ　近代博物館の出発Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
キ　ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
ク　アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
ケ　博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをみる。
コ　日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
　・幕末から明治期にかけての博物館の出発
　・国威の宣揚と博物館
　・通俗教育による教化と博物館
　・十五年戦争と博物館

### 【評価方法】
・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館概論

早川正一

### 【授業の概要】
「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。
次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業の目標】
この科目は、後期におこなう「博物館学各論Ⅰ」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

### 【授業計画】
博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銹治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】
学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

長谷川銹治

### 【授業の概要】
博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

### 【授業の目標】
学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

### 【授業計画】
ア　博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
イ　博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
ウ　博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
エ　博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
オ　学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
カ　予算など…博物館のマネージメントについて考える。
キ　博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備についてみる。
ク　博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
ケ　博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
コ　文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。

### 【評価方法】
・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅰ

早川正一

### 【授業の概要】
愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業の目標】
この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

### 【授業計画】
次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銹治　1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】
本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

### 【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

### 【授業の目標】

学芸員として必要な基本となる事項を実践をとおして学習する。

### 【授業計画】

ア「物」が博物館資料と位置づけられることを考える。
イ　博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
　1　資料の収集
　2　資料の取扱い
　　・掛軸
　　・古文書　・和装本
　　・やきもの　・茶碗
　　・瓦
　　・刀、太刀
　3　資料の整理・保存
　4　資料の保全
ウ　資料情報の管理についてその実際を探る。
エ　博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

### 【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館学各論Ⅱ

川合 剛

### 【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の３つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

### 【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

### 【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。
(a) 博物館と博物館資料
(b) 資料を記録する技術
　拓本・実測・写真など。
(c) 資料を扱う技術
　掛け軸・巻子・和本・陶磁器・考古資料など。
(d) 資料を保管・保存する技術
　ドキュメンテーション・保存科学など。
(e) 博物館と調査・研究

### 【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、（時間内の）小テストの結果も勘案する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

### 【授業計画】

1．博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2．資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3．資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
　やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4．資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5．資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6．資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7．資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
　また、４年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

### 【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 博物館実習

長谷川銹治

### 【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

### 【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

### 【授業計画】

ア　展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
　1　展示とは
　2　展示のポイント
　　・動線　・視線　・照明　・温度　・湿度
　3　展示の施設
　4　展示のプロセス
　5　展示と保全
イ　生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
ウ　学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
　1　博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
　2　館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
　3　海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
　4　県外実習……２、３に参加できない者は、９月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれリポートを提出。評価の対象とする。
・その都度、提出させるリポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。

また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

### 【授業計画】

1．展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2．展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3．展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4．展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5．展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

●土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
●夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

新訂博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業の目標】

わが国のこれまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。（詳細は授業にて解説する。

### 【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

## 博物館実習

松村冬樹

### 【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

### 【授業の目標】

博物館や美術館の専門知識を基礎とした鑑賞法を学ぶとともに、社会人として、ゆたかな教養をはぐくむための「考え方・学び方」を習得してもらう。

### 【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配付する。

（a）「展示」とは
（b）展示のプロセス
（c）展示の実際　（仮想展覧会企画）
（d）展示と解説
（e）印刷物　（ポスター、ビラ、図録）
（f）まとめ
＊1　土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
＊2　夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
＊3　夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
※　＊2、＊3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

### 【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

## 視聴覚教育メディア論

藤井 信

### 【授業の概要】

情報社会における視聴覚教育の特性や情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

### 【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割を理解する。情報メディアの特性を把握し送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

### 【授業計画】

1　視聴覚教育の意義
　1－1　視聴覚教育の目標
　1－2　視聴覚教材の役割と特性
　1－3　情報機器・視聴覚機器と機能

2　宗教における視聴覚の役割
　2－1　宗教における荘厳
　2－2　宗教における音声
　2－3　宗教における絵画・彫刻

3　情報の活用とリテラシー
　3－1　情報とメディア
　3－2　情報の記録と保存
　3－3　情報の信憑性
　3－4　プレゼンテーションの意義と機能
　3－5　情報モラル
　3－6　マルチメディア　リテラシー

4　博物館・美術館におけるプレゼンテーション
　4－1　展示の機能と効果
　4－2　補足資料

### 【評価方法】

レポートおよび期末テストで評価する

### 【テキスト】

特になし
プリントを配布

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する

## 教育学概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

### 【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視角から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

1－2　教育学の概念
3－4　教育学の歴史
5　教育学の課題
6－8　学校と教育
9－11　社会と教育
12－14　家庭と教育
15　総括

### 【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

1．民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

### 【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

## 美術史

高橋秀治

### 【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

### 【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

### 【授業計画】

1～4　印象派からシュルレアリスムへ
・産業革命と芸術
・写真と絵画
・時間表現
・心理学
5～8　激動の時代と美術
・第一次世界大戦
・反芸術
・第二次世界大戦
・工業社会
9～12　アメリカ美術の時代
・巨大絵画
・アメリカン・ドリーム
・文明の廃棄物
・エコロジー
13～15　ニューメディアと美術
・ニューメディア
・身体表現

### 【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

### 【テキスト】

とくになし

### 【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

## 文化史

秋元悦子

### 【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

### 【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解読することができることを目標としている。

### 【授業計画】

1．履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2．歴史地理学概説
3．中国と日本のの自然地理を知る
4．自然地理と歴史の関係概説　史前期から近代まで
ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代
中国歴代王朝と都の位置
5．中国人の地域概念
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6．古代中国の地域と現状
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7．中国の気候変遷と歴史の関係
8．地形図にみる地域と歴史
中国地形図の種類と現状

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

### 【参考文献・資料】

世界の歴史と文化　中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修　新潮社）
また、授業中に各種文献を紹介する。

# 考古学

赤羽一郎

## 【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際の道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

## 【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

## 【授業計画】

1　考古学の理念と方法論
2　日本考古学の発展　ア　原始
3　　〃　　イ　古代・中世
4　　〃　　ウ　近世以降
5　文化財としての遺跡・遺物

随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

## 【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

## 【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

## 【参考文献・資料】

特になし。

## 英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

### 【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約３週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は８月中旬から９月中旬の約１ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける１日（９:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

午前　少人数制英会話クラスと総合英語の授業

午後　アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

### 【授業の目標】

＊英語表現能力を高めること。
＊アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
＊ウエスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
＊海外生活を通して、自立性を養成すること。

### 【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

### 【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

### 【テキスト】

現地にて用意される。

### 【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

## 英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

### 【Course description】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

### 【Course objectives】

This course hopes to improve students' fluency and confidence in using English. Being emerced in English, it is hoped students will stop translating and interpreting into Japanese, but to understand and think in English.

This ability will assist the students greatly in the listening comprehension section of the TOEIC test.

### 【Course schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and the interactive science museum "Questacon".

The course will conclude with a 4 day excursion to Jervis Bay and then on to Sydney, activities and sight seeing are preplanned.

### 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

### 【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

## 米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

### 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして、毎年２月中旬から約１ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

### 【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

### 【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

### 【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

### 【テキスト】

米国側提出の英文資料

### 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## 中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

１．南京師範大学において４週間の中国語研修を行う。
◎　月曜～金曜の午前中は８：00～11：30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
◎　午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
◎　夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
◎　土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
◎　風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。
２．言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した５日間ほどの研修旅行。
３．定員は20名程度。
４．今年度の２月中旬から３月中旬にかけて実地する。
５．終了者に２単位を認定する。

### 【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って２ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の３級を取ることを目標とする。

### 【授業計画】

４月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。９月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を２回ほど、オリエンテーションを１回実施する。詳しくは掲示を見る。２月中旬に出発し、３月中旬に帰国する。費用は25万程度。

### 【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

### 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

# 韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ（韓国）

キム ソヨン

## 【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる２泊３日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の８月中の３～４週間
内容：
1．韓国語研修
　a．梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
　b．実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
　c．入門の１段階から最上級の６段階に分けられたクラス編成
　d．専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2．韓国文化研修
　a．芝居鑑賞
　b．板門店の訪問
　c．ホームステイ（２泊３日）
3．日韓学生共同プログラム
　a．毎週１回程度の頻度
　b．テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
　c．テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪（文化財踏査）」、「韓国の民俗と礼節」など
4．その他の課外活動

## 【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活で必要な意思疎通のための韓国語（サバイバル韓国語）を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

## 【授業計画】

４～５月：ガイダンス、参加者の募集および決定
６～７月：数回の事前研修
８月：現地研修
９～11月：事後研修および報告書のまとめ

## 【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

## 【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」（梨花女子大学校出版部）中
その他は特になし

# Japan's Global Interface Ⅱ

藤井正志　太田浩司　宮田 Susanne　ブイ チ トルン
國信潤子　梅田敏文　JOLLY, James A.　福本明子

## 【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan' s global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

## 【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通し日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

## 【授業計画】

| | | |
|---|---|---|
| 1 | FUJII, Masashi | Introduction |
| 2 | OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 3 | OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 4 | MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 5 | MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 6 | BUI, Chi Trung | Intercultural Communication Through NPO Activities |
| 7 | KUNINOBU, Junko | Gender Relations in Japanese Society |
| 8 | UMEDA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 9 | UMEDA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 10 | FUKUMOTO, Akiko | History and Representations |
| 11 | FUKUMOTO, Akiko | History and Representations |
| 12 | JOLLY, James | Developing International Business Practices |
| 13 | JOLLY, James | Developing International Business Practices |

## 【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

To be announced

## 【参考文献・資料】

To be announced

# Japan's Global Interface Ⅰ

藤井正志　森下允之　福本明子　真田幸光　JOLLY, James A.

## 【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に議論し、日本社会・文化をより深く認識する。同時に、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan' s global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:
- Special Credit-Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

## 【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通し、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養うこと。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

## 【授業計画】

Schedule

| | | |
|---|---|---|
| 1 | FUJII, Masashi | Introduction |
| 2 | FUJII, Masashi | Business Society in Japan |
| 3 | FUKUMOTO, Akiko | Intellectual Property and Cultures |
| 4 | FUKUMOTO, Akiko | Intellectual Property and Cultures |
| 5 | FUKUMOTO, Akiko | Intellectual Property and Cultures |
| 6 | SANADA, Yukimitsu | East Asian Economy and Japan |
| 7 | SANADA, Yukimitsu | East Asian Economy and Japan |
| 8 | MORISHITA, Tadayuki | Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 9 | MORISHITA, Tadayuki | Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 10 | MORISHITA, Tadayuki | Overseas Strategy of Japanese Firms |
| 11 | JOLLY, James | International Business and Law |
| 12 | JOLLY, James | International Business and Law |
| 13 | JOLLY, James | International Business and Law |

## 【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

## 【テキスト】

To be announced

## 【参考文献・資料】

To be announced

# スポーツ特殊講座

松田秀子

## 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

## 【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

## 【授業計画】

〔ボウリング〕
1．実習日時　平成18年９月６日（水）・７日（木）・８日（金）
　　11日（月）・12日（火）・13日（水）
　　計６日間　９：30～12：40
2．説明会　日時　平成18年７月５日（水）12：30～13：15
　　場所　長久手キャンパス体育館１階　多目的室
　　実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
　　参加できない場合は事前に長久手キャンパス
　　健康科学教育センターに問い合わせること。
　　説明会の欠席者は受講を認めません。
3．場所　星ヶ丘ボウル
4．実習費　6,000円
　　（平成17年度のものですので変更する場合があります）
5．定員　60名
6．内容
　　１日目　開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
　　２日目　ボウリングの歴史、基本動作
　　３日目　ボールのコントロール、軌道調整
　　４日目　アジャスティングの基本と実践、３－２－１理論
　　５日目　レーンコンディションとボールの曲がり
　　ストライクアングルの実践練習
　　６日目　競技会説明、競技会（アメリカン方式３ゲーム）、閉講式

## 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## スポーツ特殊講座

松田秀子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業の目標】

スケートの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

### 【授業計画】

〔スケート〕

1．実習日時　平成19年２月７日（水）・８日（木）・９日（金）
13日（火）・14日（水）・15日（木）
計６日間　９：30〜12：40

2．説明会　日時　平成19年１月10日（水）12：30〜13：15
場所　長久手キャンパス体育館１階　多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。

3．場所　名古屋スポーツセンター（大須）

4．実習費　7,200円
（平成17年度のものですので変更する場合があります）

5．定員　40名

6．内容
1日目　開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目　自然滑走、正しい押し出し
3日目　フォアスケーティング・カーブ滑走
4日目　ストップ、バックスケーティングの基本
5日目　クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目　総合練習、実技テスト、閉講式

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## 初級簿記（３級程度）　＊基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定３級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。前期は２コマ（３時間）ずつ週２回のペースで、後期は２コマ（３時間）ずつ週１回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定３級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定３級に合格すること。

### 【授業計画】

第１回　簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
第２回　試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
第３回　手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
第４回　その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
第５回　主要簿および補助簿、伝票
第６回　直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
第７回　決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
第８回　決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
第９回　決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
第10回　直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
第11回　直前答練第１回、解説
第12回　直前答練第２回、解説
第13回　直前答練第３回、解説
第14回　全国公開模擬試験、解説
第15回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（２級程度）Ａ　＊商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（２級程度）Ｂで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

### 【授業計画】

第１回　簿記一巡、固定資産
第２回　減価償却、銀行勘定調整表、引当金
第３回　その他の引当金、商品の評価、税金
第４回　株式の発行、利益処分
第５回　会社の合併、社債の発行、決算整理
第６回　社債の償還、決算法、財務諸表
第７回　伝票会計
第８回　帳簿組織
第９回　特殊商品売買
第10回　仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
第11回　債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
第12回　本支店会計
第13回　総まとめ
第14回　単位認定試験第１回
第15回　単位認定試験第２回

### 【評価方法】

２回の単位認定試験の成績に応じて評価をする。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（２級程度）Ｂ　＊工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（２級程度）Ａで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

### 【授業計画】

第１回　工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
第２回　材料費会計
第３回　労務費会計
第４回　経費会計、製造間接費会計
第５回　工企業の財務諸表
第６回　部門別会計、工場会計
第７回　工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
第８回　単純総合原価計算
第９回　減損および仕損
第10回　組別・等級別原価計算
第11回　標準原価計算
第12回　損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
第13回　総まとめ
第14回　単位認定試験第１回
第15回　単位認定試験第２回

### 【評価方法】

２回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（２級程度）C　＊実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は中級簿記（２級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

### 【授業計画】

第１回　直前答練第１回、解説
第２回　直前答練第２回、解説
第３回　直前答練第３回、解説
第４回　直前答練第４回、解説
第５回　全国公開模擬試験、解説
第６回　ファイナルチェック問題、解説
第７回　直前総まとめ
第８回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（１級程度）B　＊会計学

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

### 【授業計画】

第１回　現金および預金、債権、有価証券
第２回　金融資産および金融負債、デリバティブ取引
第３回　ヘッジ会計、為替換算会計
第４回　外貨建取引処理基準、為替予約
第５回　税効果会計、一時差異等の会計処理Ⅰ
第６回　一時差異等の会計処理Ⅱ
第７回　本支店会計
第８回　連結会計、取得日連結
第９回　連結会計、取得後連結Ⅰ
第10回　連結会計、取得後連結Ⅱ
第11回　連結会計、持分の段階取得、売却、増資
第12回　持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
第13回　キャッシュ・フロー会計
第14回　連結キャッシュ・フロー会計
第15回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（１級程度）A　＊商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定１級を合格すること。

### 【授業計画】

第１回　総論、企業会計原則、簿記一巡
第２回　一般販売、特殊商品売買Ⅰ
第３回　特殊商品売買Ⅱ
第４回　特殊商品売買Ⅲ
第５回　棚卸資産
第６回　固定資産Ⅰ
第７回　固定資産Ⅱ
第８回　減損会計、繰延資産
第９回　研究開発費、引当金Ⅰ
第10回　引当金Ⅱ、退職給付会計Ⅰ
第11回　退職給付会計Ⅱ、社債Ⅰ
第12回　社債Ⅱ、資本Ⅰ
第13回　資本Ⅱ
第14回　合併会計、会社分割
第15回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（１級程度）C　＊原価計算

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

### 【授業計画】

第１回　総論、原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ
第２回　原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ
第３回　予算編成
第４回　予算統制Ⅰ
第５回　予算統制Ⅱ、売上数量差異の分析
第６回　事業部制、セグメント別損益計算
第７回　業務的意思決定Ⅰ
第８回　業務的意思決定Ⅱ
第９回　業務的意思決定Ⅲ、最適セールス・ミックス
第10回　構造的意思決定Ⅰ、設備投資の意思決定
第11回　構造的意思決定Ⅱ
第12回　構造的意思決定Ⅲ
第13回　戦略的原価計算Ⅰ、品質原価計算
第14回　戦略的原価計算Ⅱ、原価企画、活動基準原価計算
第15回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）D　＊工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

第1回　総論、単純個別原価計算
第2回　部門別個別原価計算
第3回　部門別計算Ⅰ
第4回　部門別計算Ⅱ
第5回　実際総合原価計算Ⅰ、総論
第6回　全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
第7回　実際総合原価計算Ⅱ、減損、仕損
第8回　実際総合原価計算Ⅲ、異常減損・仕損
第9回　工程別総合原価計算
第10回　組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
第11回　標準原価計算Ⅰ
第12回　標準原価計算Ⅱ、歩減が発生する場合
第13回　標準原価計算Ⅲ、配合差異・歩留差異
第14回　工程別標準原価計算、直接標準原価計算
第15回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）E　＊実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

第1回　直前答練第1回、解説
第2回　直前答練第2回、解説
第3回　直前答練第3回、解説
第4回　直前答練第4回、解説
第5回　全国公開模擬試験、解説
第6回　ファイナルチェック問題、解説
第7回　直前総まとめ
第8回　単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト